

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	コリツカガクホジノトヤマカガク 国立大学法人富山大学								
フリガナ大学の名称	トヤマカガクガクイン 富山大学大学院 (University of Toyama Graduate School)								
大学本部の位置	富山県富山市五福3190								
大学の目的	本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	本学総合医薬学研究科は、医学、薬学及び看護学を総合した特色ある教育と研究を礎とし、幅広い知識を基盤とする高い専門性と人間尊重の精神を基本とする豊かな創造力を培い、学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる総合的な判断力を有する高度医療専門職業人又は教育研究者としての人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 医学部 薬学部
	総合医薬学研究科 [Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences] 総合医薬学専攻 [Studies in Medicine and Pharmaceutical Sciences] 計	年	人	年次人	人	修士（医科学） 【Master of Medical Sciences】 修士（看護学） 【Master of Nursing Sciences】 修士（薬科学） 【Master of Pharmaceutical Sciences】	令和4年4月 第1年次	富山市杉谷2630	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	○学生募集の停止 人間発達科学部（廃止） 発達教育学科 (△80) 人間環境システム学科 (△90) 人文科学研究科（廃止） 人文科学専攻 (△8) 人間発達科学研究科（廃止） 発達教育専攻 (△6) 発達環境専攻 (△6) 経済学研究科（廃止） 地域・経済政策専攻 (△6) 企業経営専攻 (△12) 芸術文化科学研究科（廃止） 芸術文化学専攻 (△8)								

同一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	医学薬学教育部						
	医科学専攻 (廃止)	(△15)					
	看護学専攻 (廃止)	(△16)					
	薬科学専攻 (廃止)	(△35)					
	理工学教育部						
	数学専攻 (廃止)	(△ 8)					
	物理学専攻 (廃止)	(△12)					
	化学専攻 (廃止)	(△12)					
	生物学専攻 (廃止)	(△12)					
	地球科学専攻 (廃止)	(△10)					
	生物圏環境科学専攻 (廃止)	(△10)					
	電気電子システム工学専攻 (廃止)	(△33)					
	知能情報工学専攻 (廃止)	(△27)					
	機械知能システム工学専攻 (廃止)	(△33)					
	生命工学専攻 (廃止)	(△18)					
	環境応用化学専攻 (廃止)	(△22)					
	材料機能工学専攻 (廃止)	(△20)					
	○設置						
	[学部]						
	教育学部共同教員養成課程	(85)	(令和3年9月届出予定)				
	[大学院]						
	人文社会芸術総合研究科 人文社会芸術総合専攻 (M)	(46)	(令和3年8月届出予定)				
	総合医薬学研究科 総合医薬学専攻 (M)	(66)	(令和3年8月届出予定)				
	理工学研究科 理工学専攻 (M)	(288)	(令和3年8月届出予定)				
	持続可能社会創成学環 (M)	(18)	(令和3年8月届出予定)				
	医薬理工学環 (M)	(37)	(令和3年8月届出予定)				
○名称変更							
令和4年4月名称変更予定							
理学部							
生物圏環境科学科 → 自然環境科学科							
○入学定員変更							
人文学部							
人文学部[定員増]	(18)	(令和4年4月)					
経済学部							
経済学科[定員増]	(15)	(令和4年4月)					
経営学科[定員増]	(8)	(令和4年4月)					
経営法学科[定員増]	(7)	(令和4年4月)					
理学部							
数学科[定員減]	(△5)	(令和4年4月)					
生物学科[定員増]	(3)	(令和4年4月)					
生物圏環境科学科[定員増]	(5)	(令和4年4月)					
薬学部							
薬学科[定員増]	(15)	(令和4年4月)					
創薬科学科[定員減]	(△15)	(令和4年4月)					
工学部							
工学科[定員増]	(15)	(令和4年4月)					
都市デザイン学部							
都市・交通デザイン学科[定員増]	(14)	(令和4年4月)					
材料デザイン工科[定員増]	(5)	(令和4年4月)					
教育 課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	※卒業要件単位 について看護系 は例外あり
	総合医薬学研究科	講義	演習	実験・実習	計		
		91科目	44科目	18科目	154科目	30単位 ※	

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
新 設 分	人文社会芸術総合研究科 人文社会芸術総合専攻（修士課程）	人	人	人	人	人	人	人	人	※令和3年8月設置届出予定 ※令和3年8月設置届出予定 ※令和3年8月設置届出予定 ※令和3年8月設置届出予定 ※令和3年8月設置届出予定 ※令和3年8月設置届出予定 （注） <>の中の数は研究科等連係課程実施基本組織のみに従事する専任教員。 【】の中の数は研究科等連係課程実施基本組織と連係協力研究科等を兼ねる専任教員。
		66 (66)	50 (50)	21 (21)	0 (0)	137 (137)	0 (0)	26 (26)		
	総合医薬学研究科 総合医薬学専攻（修士課程）	68 (68)	50 (50)	10 (10)	5 (5)	133 (133)	0 (0)	40 (40)		
		理工学研究科 理工学専攻（修士課程）	91 (93)	63 (63)	17 (17)	29 (29)	200 (202)	0 (0)	34 (34)	
	研究科等連係課程実施基本組織 持続可能社会創成学環（修士課程）		<1> 【17】 (18)	<2> 【9】 (11)	<1> 【1】 (2)	<1> 【2】 (3)	<5> 【29】 (34)	<0> 【0】 (0)	<0> 【39】 (39)	
		研究科等連係課程実施基本組織 医薬理工学環（修士課程）	<0> 【50】 (50)	<2> 【23】 (25)	<0> 【7】 (7)	<3> 【3】 (6)	<5> 【83】 (88)	<0> 【0】 (0)	<0> 【80】 (80)	
	連係協力研究科（Ⅰ） 人文社会芸術総合研究科 人文社会芸術総合専攻 連係協力研究科（Ⅱ） 理工学研究科 理工学専攻		226 (228)	167 (167)	49 (49)	38 (38)	480 (482)	0 (0)	- (-)	
		研究科等連係課程実施基本組織 総合医薬学研究科 総合医薬学専攻 連係協力研究科（Ⅱ） 理工学研究科 理工学専攻	6 (6)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	
	既 分 設		6 (6)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	- (-)	
		合計	232 (234)	173 (173)	52 (52)	38 (38)	495 (497)	0 (0)	- (-)	
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		379 (379) 人		63 (63) 人		442 (442) 人			
	技 術 職 員		955 (955)		34 (34)		989 (989)			
	図 書 館 専 門 職 員		18 (18)		0 (0)		18 (18)			
	そ の 他 の 職 員		22 (22)		15 (15)		37 (37)			
計		1,374 (1,374)		112 (112)		1,486 (1,486)				
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計	
	校 舎 敷 地		518,141 m ²		-		-		518,141 m ²	
	運 動 場 用 地		105,572 m ²		-		-		105,572 m ²	
	小 計		623,713 m ²		-		-		623,713 m ²	
	そ の 他		89,909 m ²		-		-		89,909 m ²	
合 計		713,622 m ²		-		-		713,622 m ²		
校 舎		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計		
		228,130 m ² (228,130 m ²)		-		-		228,130 m ² (228,130 m ²)		
教 室 等	講義室		演習室		実験演習室		情報処理学習施設		語学学習施設	
	131 室		238 室		653 室		21 室 (補助職員14人)		3 室 (補助職員0人)	
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		総合医薬学研究科			141 室					

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での 特定不能なた め、大学全体の 数		
	大学全体	1,346,198〔424,333〕 (1,346,198〔424,333〕)	23,029〔7,203〕 (23,029〔7,203〕)	15,147〔13,627〕 (15,147〔13,627〕)	18,448 (18,448)	37 (37)	0 (0)			
	計	1,346,198〔424,333〕 (1,346,198〔424,333〕)	23,029〔7,203〕 (23,029〔7,203〕)	15,147〔13,627〕 (15,147〔13,627〕)	18,448 (18,448)	37 (37)	0 (0)			
図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数			大学全体		
	13,840 m ²		1,512		1,056,750					
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
	7,112 m ²		弓道場・武道館 プール・テニスコート							
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による	
	教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—		
	共同研究費等		—	—	—	—	—	—		
	図書購入費	—	—	—	—	—	—	—		
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
— 千円		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			—							
既設大学等の状況	大学の名称	富山大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	備考
	人文学部	年	人	年次人	人		倍		富山県富山市五福3190番地	
	人文学科	4	170	3年次7	694	学士(文学)	1.04	昭和52		
	人間発達科学部						1.03		富山県富山市五福3190番地	
	発達教育学科	4	80	-	320	学士(教育学)	1.05	平成17		
	人間環境システム学科	4	90	-	360	学士(教育学)	1.02	平成17		
	経済学部						-		富山県富山市五福3190番地	
	(昼間主コース)						1.02			
	経済学科	4	120	3年次4	488	学士(経済学)	1.04	平成30		
	経営学科	4	100	3年次4	408	学士(経営学)	1.01	平成30		
	経営法学科	4	85	3年次2	344	学士(法学)	1.01	平成30		
	(夜間主コース)						1.03			
	経済学科	4	10	-	40	学士(経済学)	1.07	平成30		
	経営学科	4	10	-	40	学士(経営学)	1.02	平成30		
経営法学科	4	10	-	40	学士(法学)	1.00	平成30			
理学部						1.04		富山県富山市五福3190番地		
数学科	4	50	-	200	学士(理学)	1.02	昭和52			
物理学科	4	40	3年次1	162	学士(理学)	1.06	昭和52			
化学科	4	35	3年次1	142	学士(理学)	1.05	昭和52			

既設大学等の状況	生物学科	4	35	3年次 1	142	学士 (理学)	1.05	昭和52		
	地球科学科	4	-	-	-	学士 (理学)	-	昭和52		※平成30年度より学生募集停止
	生物圏環境科学科	4	30	3年次 1	122	学士 (理学)	1.05	平成5		
	医学部						1.00		富山県富山市杉谷 2630番地	
	医学科	6	105	2年次 5	655	学士 (医学)	1.00	昭和50		
	看護学科	4	80	3年次 10	340	学士 (看護学)	1.00	平成5		
	薬学部						1.03		富山県富山市杉谷 2630番地	
	薬学科	6	55	-	330	学士 (薬学)	1.04	平成18		
	創薬科学科	4	50	-	200	学士 (薬科学)	1.05	平成18		
	工学部						1.02		富山県富山市五福 3190番地	
	工学科	4	365	3年次 17	1,494	学士 (工学)	1.02	平成30		
	電気電子システム工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成9		※平成30年度より学生募集停止
	知能情報工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成9		※平成30年度より学生募集停止
	機械知能システム工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成9		※平成30年度より学生募集停止
	生命工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成20		※平成30年度より学生募集停止
	環境応用化学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成20		※平成30年度より学生募集停止
	材料機能工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成20		※平成30年度より学生募集停止
	芸術文化学部						1.04		富山県高岡市二上 町180番地	
	芸術文化学科	4	110	-	440	学士 (芸術文化学)	1.04	平成17		
	都市デザイン学部						1.04		富山県富山市五福 3190番地	
	地球システム科学科	4	40	-	160	学士 (理学)	1.01	平成30		
	都市・交通デザイン学科	4	40	3年次 1	162	学士 (工学)	1.04	平成30		
	材料デザイン工学科	4	60	3年次 2	244	学士 (工学)	1.08	平成30		
大学全体	-	1,770	56	7,527	-	-	-			
人文科学研究科 (修士課程)						0.93		富山県富山市五福 3190番地		
人文科学専攻	2	8	-	16	修士 (文学)	0.93	平成23			
人間発達科学研究科 (修士課程)						0.83		富山県富山市五福 3190番地		
発達教育専攻	2	6	-	12	修士 (教育学)	0.58	平成23			
発達環境専攻	2	6	-	12	修士 (教育学)	1.08	平成23			

既設大学等の状況	経済学研究科						0.88		富山県富山市五福3190番地
	(修士課程)								
	地域・経済政策専攻	2	6	-	12	修士(経済学)	0.83	平成3	
	企業経営専攻	2	12	-	24	修士(経営学)	0.91	平成3	
	芸術文化学研究科						1.24		富山県高岡市二上町180番地
	(修士課程)								
	芸術文化学専攻	2	8	-	16	修士(芸術文化学)	1.24	平成23	
	生命融合科学教育部						0.57		
	(博士課程)								
	認知・情動脳科学専攻	4	9	-	36	博士(医学)	0.62	平成18	富山県富山市杉谷2630番地
	生体情報システム科学専攻	3	4	-	12	博士(薬科学、理学又は工学)	0.50	平成18	富山県富山市五福3190番地
	先端ナノ・バイオ科学専攻	3	4	-	12	博士(薬科学、理学又は工学)	0.25	平成18	同上
	医学薬学教育部						0.81		富山県富山市杉谷2630番地
	(修士課程)						0.19		
	医科学専攻	2	15	-	30	修士(医科学)	0.19	平成18	
	(博士前期課程)						1.00		
	看護学専攻	2	16	-	32	修士(看護学)	0.40	平成27	
	薬科学専攻	2	35	-	70	修士(薬科学)	1.28	平成22	
	(博士後期課程)						1.03		
	看護学専攻	3	3	-	9	博士(看護学)	0.88	平成27	
	薬科学専攻	3	8	-	24	博士(薬科学)	1.08	平成24	
	(博士課程)						0.73		
	生命・臨床医学専攻	4	18	-	72	博士(医学)	0.97	平成18	
	東西統合医学専攻	4	7	-	28	博士(医学)	0.42	平成18	
	薬学専攻	4	4	-	16	博士(薬学)	0.25	平成24	
	理工学教育部						1.29		富山県富山市五福3190番地
(修士課程)						1.30			
数学専攻	2	8	-	16	修士(理学)	0.93	平成18		
物理学専攻	2	12	-	24	修士(理学)	0.91	平成18		
化学専攻	2	12	-	24	修士(理学)	1.37	平成18		
生物学専攻	2	12	-	24	修士(理学)	1.41	平成18		
地球科学専攻	2	10	-	20	修士(理学)	1.05	平成18		
生物圏環境科学専攻	2	10	-	20	修士(理学)	1.20	平成18		
電気電子システム工学専攻	2	33	-	66	修士(工学)	1.19	平成18		
知能情報工学専攻	2	27	-	54	修士(工学)	1.60	平成18		

既設 大学等 の 状況	機械知能システム工学専攻	2	33	-	66	修士 (工学)	1.52	平成18	富山県富山市五福 3190番地
	生命工学専攻	2	18	-	36	修士 (工学)	1.10	平成24	
	環境応用化学専攻	2	22	-	44	修士 (工学)	1.09	平成24	
	材料機能工学専攻	2	20	-	40	修士 (工学)	1.60	平成24	
	(博士課程)						1.33		
	数理・ヒューマンシステム科学専攻	3	5	-	15	博士 (理学又は工学)	1.66	平成18	
	ナノ新機能物質科学専攻	3	4	-	12	博士 (理学又は工学)	1.66	平成18	
	新エネルギー科学専攻	3	3	-	9	博士 (理学又は工学)	0.88	平成18	
	地球生命環境科学専攻	3	4	-	12	博士 (理学又は工学)	0.91	平成18	
	教職実践開発研究科 (専門職学位課程)						1.03		
教職実践開発専攻	2	14	-	28	教職修士 (専門職)	1.03	平成28		
大学院全体	-	416	-	943	-	-	-	-	

名称： 附属病院

目的： 診療を通じて医学、薬学の教育及び研究を行うことを目的とする。
所在地： 富山市杉谷2630
設置年月： 昭和54年4月
規模等： 建物 45,302㎡

名称： 和漢薬学総合研究所

目的： 和漢薬に関する学理及びその応用の研究を行うことを目的とする。
所在地： 富山市杉谷2630
設置年月： 昭和49年6月（富山大学附置和漢薬研究所）
昭和53年6月（富山医科薬科大学附置和漢薬研究所）
規模等： 建物 3,486㎡

名称： 附属図書館

目的： 大学の理念・目標に基づき、教育及び研究に必要な図書、雑誌、データベースその他の資料を収集し、管理し、職員及び学生の利用に供することを目的とする。
所在地： （中央図書館）富山市五福3190
（医薬学図書館）富山市杉谷2630
（芸術文化図書館）高岡市二上町180
設置年月： （中央図書館）昭和24年5月
（医薬学図書館）昭和50年10月
（芸術文化図書館）昭和62年3月
規模等： （中央図書館）4,557㎡
（医薬学図書館）3,285㎡
（芸術文化図書館）966㎡

名称： 教育・学生支援機構

目的： アドミッションポリシーで求める人材の確保、教育の質保証及び教育の質の向上並びに学生の充実した修学・生活環境の構築を図るために必要な全学的な施策の推進、調整、支援及び諸課題への対応を総合的に行い、もって人材の育成に寄与する。
所在地： 富山市五福3190
設置年月： 平成27年4月
規模等： 建物 多目的施設・学生会館 2,996㎡の一部

名称： 研究推進機構

目的： 富山大学における特色ある研究の推進と、多様な分野での研究の推進を支援するとともに、世界と地域に向けて研究成果を発信し、将来を担う人材の育成に寄与する。
所在地： 富山市五福3190、富山市杉谷2630
設置年月： 平成27年4月
規模等： 建物 15,655㎡

附属施設の概要

名称： 地域連携推進機構

目的： 社会人教育による市民生活の充実及び地域課題解決への先導的役割等を果たすとともに、地域社会と連携する中核拠点としての機能を果たすことにより、地域社会の発展に寄与する。

所在地： 富山市五福3190、富山市杉谷2630、高岡市二上町180

設置年月： 平成20年7月

規模等： 建物 769㎡

名称： 国際機構

目的： 国際化推進に係る事業を統括支援し、大学の国際化を推進することを目的としている。

所在地： 富山市五福3190

設置年月： 平成11年4月（留学生センター）

平成25年10月（国際交流センター）

平成30年4月（国際機構）

規模等： 建物 380㎡

名称： 総合情報基盤センター

目的： 大学における情報通信、情報処理及び情報共有のためのシステムを円滑かつ効率的に運用管理し、教育研究及びその他の諸活動を支援するとともに、地域社会の発展に資することを目的とする。

所在地： 富山市五福3190

設置年月： 平成8年5月（総合情報処理センター）

平成15年4月（総合情報基盤センター）

規模等： 建物 3,296㎡

名称： 環境安全推進センター

目的： 環境配慮活動及び安全衛生の推進、薬品管理、排水管理、廃棄物管理、作業環境管理、作業管理及びその指導・助言を行い、教育研究等に伴う環境に配慮した活動を推進することを目的とする。

所在地： 富山市五福3190

設置年月： 平成26年4月

規模等： 建物 459㎡

名称： 自然観察実習センター

目的： 大学の共同教育研究施設として野外教育（自然観察・栽培等）の実習に利用すること及び本学の関連領域における教育・研究などの材料を育成管理し、提供することを目的とする。

所在地： 富山市寺町字草山2639-1

設置年月： 昭和56年7月

規模等： 土地 33,208㎡

名称： 保健管理センター

目的： 富山大学における保健管理及び健康支援、これに関する研究及び教育を一体的に行い、学生及び職員の心身の健康の保持増進を図ることを目的とする。

所在地： 富山市五福3190、富山市杉谷2630、高岡市二上町180

設置年月： 平成17年10月

規模等： 建物 941㎡

名称： 人間発達科学部附属小学校

目的： 義務教育として行われる普通教育を施すとともに、人間発達科学部に附属する教育研究の機関として、学部における児童の教育に関する研究に協力し、学部の計画に基づき学生の教育実習の実施に当たる他、教育の理論と実践についての先進的な研究に取り組み、その成果を公開する。

所在地： 富山市五艘1300

設置年月： 昭和26年4月（教育学部附属小学校）

平成17年10月（人間発達科学部附属小学校）

規模等： 建物 4,870㎡

名称： 人間発達科学部附属中学校

目的： 義務教育として行われる普通教育を施すとともに、人間発達科学部に附属する教育研究の機関として、学部における生徒の教育に関する研究に協力し、学部の計画に基づき学生の教育実習の実施に当たる他、教育の理論と実践についての先進的な研究に取り組み、その成果を公開する。

所在地： 富山市五艘1300

設置年月： 昭和26年4月（教育学部附属中学校）

平成17年10月（人間発達科学部附属中学校）

規模等： 建物 7,845㎡

附属施設の概要	<p>名称： 人間発達科学部附属幼稚園</p> <p>目的： 幼児の保育を行うとともに、人間発達科学部に附属する教育研究の機関として、学部における幼児の保育に関する研究に協力し、学部の計画に基づき学生の教育実習の実施に当たる他、教育の理論と実践についての先進的な研究に取り組み、その成果を公開する。</p> <p>所在地： 富山市五艘1300</p> <p>設置年月： 昭和26年4月（教育学部附属幼稚園） 平成17年10月（人間発達科学部附属幼稚園）</p> <p>規模等： 建物 978㎡</p>
	<p>名称： 人間発達科学部附属特別支援学校</p> <p>目的： 知的障害に係る特別支援教育を施すとともに、人間発達科学部に附属する教育研究の機関として、学部における児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、学部の計画に基づき学生の教育実習の実施に当たる他、教育の理論と実践についての先進的な研究に取り組み、その成果を公開する。</p> <p>所在地： 富山市五艘1300</p> <p>設置年月： 昭和51年4月（教育学部附属養護学校） 平成17年10月（人間発達科学部附属養護学校） 平成19年10月（人間発達科学部附属特別支援学校）</p> <p>規模等： 建物 3,655㎡</p>
	<p>名称： 人間発達科学部附属人間発達科学研究実践総合センター</p> <p>目的： 教育臨床・学習環境・教育工学・環境教育の4つの部門からなり、人間発達科学部、他学部、他大学、学校、教育機関、生涯学習施設、企業などと連携しながら研究プロジェクトを推進し、教育実践及び教育臨床に関する理論的、実践的並びに学際的研究を総合的に行う。</p> <p>所在地： 富山市五福3190</p> <p>設置年月： 昭和57年4月（教育学部附属教育実践研究指導センター） 平成17年10月（人間発達科学部附属人間発達科学研究実践総合センター）</p> <p>規模等： 建物 531㎡</p>
	<p>名称： 薬学部附属薬用植物園</p> <p>目的： 薬用植物を栽培し、学術研究及び教育に資することを目的とする。</p> <p>所在地： 富山市杉谷2630</p> <p>設置年月： 昭和54年6月（富山医科薬科大学薬学部附属薬用植物園）</p> <p>規模等： 土地 13,334㎡</p>

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の出定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人富山大学 設置計画等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
富山大学				富山大学				
人文学部 人文学科		3年次 7	694	人文学部 人文学科	188	7	766	定員変更(18)
人間発達科学部 発達教育学科	80	-	320	人間発達科学部 発達教育学科	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
人間環境システム学科	90	-	360	人間環境システム学科	0	-	0	
経済学部 3年次				経済学部 3年次				
経済学科 昼間主コース	120	4	488	経済学科 昼間主コース	135	4	548	定員変更(15)
夜間主コース	10	-	40	夜間主コース	10	-	40	
経営学科 昼間主コース	100	4	408	経営学科 昼間主コース	108	4	440	定員変更(8)
夜間主コース	10	-	40	夜間主コース	10	-	40	
経営法学科 昼間主コース	85	2	344	経営法学科 昼間主コース	92	2	372	定員変更(7)
夜間主コース	10	-	40	夜間主コース	10	-	40	
理学部 3年次				理学部 3年次				
数学科	50	-	200	数学科	45	-	180	定員変更(△5)
物理学科	40	1	162	物理学科	40	1	162	
化学科	35	1	142	化学科	35	1	142	
生物学科	35	1	142	生物学科	38	1	154	定員変更(3)
生物圏環境科学科	30	1	122	自然環境科学科	35	1	142	定員変更(5) 学科名称変更
医学部 2年次				医学部 2年次				
医学科(6年制)	105	5	655	医学科(6年制)	105	5	655	
看護学科 3年次	80	10	340	看護学科 3年次	80	10	340	
薬学部 3年次				薬学部 3年次				
薬学科(6年制)	55	-	330	薬学科(6年制)	70	-	420	定員変更(15)
創薬科学科	50	-	200	創薬科学科	35	-	140	定員変更(△15)
工学部 3年次				工学部 3年次				
工学科	365	17	1494	工学科	380	17	1554	定員変更(15)
芸術文化学部 芸術文化学科	110	-	440	芸術文化学部 芸術文化学科	110	-	440	
都市デザイン学部 3年次				都市デザイン学部 3年次				
地球システム科学科	40	-	160	地球システム科学科	40	-	160	
都市・交通デザイン学科	40	1	162	都市・交通デザイン学科	54	1	218	定員変更(14)
材料デザイン工学科	60	2	244	材料デザイン工学科	65	2	264	定員変更(5)
計	1,770	56	7,527	計	1,770	56	7,557	
富山大学大学院				富山大学大学院				
人文科学研究科 人文科学専攻(M)	8	-	16	人文科学研究科 人文科学専攻(M)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
人間発達科学研究科 発達教育専攻(M)	6	-	12	人間発達科学研究科 発達教育専攻(M)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
発達環境専攻(M)	6	-	12	発達環境専攻(M)	0	-	0	
経済学研究科 地域・経済政策専攻(M)	6	-	12	経済学研究科 地域・経済政策専攻(M)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
企業経営専攻(M)	12	-	24	企業経営専攻(M)	0	-	0	
芸術文化学研究科 芸術文化学専攻(M)	8	-	16	芸術文化学研究科 芸術文化学専攻(M)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
人文社会芸術総合研究科 人文社会芸術総合専攻(M)				人文社会芸術総合研究科 人文社会芸術総合専攻(M)	46	-	92	研究科の設置(設置届出)
				(うち、人文社会芸術総合専攻から持続 可能社会創成学環の内数とする入学定 員数及び収容定員数)	(8)	-	(16)	※1
生命融合科学教育部 認知・情動脳科学専攻(4年制D)	9	-	36	生命融合科学教育部 認知・情動脳科学専攻(4年制D)	9	-	36	
生体情報システム科学専攻(D)	4	-	12	生体情報システム科学専攻(D)	4	-	12	
先端ナノ・バイオ科学専攻(D)	4	-	12	先端ナノ・バイオ科学専攻(D)	4	-	12	
医学薬学教育部 医科学専攻(M)	15	-	30	医学薬学教育部 医科学専攻(M)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
看護学専攻(M)	16	-	32	看護学専攻(M)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
薬科学専攻(M)	35	-	70	薬科学専攻(M)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
薬科学専攻(D)	8	-	24	薬科学専攻(D)	8	-	24	
生命・臨床医学専攻(4年制D)	18	-	72	生命・臨床医学専攻(4年制D)	18	-	72	
東西統合医学専攻(4年制D)	7	-	28	東西統合医学専攻(4年制D)	7	-	28	
薬学専攻(4年制D)	4	-	16	薬学専攻(4年制D)	4	-	16	
看護学専攻(D)	3	-	9	看護学専攻(D)	3	-	9	

				総合医薬学研究科				研究科の設置(設置届出)	
				総合医薬学専攻(M)	66	=	132		
				(うち、総合医薬学専攻から医薬理工学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(8)	=	(16)	※2	
				理工学教育部					
理工学教育部				数学専攻(M)	0	=	0	令和4年4月学生募集停止	
数学専攻(M)	8	-	16	物理学専攻(M)	0	=	0	令和4年4月学生募集停止	
物理学専攻(M)	12	-	24	化学専攻(M)	0	=	0	令和4年4月学生募集停止	
化学専攻(M)	12	-	24	生物学専攻(M)	0	=	0	令和4年4月学生募集停止	
生物学専攻(M)	12	-	24	地球科学専攻(M)	0	=	0	令和4年4月学生募集停止	
地球科学専攻(M)	10	-	20	地球科学専攻(M)	0	=	0	令和4年4月学生募集停止	
生物圏環境科学専攻(M)	10	-	20	生物圏環境科学専攻(M)	0	=	0	令和4年4月学生募集停止	
電気電子システム工学専攻(M)	33	-	66	電気電子システム工学専攻(M)	0	=	0	令和4年4月学生募集停止	
電気電子システム工学専攻(M)	27	-	54	知能情報工学専攻(M)	0	=	0	令和4年4月学生募集停止	
知能情報工学専攻(M)	33	-	66	機械知能システム工学専攻(M)	0	=	0	令和4年4月学生募集停止	
機械知能システム工学専攻(M)	18	-	36	生命工学専攻(M)	0	=	0	令和4年4月学生募集停止	
生命工学専攻(M)	22	-	44	環境応用化学専攻(M)	0	=	0	令和4年4月学生募集停止	
環境応用化学専攻(M)	20	-	40	材料機能工学専攻(M)	0	=	0	令和4年4月学生募集停止	
材料機能工学専攻(M)	5	-	15	数理・ヒューマンシステム科学専攻(D)	5	=	15		
数理・ヒューマンシステム科学専攻(D)	4	-	12	ナノ新機能物質科学専攻(D)	4	=	12		
ナノ新機能物質科学専攻(D)	3	-	9	新エネルギー科学専攻(D)	3	=	9		
新エネルギー科学専攻(D)	4	-	12	地球生命環境科学専攻(D)	4	=	12		
地球生命環境科学専攻(D)									
				理工学研究科				研究科の設置(設置届出)	
				理工学専攻(M)	288	=	576		
				(うち、理工学専攻から持続可能社会創成学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(10)	=	(20)	※1	
				(うち、理工学専攻から医薬理工学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(29)	=	(58)	※2	
				持続可能社会創成学環(M)	(18)	=	(36)	※1 研究科等連係課程実施基本組織の設置(設置届出)	
				医薬理工学環(M)	(37)	=	(74)	※2 研究科等連係課程実施基本組織の設置(設置届出)	
				教職実践開発研究科					
教職実践開発研究科				教職実践開発専攻(P)	14	=	28		
教職実践開発専攻(P)	14	-	28						
計	416	-	943	計	487	-	1085		
				※1 持続可能社会創成学環(M)の入学定員及び収容定員は、人文社会芸術総合専攻(M)及び理工学専攻(M)の内数とする。					
				※2 医薬理工学環(M)の入学定員及び収容定員は、総合医薬学専攻(M)及び理工学専攻(M)の内数とする。					

教育課程等の概要															
(総合医薬学研究科 総合医薬学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	研究倫理	1①・1③	1			○								兼4	オムニバス・メディア
	科学技術と持続可能社会	1①・1③	1			○			1					兼8	オムニバス・メディア・共同（一部）
	地域共生社会特論	1②		1		○								兼1	
	研究者としてのコミュニケーション：基礎と応用	1②		1		○			3					兼3	オムニバス・メディア
	アート・デザイン思考	1②・1④		1		○								兼6	オムニバス・メディア・共同（一部）
	英語論文作成Ⅰ	1①・1③		1		○								兼2	共同（一部）
	英語論文作成Ⅱ	1②・1④		1		○								兼2	共同（一部）
	データサイエンス特論	1①・1③		1		○			1	1				兼6	オムニバス・メディア・共同（一部）
	大学院生のためのキャリア形成	1①・1③		1		○								兼2	オムニバス・メディア・共同（一部）
	知的財産法	1②・1④		1		○								兼3	オムニバス・メディア
小計（10科目）	—		2	8	0	—			5	1	0	0	0	兼3	
研究科共通科目	総合医薬学	1①	1			○			4						オムニバス・メディア
	臨床研究の計画法	1④		1		○			4	1					オムニバス・共同（一部）
	解剖生理病態学序論	1③		1		○			2	2		1			
	解剖生理病態学特論	1④		1		○			1		1				
	病態薬理学序論	1③		1		○			1			3			
	病態薬理学特論	1④		1		○			1			3			
	心身健康科学	1①		1		○			2					兼1	オムニバス
	日本語・日本文化	1・2①②③④			2	○								兼1	（留学生のみ）
小計（8科目）		1	6	2	—			14	3	1	4	0	兼2		
先端医科学プログラム科目	基礎臨床医科学概論	1①	1			○			7	6	3				オムニバス・メディア
	社会医学序論	1①	1			○			3	2					
	社会医学特論	1②	1			○			3	2					
	生体防御医学序論	1③		1		○			2	1					
	生体防御医学特論	1④		1		○			2	1					
	分子ゲノム医科学序論	1①		1		○			2	3		1			オムニバス・メディア
	分子ゲノム医科学特論	1②		1		○			2	3		1			オムニバス・メディア
	中枢神経遺伝子工学序論	1①		1		○			1	2					オムニバス・メディア
	細胞内シグナル伝達系序論	1②		1		○			1	2					オムニバス・メディア
	中枢神経薬理学序論	1③		1		○			2	1					オムニバス・メディア
	臨床行動科学序論	1①		1		○			3	1	2				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
先端医学科学プログラム科目	臨床行動科学特論	1②		1		○			3	1	2				
	病態検査医学序論	1③		1		○				1					
	病態検査医学特論	1④		1		○			2						
	感覚・運動・脳病態学序論	1③		1		○			5	3	2				
	感覚・運動・脳病態学特論	1④		1		○			5	3	2				
	東洋医学序論	1③		1		○			1						
	東洋医学特論	1④		1		○			3	2	1				
	高度先進医療実践学序論	1③		1		○			4	1					オムニバス・メディア
	高度先進医療実践学特論	1④		1		○			6	1					オムニバス・メディア
	救急蘇生学序論	1①		1		○				1					
	救急蘇生学特論	1②		1		○				1					
	災害危機管理学序論	1①		1		○				1					
	災害危機管理学特論	1②		1		○				1					
	先端医学科学特別研究	1～2通	10					○	33	13	8				
	小計 (25科目)	—	—	13	21	0	—	—	35	19	8	1	0		
看護科学プログラム科目	A群共通科目														
	看護研究	1①②		2		○			1	3					オムニバス
	看護倫理	1①②		2		○			1					兼1	
	コンサルテーション論	1③④		2		○			1						
	看護管理論	1③④		2		○			1	1					
	看護教育論	1③④		2		○			1	1					共同 (一部)
	看護理論	1③④		2		○			1	1					
	看護政策論	1③④		2		○			1						
	小計 (7科目)	—	0	14	0	—	—	5	5	0	0	0	0	兼1	
B群共通科目	病態生理学	1①②		2		○			3	1					オムニバス
	臨床薬理学	1③④		2		○			1	1					オムニバス
	フィジカルアセスメント	1①		2		○				2				兼1	
	臨床推論 I	1①		2		○			1					兼1	共同
	救急看護演習	1①		1			○			2				兼1	共同
	健康生活研究計画法	1③		1		○				1					
	小計 (6科目)	—	0	10	0	—	—	4	5	0	0	0	0	兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
看護科学プログラム科目	研究者コース 看護ケアサイエンス学	看護ケアサイエンス学特論Ⅰ	1①②	2		○			4	4					オムニバス
		看護ケアサイエンス学特論Ⅱ	1①②	2		○			1						
		看護ケアサイエンス学演習Ⅰ	1③④	4			○		4	4					オムニバス
		看護ケアサイエンス学演習Ⅱ	1③④	4			○		1						
		看護ケアサイエンス学特別研究	2通	8				○	6						共同(一部)
		成人看護学特論	1①②	2			○		2						
	小計(6科目)	—	0	22	0		—	6	4	0	0	0			
	母子看護学	母性看護学特論Ⅰ	1①②	2		○			1	2					オムニバス
		母性看護学特論Ⅱ	1①②	2		○			1	3					オムニバス
		小児看護学特論Ⅰ	1①②	2		○			1	1					オムニバス
		小児看護学特論Ⅱ	1③④	2		○				1					
		母子看護学演習	1~2通	4			○		1	3					共同
		母子看護学特別研究	2通	8				○	1						
	小計(6科目)	—	0	20	0		—	1	3	0	0	0			
	地域・老年看護学	地域・老年看護学特論Ⅰ	1①②	2		○			1						
		地域・老年看護学特論Ⅱ	1通	2		○				1					
		地域・老年看護学演習Ⅰ	1通	4			○		1						
		地域・老年看護学演習Ⅱ	1通	4			○			1					
		地域・老年看護学特別研究	2通	8				○	1						
	小計(5科目)		0	20	0		—	1	1	0	0	0			
	CNSコース がん看護学分野 がん看護	がん看護学特論Ⅰ(病態生理)	1①②	2		○			3	1					オムニバス
		がん看護学特論Ⅱ(援助論)	1①②	2		○			2						
		がん看護学特論Ⅲ(がんリハビリテーション看護論)	1①②	2		○			2						
		がん看護実践演習Ⅰ(診断～手術後までの患者のリハビリテーション)	1通	2			○		2	1					
		がん看護実践演習Ⅱ(薬物療法・放射線療法をうける患者のリハビリテーション)	1通	2			○		2	1					
		がん看護実践演習Ⅲ(緩和ケア・在宅療養中の患者のリハビリテーション)	1通	2			○		2	1					オムニバス
		がん看護学実習Ⅰ	1④~2通	6				○	2	1					共同
がん看護学実習Ⅱ		1④~2通	4				○	2	1					共同	
がん看護実践特別研究		1~2通	8				○	2							
小計(9科目)	—	0	30	0		—	3	1	0	0	0				
母子看護学分野 母性看護	母性看護学特論Ⅲ	1①②	2		○			1	2					オムニバス	
	周産期看護実践演習Ⅰ	1①②	2			○		1	2						
	周産期看護実践演習Ⅱ	1③④	2			○		1	2						
	周産期看護実践演習Ⅲ	1③④	2			○		1	2						
	周産期看護実践演習Ⅳ	1③④	2			○		1	1						
	周産期看護実習Ⅰ	1~2通	4				○	1	2					共同	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
看護科学プログラム科目	CNSコース 母性看護学分野	周産期看護実習Ⅱ	1～2通	4				○	1	2					共同		
		周産期看護実習Ⅲ	1～2通	2				○	1	3					共同		
		小計（8科目）	—	0	20	0	—			1	3	0	0	0			
	NPコース	NP基礎科目	臨床推論Ⅱ	1②	2		○				2					オムニバス	
			フィジカルアセスメント特論	1②	2		○				1						
			疾病・臨床病態概論	1③④	4		○			1						兼1	オムニバス
			アドバンスプラクティス基礎特論	1①	2		○			2	1						オムニバス
			アドバンスプラクティス基礎実習Ⅰ	1①②	1				○	3							共同（一部）
			アドバンスプラクティス基礎実習Ⅱ	1②③	1				○	1							
			医療安全学	1③	1		○			1							
	小計（7科目）	—	0	13	0	—			5	4	0	0	0	兼1			
	NP専門科目	NP専門科目	アドバンスプラクティス特論Ⅰ	1④～2通	6		○			1	2					オムニバス	
			アドバンスプラクティス特論Ⅱ	1④～2通	4		○			1						兼2	オムニバス
			アドバンスプラクティス特論Ⅲ	1④～2通	1		○				3						オムニバス
			アドバンスプラクティス演習Ⅰ	1④～2通	3			○		2	1						オムニバス
			アドバンスプラクティス演習Ⅱ	1④～2通	1			○		1	1					兼2	オムニバス
			アドバンスプラクティス演習Ⅲ	1④～2通	1			○		1	1						オムニバス
			アドバンスプラクティス実習Ⅰ	1④～2通	6				○	4	3					兼2	オムニバス
			アドバンスプラクティス実習Ⅱ	1④～2通	3				○	3	3					兼2	オムニバス
アドバンスプラクティス実習Ⅲ			1④～2通	1				○	1								
アドバンスプラクティス総合実習			2③④	6				○	1							オムニバス	
アドバンスプラクティス実践課題研究			2③④	3				○	3								
小計（11科目）	—	0	35	0	—			6	7	0	0	0	兼4				
基礎薬学プログラム科目	プログラム専門科目（序論）	薬学経済序論	1①	1		○			4						兼1	オムニバス	
		分子化学序論	1③	1		○			1	1							
		生物物理学序論	1③	1		○			3	4						オムニバス	
		薬理薬剤学序論	1②	1		○			6							オムニバス	
		分子細胞生物学序論	1①	1		○			2	2						オムニバス	
		応用天然物化学序論	1③	1		○				3							
		応用和漢医薬学序論	1③	1		○			3	2						オムニバス	
		小計（7科目）	—	1	6	0	—			17	11	0	0	0	兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎薬学プログラム科目	分子化学特論	1④		1		○			1	1					
	分子設計学特論	1④		1		○			1	1					
	生物物理学特論	1④		1		○			3	4					オムニバス
	薬理学特論	2①		1		○			3	2	1				オムニバス
	薬物動態学特論	2①		1		○			4						オムニバス
	分子生理学特論	1③		1		○			1	1					
	遺伝子応用分析学特論	2②		1		○			2	3					オムニバス
	分子細胞生物学特論	2②		1		○			2	2					オムニバス
	応用天然物化学特論	2②		1		○				3					
	小計(9科目)	—	0	9	0	—			18	15	1	0	0		
プログラム専門科目(演習・特別研究)	薬剤学演習	1~2通		2				○		1					
	応用薬理学演習	1~2通		2				○		1					
	生体認識化学演習	1~2通		2				○		1					
	がん細胞生物学演習	1~2通		2				○		1					
	薬化学演習	1~2通		2				○			1				
	薬品製造学演習	1~2通		2				○		1					
	分子神経生物学演習	1~2通		2				○			1				
	遺伝情報制御学演習	1~2通		2				○			1				
	分子細胞機能学演習	1~2通		2				○		1					
	薬用生物資源学演習	1~2通		2				○			1				
	分子合成化学演習	1~2通		2				○		1					
	生体界面化学演習	1~2通		2				○		1					
	構造生物学演習	1~2通		2				○		1					
	薬物生理学演習	1~2通		2				○		1					
	医療薬学演習	1~2通		2				○		1					
	病態制御薬理学演習	1~2通		2				○		1					
	医薬品安全性学演習	1~2通		2				○		2					
	薬物治療学演習	1~2通		2				○		1					
	臨床薬剤学演習	1~2通		2				○		1					
	製剤設計学演習	1~2通		2				○		1					
資源科学演習	1~2通		2				○			1					
天然物創薬学演習	1~2通		2				○		1						
神経機能学演習	1~2通		2				○		1						
生体防御学演習	1~2通		2				○		1						
複雑系解析演習	1~2通		2				○		1						
未病学演習	1~2通		2				○		1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎薬学プログラム科目 習プログラム ・特別研究 （演習）	生物学演習	1～2通		2			○			1					
	ゲノム機能解析演習	1～2通		2			○		1						
	薬科学特別研究	1～2通	10					○	24	20	1				
	小計 (29科目)	—	10	56	0	—			24	20	1	0	0		
合計 (154科目)		—	27	290	2	—			68	50	10	5	0	兼40	
学位又は称号		修士(医科学) 修士(看護学) 修士(薬科学)		学位又は学科の分野			医学関係, 薬学関係, 保健衛生学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
<p>(修了要件)</p> <p>2年以上在学し、学位プログラムごとに定める修了の要件として必要な授業科目の履修により所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については1年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>(履修方法)</p> <p>■先端医学プログラム (M)</p> <p>次の履修方法により30単位以上を履修すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院共通科目から必修2単位を含む4単位以上 ・研究科共通科目から必修1単位を含む4単位以上 ・先端医学プログラムのプログラム専門科目から必修13単位を含む22単位以上 <p>■看護科学プログラム (M)</p> <p>次の履修方法によりそれぞれ指定された単位を履修すること。</p> <p><各コース共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院共通科目から必修2単位を含む4単位以上 ・研究科共通科目から必修1単位を含む4単位以上(ナースプラクティショナー(NP)コースは「総合医薬学」必修1単位に加え、「解剖生理病態学序論」1単位、「解剖生理病態学特論」1単位、「病態薬理学序論」1単位及び「病態薬理学特論」1単位の計5単位を必修とする。) <p><研究者コース></p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護科学プログラムのプログラム共通科目(A群共通科目「看護研究」2単位、「コンサルテーション論」2単位、「看護管理論」2単位、「看護理論」2単位・B群共通科目「臨床薬理学」2単位、「フィジカルアセスメント」2単位、「臨床推論Ⅰ」2単位、「救急看護演習」1単位及び「健康生活研究計画法」1単位)から8単位以上 <p>[看護ケアサイエンス学を選択した場合]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「『看護ケアサイエンス学特論Ⅰ』2単位,『看護ケアサイエンス学演習Ⅰ』4単位及び『看護ケアサイエンス学特別研究』8単位,「『看護ケアサイエンス学特論Ⅱ』2単位,『看護ケアサイエンス学演習Ⅱ』4単位及び『看護ケアサイエンス学特別研究』8単位」のいずれかを選択必修とする。 <p>[母子看護学を選択した場合]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「『母子看護学特論Ⅰ』2単位,『母子看護学特論Ⅱ』2単位,『母子看護学演習』4単位及び『母子看護学特別研究』8単位,「『小児看護学特論Ⅰ』2単位,『小児看護学特論Ⅱ』2単位,『母子看護学演習』4単位及び『母子看護学特別研究』8単位」のいずれかを選択必修とする。 <p>[地域・老年看護学を選択した場合]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「『地域・老年看護学特論Ⅰ』2単位,『地域・老年看護学演習Ⅰ』4単位及び『地域・老年看護学特別研究』8単位,「『地域・老年看護学特論Ⅱ』2単位,『地域・老年看護学演習Ⅱ』4単位及び『地域・老年看護学特別研究』8単位」のいずれかを選択必修とする。 								1学年の学期区分		4ターム					
								1学期の授業期間		8週					
								1時限の授業時間		90分					

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
			<p><専門看護師(CNS)コース></p> <ul style="list-style-type: none"> 看護科学プログラムのプログラム共通科目：A群共通科目から8単位以上，B群共通科目から「病態生理学」2単位，「臨床薬理学」2単位及び「フィジカルアセスメント」2単位必修。 〔がん看護CNSコースの場合〕 研究者コースの看護ケアサイエンス学の「成人看護学特論」2単位及びCNSコースのがん看護学分野がん看護の全科目30単位を必修 〔母性看護CNSコースの場合〕 研究者コースの母子看護学の「母性看護学特論Ⅰ」2単位，「母性看護学特論Ⅱ」2単位，「母子看護学特別研究」8単位及びCNSコースの母子看護学分野母性看護の全科目20単位を必修 <p><ナースプラクティショナー(NP)コース></p> <ul style="list-style-type: none"> 看護科学プログラムのプログラム共通科目のA群共通科目の「看護研究」2単位必修 看護科学プログラムのプログラム共通科目のB群共通科目の「病態生理学」2単位，「臨床薬理学」2単位，「フィジカルアセスメント」2単位及び「臨床推論Ⅰ」2単位必修 NPコースのNP基礎科目の全科目13単位必修 NPコースのNP専門科目の「アドバンスプラクティスⅠ」6単位，「アドバンスプラクティスⅡ」3単位，「アドバンスプラクティスⅢ」6単位，「アドバンスプラクティスⅣ」3単位及び「アドバンスプラクティスⅤ」6単位必修 〔NP急性期領域の場合〕 看護科学プログラムのプログラム共通科目のB群共通科目の「救急看護演習」1単位必修 NPコースのNP専門科目の「アドバンスプラクティスⅥ」4単位，「アドバンスプラクティスⅦ」1単位，「アドバンスプラクティスⅧ」3単位必修 〔NP慢性期領域の場合〕 看護科学プログラムのプログラム共通科目のB群共通科目の「健康生活研究計画法」1単位必修 NPコースのNP専門科目の「アドバンスプラクティスⅧ」1単位，「アドバンスプラクティスⅨ」1単位，「アドバンスプラクティスⅩ」1単位必修 <p>■基礎薬学プログラム (M)</p> <p>次の履修方法により30単位以上を履修すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学院共通科目から必修2単位を含む4単位 研究科共通科目から必修1単位を含む4単位 基礎薬学プログラムのプログラム専門科目（序論）から必修1単位を含む4単位 基礎薬学プログラムのプログラム専門科目（特論）から4単位 大学院共通科目，研究科共通科目，基礎薬学プログラムのプログラム専門科目（序論）及び基礎薬学プログラムのプログラム専門科目（特論）から2単位以上 基礎薬学プログラムのプログラム専門科目（演習・特別研究）から必修10単位を含む12単位 													

教育課程等の概要														
（大学院医学薬学教育部医科学専攻（修士課程））【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	基礎臨床医科学概論	1前	2			○			17	1	1			
	生物医学倫理学	1前	1			○			1					
	解剖生理病態学	1後	2			○			5	2	1	1		
	社会医学	1前	2			○			3	2				
	生体防御医学	1後		2		○			3	2				
	分子ゲノム医科学	1前		2		○			2	4				
	臨床行動科学	1前		2		○			3	1	2			
	病態薬理学	1後		2		○			1			2		
	病態検査医学概論	1後		2		○			3	1				
	感覚・運動・脳病態学	1後		2		○			6	1	2			
	東洋医学概論	1後		2		○			4	1				
	高度先進医療実践学	1後		2		○			9	2				
	臨床統計学の基礎	1前		1		○								兼1
	臨床研究の計画法	1後		1		○								兼1
	救急蘇生学特論	1前		2		○				1				
	災害危機管理学特論	1前		2		○				1				
	医科学演習	2通	6				○		41					
	医科学特別研究	2通	10					○	41					
	研究倫理・研究方法論	1前			1	○								兼1
	日本語・日本文化	1・2前・後			2	○								兼1 日本語・日本文化は、留学生に限る。
	小計（20科目）	—	23	22	3		—		42	18	6	3		兼4
	合計（20科目）	—	23	22	3		—		42	18	6	3		兼4
学位又は称号	修士(医科学)		学位又は学科の分野			医学関係								
(修了要件) 2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については1年以上在学すれば足りるものとする。 (履修方法) 次の履修方法により30単位以上を履修すること。 ・講義科目:必修7単位を含む14単位以上 ・医科学演習:6単位必修 ・医科学特別研究:10単位必修								1学年の学期区分			2学期			
								1学期の授業期間			15週			
								1時限の授業時間			90分			

教育課程等の概要														
(大学院医学薬学教育部看護学専攻(博士前期課程)) 【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	看護研究*	1前		2		○			1	3				
	看護倫理*	1後		2		○			1					
	コンサルテーション論*	1後		2		○			1					
	看護管理論*	1前		2		○			1					
	看護教育論*	1後		2		○			1					
	看護理論*	1後		2		○			1	1				
	看護政策論*	1前		2		○			1					
	臨床統計学の基礎	1前		1		○								兼1
	臨床研究の計画法	1後		1		○								兼1
	心身健康科学	1後		1		○			2					
	フィジカルアセスメント◎	1前		2		○				1				
	病態生理学◎	1前		2		○			3	1				
	臨床薬理学◎	1後		2		○				1				兼1
	救急看護演習	1前		1			○							兼1
	健康生活統計的手法の基礎	1後		1		○				1				
小計(15科目)		—	0	25	0		—	8	7					兼3
がん看護学	がん看護学特論Ⅰ(病態生理)	1前		2		○			1					兼1
	がん看護学特論Ⅱ(援助論)	1前		2		○			2					
	がん看護学特論Ⅲ(がんリハビリテーション看護論)	1前		2		○			2					
	がん看護実践演習Ⅰ(診断～手術後までの患者のリハビリテーション)	1通		2			○		2	1				
	がん看護実践演習Ⅱ(薬物療法・放射線療法をうける患者のリハビリテーション)	1通		2			○		2	1				
	がん看護実践演習Ⅲ(緩和ケア・在宅療養中の患者のリハビリテーション)	1通		2			○		2	1				
	がん看護学実習Ⅰ	1通		6				○	2	1				
	がん看護学実習Ⅱ	1通		4				○	2	1				兼1
がん看護実践特別研究	2通		8				○	2						
小計(9科目)		—	0	30	0		—	2	1					兼1
基礎看護学	基礎看護学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	基礎看護学特論Ⅱ	1後		2		○			1	2				
	基礎看護学演習	1通		4			○		3	2				
	基礎看護学特別研究	2通		8				○	3	2				
	小計(4科目)		—	0	16	0		—	3	2				
成人看護学	成人看護学特論Ⅰ	1前		2		○			2	1				
	成人看護学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	成人看護学演習	1通		4			○		2	1				
	成人看護学特別研究	2通		8				○	2	1				
	小計(4科目)		—	0	16	0		—	2	1				
母子看護学	母性看護学特論Ⅰ	1前		2		○			1	2				
	母性看護学特論Ⅱ	1前		2		○			1	3				
	母性看護学特論Ⅲ	1前		2		○			1	2				
	小児看護学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1				
	小児看護学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	母子看護学演習	1通		4			○		1	3				
	周産期看護実践演習Ⅰ	1前		2			○		1	2				
	周産期看護実践演習Ⅱ	1後		2			○		1	2				
	周産期看護実践演習Ⅲ	1後		2			○		1	2				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	周産期看護実践演習Ⅳ	1後		2			○			1	1				
	周産期看護実習Ⅰ	2通		4				○		1	2				
	周産期看護実習Ⅱ	2通		4					○	1	2				
	周産期看護実習Ⅲ	2通		2					○	1	3				
	母子看護学特別研究	2通		8					○	1	3				
	小計(14科目)	—	0	40	0			—		1	3				
老年看護学	老年看護学特論Ⅰ	1前		2		○					1				
	老年看護学特論Ⅱ	1後		2		○					1				
	老年看護学演習	1通		4			○				1				
	老年看護学特別研究	2通		8				○			1				
	小計(4科目)	—	0	16	0			—		0	1				
精神看護学	精神看護学特論Ⅰ	1前		2		○				1					
	精神看護学特論Ⅱ	1後		2		○				1					
	精神看護学演習	1通		4			○			1					
	精神看護学特別研究	2通		8				○		1					
	小計(4科目)	—	0	16	0			—		1	0				
地域看護学	地域看護学特論Ⅰ	1前		2		○				1	1				
	地域看護学特論Ⅱ	1後		2		○				1	1				
	地域看護学特論Ⅲ	1前		2		○				1	1				
	地域看護学演習	1通		4			○			1	1				
	地域看護学特別研究	2通		8				○		1					
	小計(5科目)	—	0	18	0			—		1	1				
合計(59科目)		—	0	177	0			—		8	8				兼5

学位又は称号	修士(看護学)	学位又は学科の分野	保健衛生学関係(看護学関係)
--------	---------	-----------	----------------

(修了要件) 2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については1年以上在学すれば足りるものとする。	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分

(履修方法) 研究者コース 必要単位(①+②)：30単位以上 ①(a+b)の授業科目：16単位以上 a. 共通科目 b. 【所属する分野以外の次の授業科目】 看護学特論Ⅰ、看護学特論Ⅱ及び看護学特論Ⅲ ②所属する分野の授業科目：14単位以上 ・看護学特論Ⅰ、看護学特論Ⅱ及び看護学特論Ⅲから2単位以上 ・看護学演習：4単位 ・看護学特別研究：8単位 がん看護学分野がん看護CNSコース 必要単位(①+②+③)：46単位以上 ①共通科目：フィジカルアセスメント(2単位)、 病態生理学(2単位)及び臨床薬理学(2単位)必修 看護研究、看護倫理、コンサルテーション論、看護管理論、看護教育論、看護理論及び看護政策論から 8単位以上選択必修 ②成人看護学分野から成人看護学特論Ⅰ(2単位)必修 ③がん看護学分野から全科目30単位必修

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	母子看護学分野母性看護CNSコース														
	必要単位 (①+②) : 46 単位以上														
	①共通科目: フィジカルアセスメント (2 単位), 病態生理学 (2 単位) 及び臨床薬理学 (2 単位) 必修 看護研究, 看護倫理, コンサルテーション論, 看護管 理論, 看護教育論, 看護理論及び看護政策論から 8 単位以上選択必修														
	②母子看護学分野: 32 単位必須														
	a: 母性看護学特論 I・II・III 6 単位														
	b: 周産期看護実践演習 I・II・III・IV 8 単位														
	c: 周産期看護実習 I・II・III 10 単位														
	d: 母子看護学特別研究 8 単位														

教育課程等の概要														
（大学院医学薬学教育部薬科学専攻（博士前期課程））【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	分子化学特論	1後	2			○			1	1				
	分子設計学特論	1後	2			○			2	1				
	物性構造科学特論	1後	2			○			2	2				
	薬理学特論	1後	2			○			3	2	1			
	分子生理学特論	1後	1			○			1	1				
	薬物動態学特論	1前	2			○			3	2				
	遺伝情報制御学特論	1後	1			○				1				
	遺伝子応用分析学特論	1前	1			○			1	1				
	分子疾患制御学特論	1前	2			○			2	3				
	細胞情報学特論	1前	1			○			2	2				
	生物分析学特論	1前	1			○			1	1				
	応用天然物化学特論	1前	2			○				3				
	和漢医薬学特論	1後	2			○			7	2				
	創剤学特論	1後	1			○			3					
	臨床統計学の基礎	1前	1			○								兼1
	臨床研究の計画法	1後	1			○								兼1
	プロフェッショナル特論	1前	2			○			1					
	薬学演習	2通		6				○	25	8				
	薬科学特別研究	2通			14			○	25	8				
	日本語・日本事情	1・2・前・後	2			○								兼1 日本語・日本事情は、留学生に限る。
合計（20科目）		—	28	6	14	—			26	20	1			
学位又は称号	修士(薬科学)		学位又は学科の分野			薬学関係								
(修了要件) 2年以上在学し、定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については1年以上在学すれば足りるものとする。 (履修方法) 次の履修方法により30単位以上を履修すること。 ・講義科目:10単位以上選択 ・薬学演習:6単位必修 ・薬科学特別研究:14単位必修						1 学年の学期区分			2 学期					
						1 学期の授業期間			1 5 週					
						1 時限の授業時間			9 0 分					

教育課程等の概要																
(医学部看護学科) 【基礎となる学部】																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	人文科学系	哲学のすすめ	1前・後	2		○			1						兼3	
		人間と倫理	1前・後	2		○										兼3
		こころの科学	1前・後	2		○										兼3
		現代と教育	1前・後	2		○										兼7
		日本の歴史と社会	1前・後	2		○										兼4
		東洋の歴史と社会	1前	2		○										兼1
		西洋の歴史と社会	1前・後	2		○										兼4
		日本文学	1前・後	2		○										兼5
		外国文学	1前・後	2		○										兼3
		言語と文化	1前・後	2		○										兼4
		音楽	1前・後	2		○										兼2
		美術	1前・後	2		○										兼13
		言語表現	1前・後	2		○		○								兼2
		治療の文化史	1前・後	2		○										兼1
		異文化間コミュニケーション	1後	2		○										兼1
		異文化理解	1前	2		○										兼1
	小計 (16科目)	-	0	32	0	-			1	0	0	0	0	兼57		
社会科学系	現代社会論	1前・後	2		○										兼5	
	日本国憲法	1前・後	2		○										兼3	
	国家と市民	1前・後	2		○										兼3	
	経済生活と法	1前・後	2		○										兼3	
	市民生活と法	1前・後	2		○										兼3	
	はじめての経済学	1前・後	2		○										兼5	
	産業と経済を学ぶ	1前・後	2		○										兼5	
	経営資源のとらえ方	1前・後	2		○										兼3	
	市場と企業の関係	1前・後	2		○										兼3	
	地域の経済と社会・文化	1前	2		○										兼2	
	小計 (10科目)	-	0	20	0	-			0	0	0	0	0	兼33		
自然科学系	地球と環境	1前・後	2		○										兼2	
	物理の世界	1前・後	2		○										兼2	
	化学物質の世界	1前・後	2		○										兼3	
	自然と情報の数理	1前・後	2		○										兼3	
	社会と情報の数理	1前	2		○										兼1	
	技術の世界	1後	2		○										兼2	
	材料の科学	1前	2		○										兼1	
	生活の科学	1前	2		○										兼2	
	コンピュータの話	1前・後	2		○										兼2	
	デザインと生物	1後	2		○										兼4	
	小計 (10科目)	-	0	20	0	-			0	0	0	0	0	兼22		
理系基盤教育系	線形代数学	1後	2		○										兼1	
	自然現象のモデル化とその解析	1後	2		○										兼1	
	現代物理学入門	1後	2		○										兼1	
	量子化学入門	1後	2		○										兼1	
	生命科学 I-C	1前	2		○										兼1	
	生命科学 II-C	1後	2		○			※							兼1	
	生物無機化学入門	1後	2		○										兼1	
	小計 (7科目)	-	4	10	0	-			0	0	0	0	0	兼4		
医療心理学	医療心理学	1前	2		○				1							
	概説医療心理学	1前	1		○				1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	医療・健康科学系	認知科学	1後	2		○			1						兼1
	脳科学入門	1後	2		○										兼1
生命科学入門	1前	1		○											兼1
免疫学入門	1前	2		○											兼1
障害とアクセシビリティ	1前	2		○											兼1
医療と地域社会	1後	2		○											兼1
小計 (8科目)	-	0	14	0	-					1	0	0	0	0	兼6
総合科目系	環境	1前	2		○										兼1
	ジェンダー	1前・後	2		○										兼1
	技術と社会	1前・後	2		○										兼3
	現代文化	1後	2		○										兼1
	人権と福祉	1前・後	2		○										兼1
	環日本海	1前	2		○										兼1
	科学と社会	1前・後	2		○										兼1
	アカデミック・デザイン	1後	2		○										兼2
	ビジネス思考	1後	2		○										兼1
	平和学入門	1前	2		○										兼1
	東アジア共同体論-政治・経済・文化-	1後	2		○										兼1
	新聞投稿に挑戦	1後	2		○										兼1
	富山から考える震災・復興学	1後	2		○										兼1
	環境と安全管理	1前	2		○										兼1
	万葉学	1前	2		○										兼1
	日本海学	1後	2		○										兼1
	富山大学学	1後	2		○										兼1
	とやま地域学	1前	2		○										兼1
	時事的問題	1前	2		○										兼1
	災害救援ボランティア論	1後	2		○										兼1
	日本事情／芸術文化	1後	2		○										兼1
	日本事情／自然社会	1前	2		○										兼1
	学士力・人間力基礎	1前	2		○										兼1
	富山学	1前	2		○										兼1
	地域ライフプラン	1前	2		○										兼1
	産業観光学	1後	2		○										兼1
	富山のものづくり概論	1後	2		○										兼1
	富山の地域づくり	1前	2		○										兼3
小計 (28科目)	-	0	56	0	-				0	0	0	0	0	兼29	
外国語系	英語リテラシーⅠ-D	1前	1			○									兼1
	英語リテラシーⅡ-D	1後	1			○				1					兼1
	英語コミュニケーションⅠ-D	1前	1			○									兼2
	英語コミュニケーションⅡ-D	1後	1			○									兼3
	ドイツ語基礎Ⅰ	1前	1			○									兼6
	ドイツ語基礎Ⅱ	1後	1			○									兼5
	ドイツ語コミュニケーションⅠ	1前	1			○									兼6
	ドイツ語コミュニケーションⅡ	1後	1			○									兼5
	フランス語基礎Ⅰ	1前・後	1			○									兼2
	フランス語基礎Ⅱ	1前・後	1			○									兼2
	フランス語コミュニケーションⅠ	1前	1			○									兼4
	フランス語コミュニケーションⅡ	1前・後	1			○									兼5
	中国語基礎Ⅰ	1前・後	1			○									兼9
	中国語基礎Ⅱ	1前・後	1			○									兼9
	中国語コミュニケーションⅠ	1前	1			○									兼5
	中国語コミュニケーションⅡ	1後	1			○									兼5
朝鮮語基礎Ⅰ	1前	1			○									兼1	
朝鮮語基礎Ⅱ	1後	1			○									兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	外国語系	朝鮮語コミュニケーションⅠ	1前	1			○								兼2	
		朝鮮語コミュニケーションⅡ	1後	1			○								兼2	
		ロシア語基礎Ⅰ	1前	1			○								兼2	
		ロシア語基礎Ⅱ	1後	1			○								兼1	
		ロシア語コミュニケーションⅠ	1前	1			○								兼1	
		ロシア語コミュニケーションⅡ	1後	1			○								兼1	
		日本語リテラシーⅠ	1前	1			○								兼1	外国人留學生限定
		日本語リテラシーⅡ	1後	1			○								兼1	外国人留學生限定
		日本語コミュニケーションⅠ	1前	1			○								兼1	外国人留學生限定
		日本語コミュニケーションⅡ	1後	1			○								兼2	外国人留學生限定
		発展多言語演習ドイツ語	1前		1		○								兼1	
		発展多言語演習中国語	1前		1		○								兼1	
		発展多言語演習ラテン語Ⅰ	1前		1		○								兼1	
		発展多言語演習ラテン語Ⅱ	1後		1		○								兼1	
		日本語コミュニケーションⅢ	1前		1		○								兼1	外国人留學生限定
		日本語リテラシーⅢ	1後		1		○								兼1	外国人留學生限定
	日本語／専門研究	1前		1		○								兼1	外国人留學生限定	
	日本語／ビジネス	1後		1		○								兼1	外国人留學生限定	
	小計(36科目)	-		4	24	8		-		0	1	0	0	0	兼47	
	保健・体育系	健康・スポーツ／講義	1後		1		○								兼7	
健康・スポーツ／実技		1前・後		1				○						兼15		
小計(2科目)		-	0	2	0		-		0	0	0	0	0	兼16		
情報処理系	情報処理-B	1前・後・2後	2			○								兼3		
	応用情報処理	1後		2			○							兼5		
	小計(2科目)	-	2	2	0		-		0	0	0	0	0	兼7		
看護基礎科学	医療学入門	1前	1			○			1					兼5	オムニバス	
	和漢医薬学入門	2前	1			○		※		1				兼23	※実験	
	生命倫理学	3後	1			○								兼1		
	形態機能学	1通	4			○	※		2	2					※演習	
	栄養生化学	2後	1			○			1	1						
	薬理学	2前	2			○								兼1		
	疾病学	2前	2			○			1					兼1		
	微生物学	2通	2			○				1						
	社会福祉学	2後	1			○			1					兼2		
	公衆衛生学	2後	1			○			2					兼2		
	疫学・保健統計	3後	1			○			1	2		2		兼2		
	行動科学	2前	1			○			1							
小計(12科目)	-	18	0	0		-		3	5	0	2	0	兼35			
看護学	看護学原論	1前	2			○			1	1						
	看護対象論	1後	1			○	※		1	1					※演習	
	看護方法論Ⅰ	1後	3				○		1	2		1				
	看護方法論Ⅱ	2前	3				○		1	2		1	1			
	看護方法論Ⅲ	2前	1			○	※		1	1					※演習	
	看護教育	3前	1			○	※		1						※演習	
	看護管理	3前	1			○	※		1						※演習	
	基礎看護学実習	2後	2					○	1	2		1				
	成人看護学総論	2前	2			○			1	1		1				
	成人・高齢者臨床医学	2通	2			○			3							
	成人看護論Ⅰ	2後	2			○			1	2		3				
	成人看護論Ⅱ	3前	1			○			1			2				
	成人看護論Ⅲ	3後	2			○	※		1	1		1			※演習	
	成人看護学実習(慢性期)	3後・4前	3					○	1	1		1				
	成人看護学実習(周手術期)	3後・4前	3					○	1	1		2				
精神看護学総論	2後	2			○			1			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
看護学	精神臨床医学	3後	1			○									兼2	※演習
	精神看護論	3通	2			○	※		1							
	精神看護学実習	3後・4前	2					○	1			1				
	小児臨床医学	2後	2			○									兼1	
	小児看護学総論	2後	2			○				1						
	小児看護論	3前	2			○	※			1		1				※演習
	小児看護学実習	3後・4前	2					○		1		1				
	母性臨床医学	2前	2			○			1						兼1	
	母性看護学総論	2前	2			○			1							
	母性看護論	2後	2			○	※		1	2		1				※演習
	母性看護学実習	3後・4前	2					○	1	2		1				
	地域看護学総論	3前	2			○			1							
	地域看護方法論Ⅰ	3通	2					○	1						兼1	
	地域看護方法論Ⅱ	3通	2			○			1							
	ヘルスケアシステム論	3通	2			○			1	1					兼1	
	地域看護学実習	4前	3					○	1						兼1	
	在宅看護論	3後	2			○				1						
在宅看護学実習	4前	1					○		1							
老年看護学総論	2後	2			○				1			2				
老年看護論	3通	2			○				1			2				
老年看護学実習	3後・4前	3					○		1			2				
小計 (37科目)	—	73	0	0	—	—	—	7	9	0	9	1	兼7			
選択科目	東洋の知と看護	3前		1		○	※		1	2						※演習
	助産概論	3後		2		○			1	2		1				
	助産学ゼミナール	3後		1		○	※		1	2		1				※演習
	最先端医療と看護	3後		1		○				1						
	感染看護	3後		1		○				1						
小計 (5科目)	—	0	6	0	—	—	—	2	5	0	1	0	—			
探求科目	看護研究入門	3後		1				○	1							
	看護研究	4通		5				○	8	9						
	総合実習	4後		2				○	6	9						
小計 (3科目)	—	8	0	0	—	—	—	8	9	0	0	0	—			
自由科目	助産診断学	3後			2	○			1	2		1				
	助産技術論	4前			2	○	※		1	2		1				※演習
	助産管理	4後			2	○	※		1	1						※演習
	助産学実習	4後			11			○	1	2		1				
	形態機能学演習	3前			1			○	1						兼1	
小計 (5科目)	—	0	0	18	—	—	—	2	2	0	1	0	兼1			
合計 (181科目)		—	109	186	26	—	—	—	8	9	0	9	0	兼257		
学位又は称号	学士(看護学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係)									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
次の履修方法により131単位以上を履修すること。 ・教養教育科目から必修10単位を含む30単位以上 ・専門教育科目の基礎看護科学から必修18単位、看護学から必修73単位、選択科目から2単位以上、探求科目から必修8単位						1 学年の学期区分			2 学期							
						1 学期の授業期間			1 5 週							
						1 時限の授業時間			9 0 分							

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	

- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校¹の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要															
(薬学部創薬科学科) 【基礎となる学部】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	人文科学系	哲学のすすめ	1前・後	2		○									兼3
		人間と倫理	1前・後	2		○									兼3
		こころの科学	1前・後	2		○									兼4
		現代と教育	1前・後	2		○									兼7
		日本の歴史と社会	1前・後	2		○									兼4
		東洋の歴史と社会	1前	2		○									兼1
		西洋の歴史と社会	1前・後	2		○									兼4
		日本文学	1前・後	2		○									兼5
		外国文学	1前・後	2		○									兼3
		言語と文化	1前・後	2		○									兼4
		音楽	1前・後	2		○									兼2
		美術	1前・後	2		○									兼13
		言語表現	1前・後	2			○								兼2
		治療の文化史	1前・後	2		○		○							兼1
		異文化間コミュニケーション	1後	2		○									兼1
		異文化理解	1前	2		○									兼1
	小計 (16科目)	-	0	32	0		-		0	0	0	0	0	0	兼57
社会科学系		現代社会論	1前・後	2		○									兼5
		日本国憲法	1前・後	2		○									兼3
		国家と市民	1前・後	2		○									兼3
		経済生活と法	1前・後	2		○									兼3
		市民生活と法	1前・後	2		○									兼3
		はじめての経済学	1前・後	2		○									兼5
		産業と経済を学ぶ	1前・後	2		○									兼5
		経営資源のとりえ方	1前・後	2		○									兼3
		市場と企業の関係	1前・後	2		○									兼3
		地域の経済と社会・文化	1前	2		○									兼2
	小計 (10科目)	-	0	20	0		-		0	0	0	0	0	0	兼33
自然科学系		地球と環境	1前・後		2	○									兼2
		生命の世界	1前・後		2	○				2					兼4
		物理の世界	1前・後		2	○									兼2
		化学物質の世界	1前・後		2	○									兼3
		自然と情報の数理	1前・後		2	○									兼3
		社会と情報の数理	1前		2	○									兼1
		技術の世界	1後		2	○									兼2
		材料の科学	1前		2	○									兼1
		生活の科学	1前		2	○									兼2
		コンピュータの話	1前・後		2	○									兼2
		デザインと生物	1後		2	○									兼4
	小計 (11科目)	-	0	0	22		-		0	2	0	0	0	0	兼26
理系基盤教育系		解析学-A	1前		2	○									兼1
		解析学-B	1前		2	○									兼1
		微分積分I-A	1前		2	○									兼6
		微分積分I-B	1前		2	○									兼1
		微分積分I-C	1前		2	○									兼1
		微分積分I-D	1前		2	○									兼1
		微分積分I-E	1前		2	○									兼1
	線形代数学	1後		2	○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	理系基盤教育系	線形代数Ⅰ-A	1前・後		2	○									兼4
	線形代数Ⅰ-B	1前		2	○									兼1	
	線形代数Ⅰ-C	1前		2	○									兼1	
	線形代数Ⅰ-D	1前		2	○									兼1	
	線形代数Ⅰ-E	1前		2	○									兼1	
	自然現象のモデル化とその解析	1後	2		○									兼1	
	物理学序論Ⅰ	1前		2	○									兼1	
	物理学序論Ⅱ	1後		2	○									兼1	
	物理学Ⅰ-A	1前	2		○									兼1	
	物理学Ⅰ-B	1前	2		○									兼1	
	物理学Ⅱ-A	1後	2		○									兼1	
	物理学Ⅱ-B	1後	2		○									兼1	
	物理学実験-B	1後	1			○								兼1	
	基礎物理学-A	1前		2	○									兼2	
	基礎物理学-B	1前		2	○									兼2	
	現代物理学入門	1後	2		○									兼1	
	基礎化学-B	1前	2		○									兼1	
	化学実験-B	1前	1			○								兼1	
	基礎化学-C	1後		2	○									兼1	
	基礎化学-D	1後		2	○									兼1	
	基礎化学-E	1前		2	○									兼1	
	量子化学入門	1後	2		○									兼1	
	生命科学Ⅰ-B	1前	2		○									兼1	
	生命科学Ⅱ-B	1後	2		○									兼1	
	生物学実験-B	1後	1			○								兼1	
	基礎生物学-A	1前		2	○									兼1	
	基礎生物学-B	1後		2	○									兼1	
	生物無機化学入門	1後	2		○									兼1	
	生物圏環境科学概論	1前		2	○									兼1	
	小計 (37科目)	-		9	22	40	-			0	0	0	0	0	兼34
	医療・健康科学系	医療心理学	1前		2	○									兼1
		概説医療心理学	1前		1	○									兼1
		認知科学	1後		2	○									兼1
		脳科学入門	1後		2	○									兼2
		生命科学入門	1前		1	○									兼1
		免疫学入門	1前		2	○									兼1
		身近な医学	1後		2	○									兼1
障害とアクセシビリティ		1前		2	○									兼1	
医療と地域社会		1後		2	○				1						
小計 (9科目)		-		0	16	0	-			1	0	0	0	0	兼6
総合科目系	環境	1前		2	○									兼1	
	ジェンダー	1前・後		2	○									兼1	
	技術と社会	1前・後		2	○									兼2	
	現代文化	1後		2	○									兼1	
	人権と福祉	1前・後		2	○									兼1	
	環日本海	1前		2	○									兼1	
	科学と社会	1前・後		2	○									兼1	
	アカデミック・デザイン	1後		2	○									兼2	
	ビジネス思考	1後		2	○									兼1	
	平和学入門	1前		2	○									兼1	
	東アジア共同体論-政治・経済・文化-	1後		2	○									兼1	
	新聞投稿に挑戦	1後		2	○									兼1	
	富山から考える震災・復興学	1後		2	○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	総合科目系	環境と安全管理	1前	2		○									兼1	
	万葉学	1前	2		○										兼1	
	日本海学	1後	2		○										兼1	
	富山大学学	1後	2		○										兼1	
	とやま地域学	1前	2		○										兼1	
	時事的問題	1前	2		○										兼1	
	災害救援ボランティア論	1後	2		○										兼1	
	感性をはぐくむ	1前	2		○										兼1	
	日本事情／芸術文化	1後	2		○										兼1	
	日本事情／自然社会	1前	2		○										兼1	
	学士力・人間力基礎	1前	2		○										兼1	
	富山学	1前	2		○										兼1	
	地域ライフプラン	1前	2		○										兼1	
	産業観光学	1後	2		○										兼1	
	富山のものづくり概論	1後	2		○										兼1	
	富山の地域づくり	1前	2		○										兼3	
	小計 (29科目)	-	0	58	0	-				0	0	0	0	0	兼30	
	外国語系	英語リテラシーⅠ-C	1前		1			○								兼2
		英語リテラシーⅡ-C	1後		1			○								兼2
英語コミュニケーションⅠ-C		1前		1			○								兼3	
英語コミュニケーションⅡ-C		1後		1			○								兼3	
ドイツ語基礎Ⅰ		1前		1			○								兼6	
ドイツ語基礎Ⅱ		1後		1			○								兼5	
ドイツ語コミュニケーションⅠ		1前		1			○								兼6	
ドイツ語コミュニケーションⅡ		1後		1			○								兼5	
フランス語基礎Ⅰ		1前・後		1			○								兼2	
フランス語基礎Ⅱ		1前・後		1			○								兼2	
フランス語コミュニケーションⅠ		1前		1			○								兼5	
フランス語コミュニケーションⅡ		1前・後		1			○								兼5	
中国語基礎Ⅰ		1前・後		1			○								兼9	
中国語基礎Ⅱ		1前・後		1			○								兼9	
中国語コミュニケーションⅠ		1前		1			○								兼5	
中国語コミュニケーションⅡ		1後		1			○								兼5	
朝鮮語基礎Ⅰ		1前		1			○								兼1	
朝鮮語基礎Ⅱ		1後		1			○								兼2	
朝鮮語コミュニケーションⅠ		1前		1			○								兼2	
朝鮮語コミュニケーションⅡ		1後		1			○								兼2	
ロシア語基礎Ⅰ		1前		1			○								兼2	
ロシア語基礎Ⅱ		1後		1			○								兼1	
ロシア語コミュニケーションⅠ		1前		1			○								兼1	
ロシア語コミュニケーションⅡ		1後		1			○								兼1	
日本語リテラシーⅠ		1前		1			○								兼1 外国人留学生限定	
日本語リテラシーⅡ		1後		1			○								兼1 外国人留学生限定	
日本語コミュニケーションⅠ		1前		1			○								兼1 外国人留学生限定	
日本語コミュニケーションⅡ		1後		1			○								兼2 外国人留学生限定	
発展多言語演習ドイツ語		1前			1		○								兼1	
発展多言語演習中国語		1前			1		○								兼1	
発展多言語演習ラテン語Ⅰ		1前			1		○								兼1	
発展多言語演習ラテン語Ⅱ		1後			1		○								兼1	
日本語コミュニケーションⅢ		1前			1		○								兼1 外国人留学生限定	
日本語リテラシーⅢ		1後			1		○								兼1 外国人留学生限定	
日本語／専門研究		1前			1		○								兼1 外国人留学生限定	
日本語／ビジネス		1後			1		○								兼1 外国人留学生限定	
小計 (36科目)	-	0	28	8	-				0	0	0	0	0	兼48		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目 <small>保健・体育系 情報処理系</small>	健康・スポーツ／講義	1後		1		○									兼7
	健康・スポーツ／実技	1前・後	1					○							兼15
	小計(2科目)	-	1	1	0	-			0	0	0	0	0		兼16
	情報処理—B	1前・後・2後	2			○									兼3
	応用情報処理	1後			2		○								兼5
小計(2科目)	-	2	0	2	-			0	0	0	0	0		兼7	
基盤教育	薬学概論	1前	1			○			5						兼2
	医療学入門	1前	1			○			2						兼4
	行動科学	2前	2			○									兼1
	薬学英語Ⅰ	2前	1			○			1						兼1
	薬学英語Ⅱ	2後	1			○			1						兼1
	統計学	3前	2			○									兼1
	専門英語Ⅰ	3前	1			○			1						
	専門英語Ⅱ	3後	1			○			16	4					
	総合薬学演習	3後	1					○	9						
	富山のくすり学	3後	2			○			2						
	製薬企業と創薬	3後	1					○	1						
	薬学経済	4前	2			○			1						
小計(12科目)	-	16	0	0	-			16	4	0	0	0		兼8	
物理系薬学	物理化学Ⅰ	1後	2			○			1	1					
	物理化学Ⅱ	2前	2			○			1						
	分析化学	2前	2			○			1						
	小計(3科目)	-	6	0	0	-			3	1					
化学系薬学	基礎有機化学Ⅰ	1前	2			○									兼1
	基礎有機化学Ⅱ	1後	2			○				1		1			
	有機化学Ⅰ	2前	2			○			1	1					
	有機化学Ⅱ	2前	2			○			1						
	有機化学Ⅲ	2後	2			○			1	1					
	創薬化学	3前	2			○			1						
小計(6科目)	-	12	0	0	-			2	3		1			兼1	
生物系薬学	生化学Ⅰ	2前	2			○				1					
	生化学Ⅱ	2後	2			○			1	1		1			
	細胞生物学	2後	2			○			2	1					
	微生物学	2後	2			○				1					
	先端分子薬学	3後	2			○			2	4		3			
	病原微生物学	3後	2			○									兼5
小計(6科目)	-	12	0	0	-			2	4	0	4	0		兼5	
薬衛生	衛生薬学Ⅰ	3前	2			○			1			1			
	小計(1科目)	-	2	0	0	-			1	0	0	1	0		
学和漢薬	和漢医薬学入門	2前	1			○			1	1					兼22
	生薬学	2前	2			○				1					
	小計(2科目)	-	3	0	0	-			1	1	0	0	0		兼22
医療薬学	生物薬剤学	3前	2			○			1			1			
	基礎薬理学Ⅰ	3前	2			○			1	1					
	基礎薬理学Ⅱ	3後	1			○			3						
	物理薬剤学	3後	2			○			3			1			
	医療薬剤学	3後	2			○			1						
小計(5科目)	-	9	0	0	-			5	1	0	1	0			
基礎薬学実習	物理系実習	2前	3					○	3	3		2			
	化学系実習	2後	4					○	2	4		4			
	生物系実習	3前	4					○	2	4		3			兼2
	医療系実習	3前・3後	3					○	3	2		2			
	小計(4科目)	-	14	0	0	-			10	13	0	11	0		兼2

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
研究業	卒業研究	4通	10					○	16	4	0	0	0	
	小計(1科目)	—	10	0	0			—	16	4	0	0	0	
教育盤	知的財産概論	4前		1		○			1					兼4
	小計(1科目)	—	0	1	0			—	1	0	0	0	0	兼4
物理系薬学	応用分析化学	2後		2		○			1					
	生物物理化学	2後		2		○			1	1				
	構造生物学	3前		2		○			1	1				
	薬品物理化学	3前		2		○			1	1				
	トランスポーター論	3前		2		○			1	1				
	小計(5科目)	—	0	10	0			—	4	3	0	0	0	
化学系薬学	物理有機化学	2前		2		○				1				兼1
	無機化学	2後		2		○			1					兼2
	機器分析	2後		2		○				1				兼1
	合成化学	3前		2		○			1	1				
	ケミカル・バイオロジーⅠ	3前		2		○				1				兼1
	ケミカル・バイオロジーⅡ	3前		2		○			1	1				
	小計(6科目)	—	0	12	0			—	2	4	0	0	0	兼5
生物系薬学	生理学	2前		2		○								兼5
	人体機能形態学	2後		2		○			2					兼5
	生体調節科学	3前		2		○				3		2		
	分子遺伝動物学	3後		2		○								兼8
	免疫学	3後		2		○			1					兼3
	小計(5科目)	—	0	10	0			—	3	3	0	2	0	兼21
薬衛生	衛生薬学Ⅱ	3後		2		○				1		1		
	衛生薬学Ⅲ	3後		2		○			1	1				
	小計(2科目)	—	0	4	0			—	1	2	0	1	0	
薬和学漢	東洋医学概論	2後		2		○								兼1
	天然医薬資源学	3後		2		○				1				兼1
	小計(2科目)	—	0	4	0			—	0	1	0	0	0	兼2
医療薬学	薬物動態学	3後		2		○			1					
	病態薬物治療学Ⅰ	3後		1		○			1			1		
	病態薬物治療学Ⅱ	4前		2		○			1	1				
	病態薬物治療学Ⅲ	4前		2		○			2	1	1	1		
	小計(4科目)	—	0	7	0			—	4	1	1	2	0	
教育盤	海外薬学演習Ⅰ	1前			1		○		2					
	海外薬学演習Ⅱ	1前			2		○		2					
	小計(2科目)	—	0	0	3			—	2	0	0	0	0	
和漢薬コース	和漢医薬学演習	4前			2		○		1					兼1
	東西医薬学Ⅰ	3後			2	○			1	1				兼1
	東西医薬学Ⅱ	3後			2	○			1					兼2
	和漢医薬学実習	4前			2			○	1					兼1
	小計(4科目)	—	0	0	8			—	1	1	0	0	0	兼5
ス応用製	夏期講習(応用製薬)	3前			4			○	1					
	小計(1科目)	—	0	0	4			—	1	0	0	0	0	
合計(224科目)		—	96	225	87			—	16	14	0	11	0	兼320
学位又は称号		学士(薬科学)			学位又は学科の分野			薬学関係						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
次の履修方法により141単位以上を履修すること。 ・教養教育科目から必修12単位を含む38単位以上 ・専門教育科目の必修科目の基盤教育16単位、物理系薬学6単位、化学系薬学12単位、生物系薬学12単位、衛生薬学2単位、和漢薬学3単位、医療薬学9単位、基礎薬学実習14単位及び卒業研究10単位 ・選択科目の基盤教育、物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学、衛生薬学、和漢薬学及び医療薬学から19単位以上						1 学年の学期区分			2 学期					
						1 学期の授業期間			1 5 週					
						1 時限の授業時間			9 0 分					

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

授 業 科 目 の 概 要			
(総合医薬学研究科 総合医薬学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	研究倫理	<p>（概要）研究者には分野を問わず、研究倫理を守ることが求められる。研究に従事する者に求められる倫理、規範意識、科学の社会的責任、研究費の取扱い等について理解させることを目的とする。 （オムニバス形式／全8回）</p> <p>（168 中村 征樹（非常勤講師）／1回） 研究不正の防止と責任ある研究活動 （151 沖野 浩二／1回） 研究活動における情報管理上の注意点、プライバシー保護 （136 宮島 光志／1回） 研究活動における生命倫理 （137 豊岡 尚樹／5回） 公的研究費の取り扱い、データの扱いと共同研究のルール、オーサーシップ等（eラーニング教材利用）</p>	オムニバス・メディア
	科学技術と持続可能社会	<p>（概要）科学技術の発展により、私たちは高度な文明を築き、豊かな生活を送ることができるようになった。その一方で、科学技術の利用による様々な社会問題や環境問題が生じ、私たちは科学技術がもたらす負の側面にも正面から向き合わざるを得ない状況にある。これらの様々な課題を解決し、私たちの生活をより豊かで持続可能な形にするためには、新しい科学技術や利用法が必要である。この授業では、過去から現在に至る科学技術の発展による我々の生活の変化を知り、それに伴い経済、社会、環境にどのような課題が生じてきたのかを考え、科学技術が達成すべき未来を描くことの重要性を探求し、そしてこのような課題を解決するためにどのような新しい科学技術とその利用方法が必要なのかについて理解を深める。 （オムニバス形式／全8回）</p> <p>（169 岸本 充生（非常勤講師）／1回） 科学技術イノベーションをめぐる課題 （170 平川 秀幸（非常勤講師）／1回） 科学技術と社会のコミュニケーションの課題 （152 池田 丈佑／1回） 科学技術とグローバル・ガバナンス／エシックス （140 龍 世祥／1回） 産業革命と社会システムの変革、持続可能社会の形成 （8 稲寺 秀邦／1回） イタイイタイ病の歴史から学ぶ持続可能社会 （138 上原 雄史／1回） 都市と建築の相互性に基づいた現代建築の重層化する必要性の理解。 （141 和田 直也・167 Shishir Sharmin／1回）（共同） 熱帯地域における経済発展・森林断片化と新興感染症問題 （139 張 勁／1回） 海洋と陸域の水・物質循環の今と今後の適応策</p>	オムニバス・メディア・共同（一部）
	地域共生社会特論	<p>我が国で行われてきた地域の相互援助や家族同士の助け合いなど、家庭・地域・職場などの生活場面において支えあいの機能が存在していた。今日の社会保障制度はそのような社会背景のもとに構築されてきている。現代的に考えると高齢化・人口減などの課題に対して、従来のシステムでは対応しきれない状況が現れてきている。人々が生活する、地域社会でこそ、その生活を支えられる新たなシステムが必要とされている。そこで「地域共生社会」をどのように構築すべきかを現代社会の課題ととらえ、その実証的検証を踏まえた考察を試み、制度や分野の枠組みを超えた地域社会想像を考察するものである。 超少子高齢社会を見据えながら、地域共生社会の構築方法を、グローバルな視点と多文化共生の観点も含めて理解し、社会の在り方を考察しながら、新しい公共の構築を理解できることを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	研究者としてのコミュニケーション：基礎と応用	<p>(概要) コミュニケーション能力として「他者の考えを理解し、自らも情報発信する能力を身に付けている。また、適切な手段や言語を使い、多様な人々との意思疎通と協働を可能にする能力を身に付けている」ことを前提に、基盤的な確認をする。またコミュニケーションの内容と構造の分析方法も学び、研究・論文作成に必要なコミュニケーション技術獲得方法についても教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(142 山崎 けい子/1回)：コミュニケーションの概念 (44 堀 悦郎/2回)：コミュニケーションの内容・成立要件、病理的コミュニケーション (36 袴田 優子/1回)：医療的コミュニケーション (38 八塚 美樹/1回)：共感的な他者とのコミュニケーション (143 内田 和美/1回)：ヒト・モノ・コトとのコミュニケーション (158 尾山 真/2回)：自身のコミュニケーションを理解し、研究指導者との良好なコミュニケーション</p>	オムニバス・メディア
	アート・デザイン思考	<p>(概要) アート思考とデザイン思考についての理解を深めるとともに、STEAM教育を含む社会におけるアート・デザインの役割についての考察を深める科目。アート思考はアーティストの思考法を取り入れることであり、デザイン思考はデザイナーの思考法を取り入れることである。アートとデザインが異なるようにアート思考とデザイン思考も異なるが、変動が激しく先が見え難く、様々な問題が複雑に絡み合う現代社会においては、これらの視点が役立つとされる。本授業では、これらの視点を学ぶとともに、アート思考とデザイン思考を身につけてゆく。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(154 有田 行男・161 長田 堅二郎・160 松田 愛/2回) (共同) アート思考とデザイン思考、社会におけるアート・デザインの役割～創造の観点から～ (154 有田 行男/1回) アートとデザインの周辺・アートとデザインの融合 (160 松田 愛/1回) 社会におけるアートの役割～キュレーションの観点から～ (161 長田 堅二郎/1回) 社会におけるアートの役割～アートマーケットの観点から～ (143 内田 和美/1回) 社会におけるデザインの役割～プロダクトデザインの観点から～ (162 岡本 知久/1回) 社会におけるデザインの役割～ビジュアルデザインの観点から～ (163 藪谷 祐介/1回) 社会におけるアート・デザインの役割～まちづくりの観点から～</p>	オムニバス・メディア・共同 (一部)
	英語論文作成 I	<p>科学論文や技術報告書を正しい英語で分かりやすく書くための文法的な基礎知識を身につける。論文等に書かれた英文の構造を分析して正しく読み取ることができるようにする。 英作文の基礎となる文型をしっかり身につける。即ち、能動態の文を受動態に、受動態の文を能動態に変えることができるようにする。</p>	共同 (一部)
	英語論文作成 II	<p>科学論文や技術報告書を正しい英語で分かりやすく書くための文法的な基礎知識を身につける。論文等に書かれた英文の構造を分析して正しく読み取ることができるようにする。 関係代名詞と分詞構文を正しく使えるようにする。関係代名詞では主格、目的格、所有格、前置詞付きの関係代名詞を使えるように、また制限用法と非制限用法の違いを知る。正しい句読点(ピリオド、コンマ、セミコロン、コロンの)の使い方を学ぶ。一つの文は長くしないほうが良い(20単語以内)ということを知る。理工系特有の数値、数量、数式の表現を身につける。</p>	共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	データサイエンス特論	<p>(概要) 最初に、多様なデータ解析の実務で汎用的に利用されている機械学修の基礎を確認し、その後、機械学修の要素技術を確実・安全に運用するために必要となる数理解析の理論と技術を学修する。そして、革新的な進化を遂げている生命情報の話題を理解することで、データサイエンスによって大きく変容していく学術分野の事例を研究する。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(137 豊岡 尚樹・144 モヴシュク オレクサンダー/1回) 全体総括 (144 モヴシュク オレクサンダー/1回) 最新機械学修の基本と仕組み (155 春木 孝之/1回) データサイエンス基礎 (教師なし学修) (156 参沢 匡将/1回) データサイエンス基礎 (教師あり学修) (145 藤田 安啓/1回) 数学とデータサイエンス (157 長岡 亮/1回) データサイエンスのための情報セキュリティ技術 (117 奥 牧人/1回) 生命情報学とデータサイエンス (33 中條 大輔/1回) 医療データを用いた医学的知見の創出</p>	オムニバス・メディア・共同 (一部)
	大学院生のためのキャリア形成	<p>(概要) 将来、職業人としての経験を重ねていくための道標を提供する科目である。キャリア開発やキャリア形成は膨大な蓄積を伴う学問分野であるが、本講義では学術的な研究ではなく、大学院生が自らのキャリアを考えるためのツールと言う視点から、実践を交えつつキャリア形成を巡る理論を学ぶ。 達成目標は以下のとおり。 ① 組織、社会との関わりの中で、自らのキャリア形成に対する展望を自律的に得ることができる。 ② 組織のマネジメントで必要とされるキャリア開発の基本的な考え方を身に付けている。 ③ 受講生自身が、自らのキャリアに対する考え方の成長を実感できる。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(146 中村 和之/1回) 全体総括及び社会・経済状況の概説 (158 尾山 真/2回) 自己分析・環境分析等に関する手法、キャリア形成理論 (146 中村 和之・158 尾山 真/5回) (共同) 大学院修了者の講演を参考にした履修者同士によるグループ討論、周囲の人へのインタビュー・発表</p>	オムニバス・メディア・共同 (一部)
	知的財産法	<p>(概要) 理工系出身者の多くが研究開発に従事、他の分野においても各種知的財産を抜きにはビジネス構築ができない時代となった。我が国の国家戦略としての知財の重要性を理解し、各自の今後の活動に活かすことのできるツールとしての知的財産についての理解を深める。 知的財産の基本的な知識と技術を修得し、社会における知的財産と産業における産業財産権の意義や役割を理解、産業の発展を図り活用する能力および知的財産創造サイクルを回す考え方を育成する。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(172 大谷 嘉一 (非常勤講師) /4回) 知的財産権の基礎 (知的財産制度の概要、特許権・実用新案権・意匠権・商標権等・著作権等各知的財産の詳細、グローバルな権利としての知的財産の側面) (173 赤坂 彰彦 (非常勤講師) /3回) 知的財産権の実際 (特許明細書の構成・内容、先行技術調査・検索、不正競争防止法等) (147 田端 俊英/1回) 知的財産権の実際 (地域企業における知的財産活用の事例を紹介に基づく業界による違い・特徴)</p>	オムニバス・メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科共通科目	総合医薬学	<p>(概要) 医薬学を専門的に学ぶ基盤として、医薬学の幅広い基礎知識、方法論、医療系多職種連携などについて学ぶ。基礎医学、臨床医学、薬学、看護学のそれぞれの専門分野の講師が、基礎知識から最先端の研究動向、多分野にわたる共同研究や連携方法をオムニバス形式で講義を行い、幅広い医薬学的知識を学ぶ。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(10 森 寿/5回) 医薬学の協働の現状と課題、医薬学からなる大学院生のグループ編成とグループ課題設定(多職種連携や共同研究について)、グループワーク、プレゼン準備と個人レポート作成及びグループワークの発表、講義の振り返りと総合討論 (7 関根 道和/1回) 医学から見た医薬学の多職種連携や共同研究の具体例と課題 (54 酒井 秀紀/1回) 薬学から見た医薬学の多職種連携や共同研究の具体例と課題 (42 田村 須賀子/1回) 看護学から見た医薬学の多職種連携や共同研究の具体例と課題</p>	オムニバス・メディア
	臨床研究の計画法	<p>(概要) 臨床研究を計画・実施するにあたっての基礎的な知識を身につける。具体的には、研究倫理、倫理指針および法律、臨床研究の種類およびデザイン、ビットフォールを含めた臨床研究の進め方、看護研究、臨床研究データの取り扱いと解析法について講義を行う。研究計画案の作成に関する実習やディスカッションを交えて、実務的感覚も養う。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(33 中條 大輔/ 2と1/3回) 臨床研究の種類、臨床研究のデザイン (34 寺元 剛/ 2と1/3回) 研究倫理、臨床研究に関する規制; 指針と法 (83 猪又 峰彦/ 1と1/3回) 臨床研究の進め方の実際; ビットフォールも含めて (41 比嘉 勇人/ 1回) 看護研究 (59 田口 雅登/ 1回) 臨床試験から得たデータの取り扱いと解析法</p>	オムニバス・共同(一部)
	解剖生理病態学序論	<p>先端医学を学修する基礎を築くために、ヒトの生体の階層性・運動系、神経系、呼吸系、運動系、循環系の構造・機能と病態の概要を理解する。附属病院で病理診断に携わる等の、実務に携わる教員による授業が含まれている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞と組織や器官などとの関係について概説できる。 2. 運動系の構造と機能を概説できる。 3. 循環系と心臓の構造と機能を概説できる。 4. 呼吸系の構造と機能を概説できる。 	
	解剖生理病態学特論	<p>先端医学を学修する基礎を築くために、ヒトの腎泌尿器系の構造と機能、消化器系の構造と機能と病態の概要を理解する。附属病院で病理診断に携わる等の、実務に携わる教員による授業が含まれている。</p> <p>具体的には、腎泌尿器系の構造と機能、消化器系の構造と機能、組織学実習、病因論 疾病、疾病の病理診断、病理学的研究、腫瘍の発生病理について講義する。</p>	
	病態薬理学序論	<p>代表的な疾病の病態生理を正しく理解し、病態と適切に関連づけながら最前線の臨床で必要とされている薬物治療学の基本的知識を習得できることを目的としている。また、基礎研究の成果がどのように創薬に結びついているのかについても理解する。</p> <p>具体的には、薬理学序論、医薬品開発、自律神経薬理学、高血圧治療薬、抗狭心症薬、抗不整脈薬、強心薬、抗血小板薬、抗凝固薬、抗不安薬、抗うつ薬、抗精神病薬、抗てんかん薬、アルツハイマー治療薬、パーキンソン病治療薬、全身麻酔薬、局所麻酔薬、筋弛緩薬及びオピオイドについて講義する。</p>	
病態薬理学特論	<p>病態薬理学序論で学んだ知識を発展させ、より多くの疾病の病態生理や薬物治療学について学ぶことを目的としている。また、最新の分子標的薬やその開発のための基礎研究についても理解する。</p> <p>各回の講義内容は、第1回 消炎・鎮痛薬、抗アレルギー薬、免疫抑制剤、第2回 消化器系・呼吸器系に作用する薬物、第3回 糖尿病治療薬、高脂血症治療薬 第4回 痛風・高尿酸血症治療薬、甲状腺・内分泌疾患治療薬、第5回 抗感染症薬: 抗菌剤、抗ウイルス薬、第6回 消毒学・中毒学、第7回 抗悪性腫瘍薬、第8回 基礎研究と創薬である。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科共通科目	心身健康科学	<p>(概要) 人間の感情や思考は「からだ」「こころ」「くらし」の3要素が含まれ、絡み合っている。それぞれは独立しておらず健康を維持する上でも重要な役割を果たしている。どれかが崩れることで疾病の発生につながるが、一方でバランス維持のために補充しあうこともある。それぞれの要素にはある程度の相関があり、個人ばかりでなく、社会の健康につながる。これらの視点でレポートを作成し、心身健康科学の理解がどこまで達成しているかを評価する。 (オムニバス方式/全9回)</p> <p>(43 金森 昌彦/3回) 心身相関を考える(運動器人間科学入門, 痛みの心身相関, 緑茶の効用) (44 堀 悦郎/3回) こころと身体をむすぶ中枢神経の機能(こころの機能としての情動の役割, 記憶・情動の脳機能, 外界刺激の受容と行動発現に関する脳の働き) (159 澤 聡美/3回) ライフステージにおける運動と健康教育(幼児期の運動と心の発達, 学校における体育授業の役割, 地域における運動と健康増進)</p>	オムニバス
	日本語・日本文化	<p>大学院から本学に進学する留学生が修士課程の科目を履修し、さらに充実した大学院生活を送る際には母語及び英語のみではなく、日本語も必要となることから、本科目では以下の目標を設定し、日本語に関する教育を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初級日本語前半の文法を学習し、それらの内、日本語基礎力に深く関わる部分が運用できるようにする。 ・日常生活の基本的な場面に必要な日本語能力や態度を学習する。 ・ひらがな・カタカナの読み書きを学び、自身にとって必要になる読み書き力の基礎を作る。 <p>なお、本授業科目は、外国人留学生のみ履修可能とする。</p>	
先端医科学プログラム専門科目	基礎臨床医科学概論	<p>(概要) 医学のバックグラウンドを持たない大学院生に対して、基礎医学、臨床医学のそれぞれの専門分野の基礎知識から最先端の研究動向までをオムニバス形式で講義を行い、幅広い医学的知識を学ぶ。以下の学修目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医学の基盤となった分子生物学、免疫学、実験動物学、細菌学などの学問分野の基本的知識、研究の歴史、医学への応用の概要が理解でき、説明できる。 2) 内科学、外科学の各専門分野の成り立ち、それぞれの分野の基本的知識と診断治療の原理、臨床研究などについて概要を理解し、説明できる。 <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(10 森 寿/3回) 先端医科学の基礎となる分子生物学的方法 (70 小澤 龍彦/1回) (8 稲寺 秀邦/1回) 基礎医学研究で用いられる手法の原理、応用と評価 (32 長島 久/1回) (126 奥村 知之/1回) (82 廣田 弘毅/1回) 臨床医学研究で用いられる研究手法の原理、応用と評価 (35 高雄 啓三/1回) 医学研究における動物実験の位置付け、動物実験の留意点、倫理的配慮、具体的な解析方法 (74 八木 邦公/1回) (120 城宝 秀司/1回) (75 田尻 和人/1回) (27 佐藤 勉/1回) 内科領域の医学研究の具体例とその内容、今後の発展性 (79 深原 一晃/1回) (122 西山 直隆/1回) (30 佐武 利彦/1回) (21 黒田 敏/1回) (88 赤井 卓也/1回) 外科領域の医学研究の具体例とその内容、今後の発展性</p>	オムニバス・メディア
先端医科学プログラム専門科目	社会医学序論	<p>社会医学の目的、内容、方法について学修する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康事象に影響を及ぼす社会要因について学修する。 2. 健康事象に影響を及ぼす環境要因について学修する。 3. 健康管理や疾病予防の方法について学修する。 4. 疫学手法やその応用について学修する。 5. 救急医学・災害医学の概要・取組みについて学修する。 6. 法医学の概要・取組みについて学修する。 	
	社会医学特論	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会と健康・疾患との関係について理解し、環境諸要因の変化による個人の健康と社会生活への影響について学修する。 2. 保健統計の意義、疫学とその応用、疾病の予防について学修する。 3. 地域における救急医療、災害時における医療体制確立の必要性について学修する。 4. 個体の死について理解し、異常死体の検案について学修する。 	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先端医科学プログラム専門科目 プログラム科目	生体防御医学序論	代表的な病原体の特徴、検査の方法、化学療法、基本的な感染免疫について学ぶ。具体的には、細菌、ウイルスの基本的性状とそれぞれが起こす感染症、培養や核酸検査の方法とその限界、抗菌・抗ウイルス化学療法の実例と作用機序、自然免疫と獲得免疫・ワクチンについて学ぶ。さらに、新興感染症と再興感染症の概念と、それぞれが持つ課題について考える。序論では、臨床的な感染症のイメージの理解に必要な基本的な知識を学ぶ。	
	生体防御医学特論	微生物と免疫の基本的な知識を活かして、どのような病態の感染症があるのかを学修する。また、社会的な感染症の問題を理解するために、新興・再興感染症の問題、薬剤耐性の問題、感染症にかかりやすい人とはどのような人か、などを学び、診断、治療、予防、感染制御の考え方やそれぞれの位置づけを理解することで、臨床的な感染症学の概観の把握と臨床的視点の育成を行う。	
	分子ゲノム医科学序論	(概要) 分子ゲノム医科学序論では、生化学ならびに分子生物学の基礎について講義する。特に、生体物質を扱う立場から、細胞内器官の構造と機能、生体高分子(核酸、タンパク質、脂質、糖質など)の合成、調節、代謝、それらの分子機構について講義する。 (オムニバス形式/全8回) (10 森 寿/3回) 医科学の基礎となっている細胞生物学の観点から細胞内器官の基本構造と機能 (3 井ノ口 馨/1回) 遺伝情報としてのDNAの構造、複製、修復反応 (78 小川 良平/1回) 遺伝子の基本構造と転写とその調節機構 (73 吉田 知之/1回) 遺伝子操作の原理と医科学における応用 (87 宮本 大祐/1回) タンパク質の細胞内局在化や分泌、細胞内動態の機構 (130 野本 真順/1回) 遺伝子発現のうち翻訳とタンパク質の立体構造形成	オムニバス・メディア
	分子ゲノム医科学特論	(概要) 分子ゲノム医科学特論では、生化学と分子生物学の基礎的理解のもとに、生体物質機能に立脚した生体機能、それらの異常であるがんや中枢神経疾患等の発症機構と診断方法、治療の分子機構を理解する事を目的として講義を行う。 (オムニバス形式/全8回) (10 森 寿/3回) 分子ゲノム医科学序論、がんや中枢神経疾患等の発症機構と診断方法、治療の分子機構 (3 井ノ口 馨/1回) 分子生物学的方法による疾患原因遺伝子決定法 (78 小川 良平/1回) 細胞間および細胞内の情報伝達系とその異常に基づく疾患 (73 吉田 知之/1回) エネルギー産生・酸化還元や酸化ストレスとそれらの異常による疾患 (87 宮本 大祐/1回) タンパク質の機能と調節とその異常に伴う疾患 (130 野本 真順/1回) 高分子物質の代謝回転と量的変動調節機構とそれらの疾患	オムニバス・メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先端 医科学 プログラム 専門科目 プログラム 科目	中枢神経遺伝子工学序論 (英語での授業)	<p>(概要) Students will learn the following subjects;</p> <p>1) Basic information of molecular biology such as structure and function of DNA, RNA, and protein. 2) Basic experimental methods such as recombinant DNA technology, gene targeting, genome editing, and so on. 3) Merits and demerits of model organisms (Nematoda, Fruit fly, Zebra fish, Chick, and Mouse) for molecular biological study. 4) Methods to generate transgenic and gene-knockout animals for the analyses of brain function and dysfunction. 5) Optogenetics and chem-genetics approach to study brain functions. 6) Methods to use virus vectors. 7) Phenotype analysis of gene manipulated animals. 8) Application to medical science.</p> <p>以下の内容について学修する。 1) DNA, RNA, タンパク質の構造と機能など, 分子生物学の基礎知識。2) 組換えDNA技術, ジーンターゲットイング, ゲノム編集などの基本的な実験方法。3) 分子生物学的研究のためのモデル生物 (線虫, ミバエ, ゼブラフィッシュ, ニワトリ, マウス) の長所と短所。4) 脳の機能や機能不全を解析するためのトランスジェニック動物や遺伝子ノックアウト動物の作製法。5) オプトジェネティクスやケムジェネティクスを用いた脳機能の研究。6) ウイルスベクターの利用法。7) 遺伝子操作された動物の表現型解析。8) 医学への応用。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(10 森 寿/5回) DNA, RNA, タンパク質の構造と機能, 組換えDNA技術 (細菌とウイルス), 遺伝子ターゲットイングベクターの構築, ウイルスベクターの構築 (73 吉田 知之/2回) 組換えDNA技術 (動物モデル), トランスジェニックベクターの構築 (104 田淵 明子/1回) 組換えDNA技術 (培養細胞)</p>	オムニバス・メディア
	細胞内シグナル伝達系序論	<p>(概要) Understanding of the molecular mechanism and regulation of the signal transduction are critical for elucidation of normal neural development, higher brain functions, and pathological conditions in in the central nervous system (CNS). In this lecture, we will mainly focus on molecular mechanisms of signal transduction from cell surface receptors to the nucleus in neural cells and also introduce the roles of signal transduction in normal and pathological states of CNS.</p> <p>中枢神経系 (CNS) における正常な神経発生, 高次脳機能および病態を解明するためには, シグナル伝達の分子機構とその制御を理解することが重要である。本講義では, 神経細胞における細胞表面の受容体から核へのシグナル伝達の分子機構を中心に, 中枢神経系の正常・病態におけるシグナル伝達の役割について紹介する。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(10 森 寿/5回) CNSにおけるシグナル伝達, シナプス伝達, 神経伝達物質, 神経伝達物質受容体, 神経変性疾患及びその分子基盤と動物モデル, 精神疾患の分子的基盤と動物モデル (73 吉田 知之/2回) モデル生物における神経発生, 発生過程の神経新生と成人の神経新生 (104 田淵 明子/1回) in vitroおよびin vivoにおけるシナプス可塑性</p>	オムニバス・メディア
	中枢神経薬理学序論	<p>(概要) 中枢神経系の機能を理解するための薬理学的アプローチ及び神経精神疾患治療薬, 神経変性疾患治療薬の作用機構について学ぶ。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(10 森 寿/6回) 神経伝達物質の種類と放出機構, 神経伝達物質受容体の種類と機能, 精神疾患の治療薬, てんかんの治療薬 (46 久米 利明/1回) 神経変性疾患の治療薬 (104 田淵 明子/1回) 中枢神経に作用する薬物</p>	オムニバス・メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先端医科学プログラム専門科目 プログラム科目	臨床行動科学序論	本講義では神経科学, 認知科学, 神経心理学及び行動神経科学等の観点から, ヒトの行動とその変化を理解するために必要な, 行動発現に関与する脳の構造や機能と神経生理学的基盤, 脳と心の働きとの関係, 脳と行動の関係を理解するための方法, 脳の障害としての神経精神疾患の病態に関する基本的事柄について基礎医学的側面を中心に学修する。	
	臨床行動科学特論	ヒトの行動とその変化を理解するために必要な神経精神疾患の病態に関する基本的事柄について学修する。具体的には, 臨床場面で出会う様々な精神症状, 精神疾患の診断分類(症候性を含む器質性精神障害, 神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害等), 精神疾患(統合失調症, 気分障害等)の症状とその病態生理及びその診断および治療, 神経心理学的技法および高次脳機能障害について学修する。	
	病態検査医学序論	臨床検査医学は, 諸検査により生体情報を客観的に解析し, その活用により疾患の診断と治療を支援するシステムを研究・開発し臨床応用にトランスレーションする学問である。検査のサンプリングから検査原理, 検査に与える影響や疾患の病態に適応する検査法を選択し, その結果を解釈することまでトータルに学修し, クリニカルクラークシップにて有効に学修できることを授業の狙いとする。	
	病態検査医学特論	放射線医学がどのような学問であるか学修する。具体的には, CT, MRI, PET検査などの画像診断技術の進歩を理解して, その技術を使用した最新の形態画像診断および機能画像診断法について学修する。さらに, 放射線に関する基礎的知識を理解して, IMRTなどの高精度放射線治療および陽子線・重粒子線による最新の放射線治療法について学修する。	
	感覚・運動・脳病態学序論	本講義では以下の観点で主に形態的特質に焦点を当て講義を行う。 1) 感覚器・運動器・脳神経の基本的構造を理解する。 2) 感覚運動器に関連する中枢・末梢神経系の解剖についての知識を習得する。 3) 基本的脳脊髄・末梢神経・筋疾患, その他の運動器疾患, 眼疾患, 耳鼻咽喉・気管食道疾患, 口腔領域疾患の解剖学的特徴を理解する。	
	感覚・運動・脳病態学特論	本講義では以下の観点で主に病態および治療に焦点を当て講義を行う。 1) 感覚器・運動器・脳神経の基本的構造と病態および治療を理解する。 2) 感覚運動器に関連する中枢・末梢神経系の解剖生理についての知識を習得し, 疾患の病態および治療を理解する。 3) 基本的脳脊髄・末梢神経・筋疾患, その他の運動器疾患, 眼疾患, 耳鼻咽喉・気管食道疾患, 口腔領域疾患の病態と治療を理解する。	
	東洋医学序論	近年の漢方医学への関心の高まりから, 漢方薬を処方する医師が増えている。しかし多くの医師はエビデンスを基にいわゆる“(西洋医学的)病名処方”を行っている。しかし, “病名処方”した漢方薬が無効だった時はどうか? 実際, 病名処方できる漢方薬は限られているため, 次の一手を打つことが難しいと思われる。序論では漢方処方を漢方医学的観点から適切に運用できるように漢方医学について歴史, 病態概念, 診断および治療について理解することを目標とする。	
	東洋医学特論	我国は超高齢化社会を迎えようとしている。それに伴い, 動脈硬化性疾患や悪性腫瘍などへの対策が重要視されてきている。一方で若年者を中心にアレルギー性疾患も増加している。 このような状況を反映して, 現代西洋医学だけではカバーしきれない疾患・病態に対して漢方医学(東洋医学)の果たす役割が再認識されてきている。現代医療の中で如何に活かしていくかが課題であり, 同時にエビデンスの蓄積, 薬理作用の解明が求められている。特論でさまざまな領域への漢方医学の応用についてエビデンスや薬理作用も含めて最新の臨床ならびに基礎研究の成果を理解することを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先端医科学プログラム専門科目 プログラム専門科目	高度先進医療実践学序論	<p>(概要) 運動不足・高脂肪食・過食などのエネルギー過剰の生活習慣により肥満、内臓脂肪蓄積をきたし、高血圧・脂質代謝異常・高血糖を引き起こすメタボリック症候群が増加している。その結果、2型糖尿病・虚血性心疾患・脳卒中などが増加している。糖尿病は血管合併症のみならず、心不全や脂肪肝、膵がん・大腸がんなどの悪性腫瘍も発症リスクとなる。本講義では、これらの習慣病の病態と治療の最前線を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 戸邊 一之/2回) 生活習慣病，メタボリックシンドロームの病態 (12 絹川 弘一郎/2回) カテーテル治療の最前線，臨床心不全学の最前線 (13 安田 一朗/2回) 膵臓・胆道疾患診療の最前線，肝疾患の最新の診断・治療 (33 中條 大輔/1回) 糖尿病治療の最前線 (74 八木 邦公/1回) 糖尿病：治療薬の最前線</p>	オムニバス・メディア
	高度先進医療実践学特論	<p>(概要) 本論では、悪性腫瘍に対する外科手術治療(最新の下部消化管手術、肝胆膵の手術)やエビデンスに基づいた化学療法の実際、腎移植の適応と現状、救急災害医療の方法論、少子高齢化社会における男性不妊症の現状と問題点、新生児の心臓手術の現況、産婦人科領域の妊娠高血圧症候群(妊娠中毒症)の発症機序や早産と炎症について、高度先進医療を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 戸邊 一之/ 1/2回) 高度先進医療概観 (20 藤井 努/ 1/2回) 下部消化管手術，肝胆膵の手術 (31 林 龍二/1回) エビデンスに基づいたがん化学療法の実際 (25 北村 寛/2回) 腎移植の適応と現状，男性不妊症の現状と問題点 (86 若杉 雅浩/1回) 救急・災害医学の方法論 (23 中島 彰俊/2回) 妊娠高血圧症候群(妊娠中毒症)の病因と病態，早産と炎症 (19 芳村 直樹/1回) 新生児の心臓手術</p>	オムニバス・メディア
	救急蘇生学序論	<p>突然目の前で人が倒れた時の対処、心肺蘇生法はすべての医療従事者に必須の技能です。心肺蘇生法は、世界共通のガイドラインの上になり立っています。日本は、アジア蘇生学会の主要メンバーとして国際蘇生法連絡委員会に加盟しており、5年毎にガイドラインを策定し公開しています。テキスト学習により最新的心肺蘇生法を理解して実践できることを目的とする。テキスト学習にて、心停止の最初の十分間に行うべきことを理解することが最初の目標です。テキストに関するレポート提出にて成績評価します。</p>	
	救急蘇生学特論	<p>日常生活での傷病者発生時、病院内での急変時などの際に行う心肺蘇生法は実践できるだけでなく、その学問的背景を理解することも重要である。心肺蘇生法は学術研究の成果に基づき定期的にアップデートされており、常に最新の情報に触れておくことは重要である。また最新の救急蘇生学と、それに関連する集中治療管理に関して学修する。</p>	
	災害危機管理学序論	<p>災害を常に存在する危機と捉え、これに対処するのが危機管理学という学問です。災害大国である本邦において災害時の危機管理について学ぶことは重要です。テキストの自己学修を通してトリアージなどの災害医療に関する全般的な知識、また救急医療システムの根幹をなす病院前救護体制の指揮命令系統であるメディカルコントロールについて重点的に学びます。テキストに関するレポート提出にて成績評価します。</p>	
災害危機管理学特論	<p>災害を常に存在する危機と捉え、これに対処するのが危機管理学という学問である。災害時の危機管理の実際を理解するためには常に最新の動向を理解しておくことが重要である。また、社会の健康危機管理システムとして、富山県内の救急医療(各病院内での救急患者受入例、救急車、ドクターカーやドクターヘリの活動等)の動向を理解する。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先端医科学プログラム専門科目 プログラム専門科目	先端医科学特別研究	<p>各所属研究室での個別指導により実施し以下の内容を学ぶ。専門研究分野の知識や論文内容について議論できる能力を身に付ける。専門分野の学会等において、情報収集、議論、情報発信ができる能力を身に付ける。専門分野における知識の修得、英語論文の読解や紹介を行う。研究倫理を身につける。学位論文を執筆できる能力を身に付け学会等で、発表と議論を行う。</p> <p>(8 稲寺 秀邦) 出生コホート研究のデータを用いて、小児環境保健に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(3 井ノ口 馨, 87 宮本 大祐) 潜在意識下の脳機能に関して、研究の実践、指導を行い、アイドリング脳の活動と機能の相関について論文指導を行う。</p> <p>(22 川口 善治, 80 安田 剛敏) 運動器の各種障害や破綻のメカニズム基盤を解析するとともに、障害された運動器の再建方法の確立、さらに運動器の修復と再生に向けた研究の実践・指導、論文指導を行う。</p> <p>(25 北村 寛, 122 西山 直隆) 泌尿器科疾患に対する診断および治療の向上に関して、研究の実践・指導、論文指導を行う。</p> <p>(12 絹川 弘一郎, 120 城宝 秀司) 循環器疾患及び同疾患とつながりの深い腎疾患に関して、研究の実践・指導、論文指導を行う。</p> <p>(21 黒田 敏, 88 赤井 卓也) 動物モデルを用いた脳形成に関する基礎研究、臨床例の症状・検査所見に基づく脳高次機能解析、脳機能温存のための手術機器の開発と臨床研究等の研究の実践・指導、論文指導を行う。</p> <p>(18 齋藤 淳一, 78 小川 良平) 癌治療に関係する物理的、科学的増感及びこれらによる細胞ストレス応答に関する研究の実践・指導、論文指導を行う。</p> <p>(15 清水 忠道, 76 牧野 輝彦, 123 三澤 恵) 皮膚粘膜が持つこれらの機能を生化学的、分子生物学的に解析し、皮膚粘膜の病的状態を、外界→皮膚←内界の表現をして捉え、解明する課題の研究指導を行う。</p> <p>(16 鈴木 道雄, 124 樋口 悠子, 125 古市 厚志) 精神症候学、脳画像診断学、神経生理学の手法を用いて、精神疾患の診断・治療に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(11 戸邊 一之, 74 八木 邦公) 糖尿病の発症予防法に関した研究を行う。</p> <p>(23 中島 彰俊) 転写後のタンパク発現レベルおよびメンブレントラフィック評価法等を用いて、妊娠および婦人科癌におけるオートファジー機能に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(9 西田 尚樹, 71 畑 由紀子) 法医学領域の研究成果を法医学領域に留まらず、臨床医学を始めとした他分野の発展にフィードバックさせるような視点から研究の実践・指導、論文指導を行う。</p> <p>(17 野口 京) 高分解能形態画像および機能画像を組み合わせた新しい早期画像診断法に関する研究の実践・指導、論文指導を行う。</p> <p>(26 野口 誠) 口腔疾患の病態解明と新規治療法の開発、口腔機能再建並びに機能リハビリに関して、研究の実践・指導、論文指導を行う。</p> <p>(24 林 篤志, 121 柚木 達也, 127 三原 美晴) 各種眼疾患の動物モデルを用いた生化学的、組織学的解析をもとにした治療研究や、眼感染症の診断と治療に関する研究の実践・指導、論文指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先端医科学プログラム専門科目 プログラム専門科目	先端医科学特別研究	<p>(20 藤井 努, 126 奥村 知之) 消化器癌, 肝胆膵領域癌, 乳腺・内分泌腫瘍における新規予後判定マーカーの同定と解析, 各臓器手術に対する新しい手術法・手術器具の開発, 漢方薬や癌特異的CTLを用いた新しいがん治療法の研究の実践・指導, 論文指導を行う。</p> <p>(5 森永 芳智) 細菌、ウイルスの基本的性状とそれぞれが起こす感染症、検査の方法とその限界に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(13 安田 一朗, 75 田尻 和人) 消化器疾患の病態解明および診断・治療に結びつく基礎・臨床研究の実践・指導, 論文指導を行う。</p> <p>(14 山本 善裕) 代表的な感染症について、その病態や治療法、感染対策上の基本的な考え方に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(19 芳村 直樹, 79 深原 一晃) 体に優しい心臓血管, 呼吸器疾患の先端医療の実現を目指す研究の実践・指導, 論文指導を行う。</p> <p>(7 関根 道和) 小児期・成人期・高齢期の健康課題解決に向けた疫学研究の指導と論文指導を行う。</p> <p>(6 中川 崇) 薬理学、生化学、分析化学的手法を用いて老化制御機構の解明、抗老化薬の開発などの課題の研究指導を行う。</p> <p>(1 一條 裕之) 神経科学的方法を用いて、神経回路の構造・機能・進化の課題の研究指導を行う。</p> <p>(2 田村 了以, 69 中島 敏) 電気生理学と行動学的手法を用いて、「霊長類における記憶符号化の神経基盤」の課題の研究指導を行う。</p> <p>(10 森 寿) 分子生物学的実験手法を用いて、アミノ酸神経伝達機構に関わる研究指導を行う。</p> <p>(27 佐藤 勉) 造血器腫瘍に関して、実臨床に直結した研究の実践・指導, 論文指導を行う。</p> <p>(29 中辻 裕司) 免疫介在性神経疾患の病態解明と診断, バイオマーカー探索研究の研究指導を行う。</p> <p>(31 林 龍二) 診療録を使用した臨床研究, データベースを利用した統計解析, モデル動物作成, 生化学・免疫学的解析法についての研究指導を行う。</p> <p>(35 高雄 啓三) 行動遺伝学, 行動薬理学, 光遺伝学, 生理学等の手法を用いて記憶, 学習, 情動などの心の物質的基盤の解明, および精神・神経の疾患の病態解明と治療法の開発を目指す研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先端医科学プログラム専門科目	先端医科学特別研究	<p>(4 伊藤 哲史) 局所神経回路の構造の神経解剖学的技法を用いた詳細な解析と、その構造から生み出される生理学的機能の解析、さらに両者を統合した分析について研究の実践、指導を行い、聴覚神経回路の機能構築について論文作成指導を行う。</p> <p>(36 袴田 優子) 神経科学、認知科学、実験心理学等の手法を用いてストレスに関連する精神疾患の病態生理やその心理的介入に関する研究指導を行う。</p> <p>(32 長島 久) 医療システムにおけるヒト、モノ、仕組みに着目し、医療を取り巻く様々な課題を様々な方面から分析することで、体系的な医療安全手法の開発に向けた研究指導と論文指導を行う。</p> <p>(30 佐武 利彦) 顔面・四肢・体幹の先天異常の治療、整容面や機能面をより重視した外傷治療や悪性腫瘍切除後の再建、抗加齢治療・美容外科手術に関する研究の指導と論文指導を行う。</p> <p>(73 吉田 知之) 分子生物学的実験手法を用いて、シナプス形成分子の機能解析に関わる研究指導を行う。</p> <p>(77 高橋 努) 精神症候学、脳画像診断学、神経生理学の手法を用いて、精神疾患の診断・治療に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(72 西丸 広史) 電気生理学・解剖組織学および遺伝学の手法を用いて、情動・感覚情報処理・行動発現の神経機構に関連した課題の研究指導を行う。</p>	
看護科学プログラム	A 群共通科目 看護研究	<p>(概要) 看護学修士課程における看護研究の意義をふまえて、Research Question に応じた研究計画を作成する一連の思考過程および文章構成過程を経て、看護研究の基礎を学ぶ。以上の内容を看護師としての実務経験のある教員が教授する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(40 長谷川 ともみ/11回) 看護研究の歴史と意義、Evidence-Based practice看護研究における主要な概念、Research Questionの明確化、研究のタイプ 量的研究について(変数、平均値、2群の差の検定、単相関、パラメトリック検定とノンパラメトリック検定、症例数設計、重回帰分析、多重ロジスティック回帰分析)、英文抄録の書き方 (94 桶本 千史/1回) 研究倫理 (96 笹野 京子/1回) キーワードの明確化と文献検索 (95 二川 香里/2回) 研究のタイプ 質的研究について(質的帰納的研究方法、内容分析、グラウンデッドセオリーアプローチ、エスノグラフィー、事例研究、現象学的研究手法)</p>	オムニバス
	看護倫理	現代の医療倫理全般に関する基礎理論を体系的に学修し、多様なケーススタディを通じて討議を重ねることによって、そうした独自性について理解する。また、臨床現場で役立つ実践的能力を磨き、あるいは看護研究のさらなる展開にも繋がる倫理的な問題意識を高める。加えて、看護領域で起こる倫理的ジレンマや倫理的課題について、その構造を見抜き解決への取り組みを検討する。テーマとして、人間の尊厳と人権思想、自律・責任と同意能力、プライバシーと秘密保持、平等と正義、文化多様性、生命倫理学、環境倫理学、ケアの倫理、看護実践における倫理問題等を扱う。	
	コンサルテーション論	コンサルテーションに関する基本概念を学修し、コンサルテーションプロセスおよびコンサルタントの役割と機能について理解を深め、専門的なコンサルテーション活動を展開できる基礎能力を養う。コンサルテーションの定義、目的、タイプ、評価方法について説明することができること、有効な相談プロセスを展開するための方法論について説明することができること、コンサルタントの役割と機能と諸理論について説明することができること、また実践活動について、事例を通して考察を深めることができる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護科学プログラム プログラム共通科目	A 群 共通科目 看護管理論	看護管理に必要な基本的知識と技術を修得するとともに、高度実践看護専門職として保健医療福祉における組織の課題および看護管理のあり方を検討する。具体的には、日本における看護管理の発展過程、看護組織運営に関連する諸理論に基づき、看護管理の機能が、医療・看護の質に与える影響を理解する。テーマとして、チームにおける看護専門職、看護サービスの質保障、医療安全とリスクマネジメント、高度看護専門職、看護職とキャリア開発、看護職と看護教育等を扱う。	
	看護教育論	看護教育制度とその変遷、高等教育化、専門職教育、継続教育に関する知識、看護学教育課程とその評価に関する基礎的な知識、看護学教育方法とその評価に関する基礎的な知識、看護継続教育の現状についての知識について理解するとともに、自己の課題を設定し、文献検討を踏まえ、独自性の高い看護学教育について探究し、看護学教育、看護継続教育の課題と方向性を論じることができる。 (38 八塚 美樹・95 二川 香里/1回) (共同) 実務経験のある教員2名とともに、講義のまとめと討論を行うことで、より高度な看護学教育、看護継続教育のあり方を探究する。	共同 (一部)
	看護理論	卓越した看護実践を導く看護理論について、諸理論の歴史的発展過程および看護学独自の理論構築について理解し、看護現象を説明するための方法を学ぶ。まず、諸理論のメタパラダイム概念について理解した上で、卓越した看護実践を導く看護理論の特徴を示し、看護現象との関連を検討する。さらに、看護理論の論理的構造を理解し、看護現象を総合的に探究する研究方法論を説明できる。具体的な内容として、看護実践の構造と理論構造、看護理論の歴史的変遷と発展、看護理論の分析と評価、代表的な看護理論の知識体系および構造、看護学発展の課題と方向性について、検討する。	
	看護政策論	保健・医療・福祉政策および看護政策の現状と課題に対して、地域、企業、NPO、家族、ボランティアなど多様な社会集団の相互作用の中で、それらの政策課題が社会的合意を形成し、社会に対応していく過程を教授する。また、各国における保健・医療・福祉政策、看護政策の現状と課題について比較検討する。さらに、これらの学修を基盤として、地域生活共同体構成員の健康や生活、地域社会へ貢献する看護政策に向けて働きかけを行うための、情報収集と分析、課題の明確化と立案、政策の提言、立法化までの政策形成過程について修得する。	
B 群 共通科目	病態生理学	(概要) 臓器系統別に主要な症候の病態生理を学修し、患者の病態生理を踏まえた、より高度な看護を実践できる基礎的能力を養う。具体的には、臨床現場で良く観察される症候の病態生理を講義し、そのような症候を示す事例の症状や検査所見などから病態生理を検討し、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う。 (オムニバス方式/全15回) (43 金森 昌彦/9回) 疾病学(先天性、呼吸循環器、代謝内分泌、腎泌尿器、運動器など) (44 堀 悦郎/1回) 高次機能障害(脳神経系) (90 吉井 美穂/2回) 感染と炎症、栄養障害など (39 安田 智美/3回) 皮膚障害、褥瘡	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護科学プログラム B群 共通科目	臨床薬理学	<p>(概要) 高齢化や疾病の多様化に伴い、薬物投与の多様性が増しているという現状を踏まえて、薬剤使用の判断、薬物投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進についての知識を教授するとともに、患者のセルフケア能力向上を図るための実践的能力を修得する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 中川 崇/11回) 臨床薬理学序論、薬物動態学に基づいた薬物投与後の患者モニタリング、高齢者における服薬管理の実際と臨床判断、小児における服薬管理の実際と臨床判断、妊娠と服薬管理の実際と臨床判断、生活習慣病をはじめとする慢性疾患での服薬管理の実際と臨床判断、漢方医学の歴史と現代医療における役割、漢方治療のエビデンスと副作用、がん治療と緩和ケアにおける服薬管理の実際と臨床判断、精神神経疾患での服薬管理の実際と臨床判断、救急・集中治療領域における服薬管理の実際と臨床判断</p> <p>(90 吉井 美穂/4回) 感染看護分野における患者モニタリングと服薬管理および指導、がん看護分野におけるがん化学療法を受ける患者の症状マネジメントと服薬セルフケア、母性看護学分野における患者の生活調整と服薬セルフケア、高度看護実践家に必要な教育・援助方法</p>	オムニバス
	フィジカルアセスメント	<p>対象者の健康状態を包括的に判断するために必要なフィジカルアセスメントの知識と方法を学ぶ。シミュレーション学修を通して、高度なアセスメント能力およびフィジカルイグザミネーション技術を習得する。</p> <p>1. フィジカルアセスメントに必要な基本知識。 2. 客観的な身体情報を得るためのフィジカルイグザミネーション技術。 3. 身体所見を系統的、客観的にアセスメントする能力。</p>	
	臨床推論I	<p>診断のプロセスとしての患者の症候からその病態を推理する基本的な考え方を学ぶ。患者が訴える症候から疾患群を想起し、何が最も疑わしいかについて一定の様式で臨床推論を行うため、症候学は臨床診断を行う上で重要な概念である。疾病を病因や病態からとらえるのではなく、患者の示す様々な訴えや診察所見から疾病を定義・分類し、主要な症候から疾患の診断ができるように、知識を統合し得られる情報を用いて論理的に推論する能力を身につける。</p>	共同
	救急看護演習	<p>救急看護の基礎技術である心肺蘇生法の国内スタンダードを学ぶ。日本国内で最大の受講者数(総受講者36万人)を有するICLS (Immediate Cardiac Life Support) コースを受講し、蘇生に関わる手技を学ぶ/再確認することを目標とする。これを学ぶことにより、心肺蘇生が必要な局面において、最初の10分間に適切な行動がとれるような知識・技術を身につける。</p>	共同
健康生活研究計画法	<p>看護の実践において、様々な医療情報や統計データは、人々の健康状態を把握する際の貴重な情報源であり、看護を科学的に検証するには、対象設定や分析方法を吟味し、結果を客観的に読み解く力(統計の知識)が不可欠である。また、自身の研究において、研究目的やデータ収集、分析方法等の妥当性を考える力も求められる。本科目では、量的データによる研究方法、および基礎的な統計的手法を理解し、論文等の客観的な評価と自身の研究計画への応用を目指す。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護科学プログラム 研究者コース	看護ケアサイエンス学特論 I	<p>(概要) 行動科学・基礎看護学領域・成人看護学領域など広く看護ケアの質の向上に向けた講義を展開する。また看護実践を導く看護学的理論の構築に向けて、看護実践を総合的に捉える看護学的方法を土台に、看護の論理を抽出する方法について理解する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(37 西谷 美幸/4回) 看護現象の構造, 看護理論の構築過程 (38 八塚 美樹/2回) 病いとともに生きる人々とその家族に関する主要理論に関する概説, 病いとともに生きる人々とその家族に関する主要理論に関し先行研究と今後の研究課題について探究 (39 安田 智美/2回) 病いとともに生きる人々とその家族に関する主要理論について文献検討, 各自が経験した事例について主要理論や概念を用いて分析した内容を発表し実践への適用と研究的な課題について討議し自己の課題を明らかにする (93 梅村 俊彰/2回) 各自が経験した事例について主要理論や概念を用いて分析した内容を発表し実践への適用と研究的な課題について討議し自己の課題を明らかにする (90 吉井 美穂/1回) 感染管理ベストプラクティス (91 坪田 恵子/1回) 原文「看護覚え書」 (92 山田 理絵/1回) 病いとともに生きる人々とその家族に関する主要理論に関し先行研究と今後の研究課題について探究 (44 堀 悦郎/2回) Behavioral Science in Medicine</p>	オムニバス
	看護ケアサイエンス学特論 II	<p>精神看護学で使用する「こころ(心理&神気)」と「神氣的ケア(私的スピリチュアル次元へのアプローチ)」の概念モデルについて理解し、精神看護実践への活用を考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学における量的研究方法および質的研究方法の特徴、強みを論述できる。 2. 精神看護学におけるミックス・メソッド・リサーチについて論述できる。 3. 精神看護学研究に必要な基本的な方法、倫理について説明できる。 4. 精神看護学における実践知の創出のための方法論について説明できる。 5. 精神看護学における「東洋の知」を取り入れた医療(統合医療)の研究方法を検討し、新たな知見の創生を目指す看護科学の研究的アプローチについて説明できる。 	
	看護ケアサイエンス学演習 I	<p>(概要) 行動科学・基礎看護学領域・成人看護学領域など広く看護ケアの質の向上に向けた演習を展開する。また看護実践の現象から構造を読み解き、看護の論理を抽出する方法を身につけるための演習を行う。 (オムニバス方式/全30回)</p> <p>(37 西谷 美幸/8回) 看護現象の構造: 看護現象の構造を読み解く, 看護現象の再構成の方法 (38 八塚 美樹/4回) 己効力の理論, 看護学領域の論文抄読 (39 安田 智美/4回) 成人看護学に関連する論文の批判的検討 (93 梅村 俊彰/2回) 看護ケアサイエンス学 I 領域の自己の課題についての研究動向を分析し討議 (90 吉井 美穂/4回) CDCガイドライン (91 坪田 恵子/2回) 自己の問題意識を見つめる (92 山田 理絵/2回) 自己効力の理論, 看護学領域の論文抄読 (44 堀 悦郎/4回) コミュニケーションに関する脳機能(解剖生理学, 症例研究, 研究手法)</p>	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護科学プログラム	研究者コース 看護ケアサイエンス学Ⅱ	自己の研究課題に関連した研究文献を収集し批判的に検討することを通して研究論文作成能力を高める。 1. 自己の研究課題に関連した研究動向について説明できる。 2. 自己の研究課題に関連した先行研究について批判的に検討し説明できる。 3. 自己の研究課題に関連した研究法の認識論について説明できる。 4. 自己の研究課題に関連した関心相関的な研究方略について説明できる。 5. 自己の研究課題について計画書を作成できる。	
	看護ケアサイエンス学特別研究	(概要) 基礎看護学領域・精神看護学領域・成人看護学領域、行動科学・人間科学領域など広く看護ケアの質の向上に向けた研究を展開する。看護現象の構造を理解し、看護ケアに関する研究課題に対して、研究テーマの明確化、研究計画書と倫理申請書の作成、先行研究ならびに研究素材の収集および分析、修士論文の作成まで個別指導を行う。研究の成果発表と修士論文の作成ができるようになるために、研究のプロセスを理解して研究の課題に取り組む。 (37 西谷 美幸) 看護実践の質的向上を図るための論理的根拠や方法論に関する研究、および看護実践・看護教育・看護管理における、看護の論理抽出に関する研究指導を行う。 (41 比嘉 勇人) 量的および質的なアプローチを用いた混合研究法による、メンタルまたはスピリチュアルな次元の看護現象に焦点を当てた研究指導を行う。 (38 八塚 美樹) 慢性の病い（がんを含む）とともに生きる患者と家族の対象の捉え方と介入方法の開発に関する研究指導を行う。 (39 安田 智美) がんの療法によって生じる心理・社会・生活面への影響の把握と侵襲の予防や回復の促進、生活の再構築を目指した看護介入に関する探究を中心とした研究指導を行う。 (43 金森 昌彦) 人間科学および疾病学に関する基礎的研究を行う。特に高齢者の運動器に着目した看護実践、感染予防につながるエビデンスを導く研究指導を行う。 (44 堀 悦郎) 看護技術の効果に関する実験的研究や、患者-看護師間のコミュニケーションに関する実験的研究指導を行う。	
	成人看護学特論	(概要) 慢性の病い（主としてがん）とともに生きる患者および家族への看護の基盤となるストレスコーピング理論、危機理論、セルフケア理論、家族理論、喪失、悲嘆、ソーシャルサポート等の理論や概念について探究し、患者の理解や看護介入において、それらの理論や概念の臨床での適用について、臨床での勤務経験を有する教員が講義し、学修する。また、既存の研究結果や文献、個々の体験に基づいて、病い（主としてがん）とともに生きる患者への看護の現状の課題を分析し、研究課題を探究する。 (38 八塚 美樹・39 安田 智美/1回) (共同) 実務経験のある教員2名とともに、講義のまとめと討論を行うことで、より高度ながん看護専門看護師の役割を探究する。	共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護科学プログラム 研究者コース 母子看護学	母性看護学特論Ⅰ	<p>(概要) 周産期における母子と家族の理解と健康問題の理解に関する臨床診断に必要な知識を学ぶ。女性のライフサイクル全般にわたる健康問題を的確に診断するために必要な遺伝学知識、生殖内分泌学知識、女性医学の知識を学ぶ。以上の内容を看護師・助産師・産婦人科医師としての実務経験のある教員が教授する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(40 長谷川 ともみ/11回) 周産期における母子と家族の倫理的課題の解決に関する理論、生活適応・健康状態・適応状態を理解する上で必要な家族システムに関する諸理論、周産期医学の最新知識、遺伝学と遺伝看護学の最新知識、産婦人科麻酔の最新知識、女性のライフサイクル全般にわたる最新の医学的知識</p> <p>(96 笹野 京子/3回) 周産期における心理的問題、思春期・成熟期・更年期・老年期女性と家族の特性と健康問題</p> <p>(95 二川 香里/1回) 周産期における母子と家族の生活適応・健康状態・適応状態を理解する上で必要な愛着・親役割に関する諸理論、発達危機理論、人間発達学的知識</p>	オムニバス
	母性看護学特論Ⅱ	<p>(概要) 正常経過から逸脱した母子と家族に関する諸理論、周産期特有の心理社会的問題を理解し、必要な治療、援助について学ぶ。また、周産期医療ケアにおける最新の知識・技術、ガイドラインについて学び、関連する最新エビデンスを獲得する方法を習得し、臨床への適用を思考する。そして、周産期ケアシステムとその組織化に関する理論、母子保健行政などを理解し、妊娠期から産褥期までの切れ目のない母子と家族の支援について思考する。以上の内容を看護師・助産師としての実務経験のある教員が教授する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(40 長谷川 ともみ/12回) 正常経過から逸脱した母子と家族の援助に関する諸理論、周産期医療ケアにおけるガイドライン、正常経過から逸脱した母子と家族を支援するためのエビデンスの獲得方法及び周産期ケアへの適用、母子と家族を支える周産期ケアシステムとその組織化に関する理論、母子保健行政の仕組みの概要、母子保健施策を活用し妊娠期から産褥期までの切れ目のない母子と家族を支える社会的システム</p> <p>(94 桶本 千史/1回) 正常経過から逸脱した母子と家族を支援するためのエビデンスの周産期ケアへの適用</p> <p>(96 笹野 京子/1回) 周産期特有の精神疾患とその治療</p> <p>(95 二川 香里/1回) ペリネイタルロスとその支援</p>	オムニバス
	小児看護学特論Ⅰ	<p>(概要) 母子保健施策や論文などから最新の情報(現代社会における小児の特徴、小児の感染症、病気の子どもの理解と支援、現代社会における小児の特徴、小児医療における子どもの権利と看護、小児の発達と母子関係の理論等)を収集すると共に、小児の成長発達に関する理論や看護理論を参考に、小児看護学領域における対象の理解を深め、現代社会の中で求められる看護専門職としてのあり方を考える。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(94 桶本 千史/ 13回) 小児の特長、小児看護学の理論の活用</p> <p>(40 長谷川 ともみ /2回) 小児感染症、病気の子供の理解と支援</p>	オムニバス
	小児看護学特論Ⅱ	<p>小児慢性疾患児や発達障害児、医療的ケア児、およびその家族など、現代社会における小児看護学の対象について看護ニーズを幅広く捉えるために、多角的に情報を収集し、実践課題を明らかにする。 具体的には、現代社会における小児看護学の対象と支援の概要、慢性疾患児とその家族の療養・療育生活と支援、発達障害児とその家族の療養・療育生活と支援、現代社会における小児看護学の対象と支援、医療的ケア児とその家族の療養・療育生活と支援について講義する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護科学プログラム	母子看護学演習	本講義では、(1)小児・周産期にある母子とその家族の健康課題や問題を的確にアセスメントし必要なケアについて考えること、(2)看護場面で起きてくる健康課題や問題に関連する倫理的判断、(3)小児・周産期にある母子とその家族の健康課題や問題を解決するための多職種との調整の必要性、(4)看護実践の場においてスタッフの抱える教育ニーズを把握し、教育的な活動の展開方法、(5)看護実践の場で抱えている問題を解決するために必要なコンサルテーションの概要、について看護師・助産師としての実務経験のある教員が教授する。	共同
	母子看護学特別研究	母子看護学領域でResearch Questionについて述べることができ、科学的な方法を用いて、結果、考察を導き出し、修士論文として値する論文を作成することができる。以上の内容を看護師としての実務経験のある教員が教授する。 (40 長谷川ともみ) 母性意識、小児の発育・発達、母子の相互作用、母子の家庭支援、母子感染、小児臨床看護に関する課題の研究指導を行う。	
地域・老年看護学	地域・老年看護学特論Ⅰ	地域看護学領域では、コミュニティの潜在的・顕在的問題の探究、質的・量的データの解釈と実践への活用・評価について実証的に追究する。そのために、1)コミュニティを基盤とする看護活動の理論的根拠を理解し、公衆衛生の一端を担い、より健全な地域社会構築に貢献できる地域看護のあり方や、その責任について論述する。2)地域の健康ニーズの把握と施策化、組織化が一連のプロセスであることを理解し、実践に反映できる支援策を論述する。3)看護の対象を個人・家族・地域社会からホリスティックにとらえ、地域看護における看護援助提供方法を教授する。	
	地域・老年看護学特論Ⅱ	老年看護学領域では、1)介護保険制度からみた高齢者の現状と課題について理解を深め、多職種連携のチームアプローチにおける看護職の役割について考える。2)認知症高齢者の特徴を理解し、適切なアプローチについて考えることができることを教授する。 具体的な内容は、介護保険制度の概要及び課題、要支援・要介護高齢者の実態、家族介護者の特徴、多職種連携の実際（介護予防、在宅、施設）、認知症高齢者の特徴（種類、評価、中核症状、BPSD等）、認知症高齢者に対するアプローチの実際（パーソンセンタードケア、タクトイールケア、ユマニチュード、バリデーション）である。	
	地域・老年看護学演習Ⅰ	地域看護学領域では、看護の対象を個人・家族・地域社会から総体的・包括的にとらえ、地域看護における看護援助提供方法ならびに地域看護研究方法を教授する。すなわち、1)研究的視点にたった、また地域看護研究成果をもとに展開する看護援助提供方法を論述する。2)コミュニティの潜在的・顕在的問題の探究、コミュニティの持てる力を引き出し活用する方法の追究、質的・量的データの解釈と実践への活用・評価について実証的に追究する。	
	地域・老年看護学演習Ⅱ	老年看護学領域では、リサーチクエスチョンを明確にし、文献検索により、自己の研究課題に関連した学術論文を収集する能力を養う。さらに、収集した学術論文を熟読し、研究内容および研究方法の視点から、批判的に検討する能力を養う。これらを通して、自己の研究テーマを絞り込み、研究目的を明確にすること、研究目的を達成するために最も適した研究方法を選択する能力を身につけ、研究計画書を作成することができるように指導する。	
	地域・老年看護学特別研究	コミュニティにおける看護専門職の実践活動の質を高めていくことを究極の目標にして、そのための知識体系をより洗練させ、発展させることに寄与しうる研究論文を作成方法について教授する。問題意識を明確にし、研究課題を樹立し、研究目的に見合った研究計画をたて、データ収集・分析、論文作成のプロセスを修得する。 (42 田村 須賀子) 家庭や地域を基盤に展開される看護活動の根拠となる知識や技術の算出、地域における看護専門職の実践上の判断や行動の拠り所となりうる知識とエビデンスの明確化及び老年看護学領域に関し適切な方法での考察に向けた研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護科学プログラム	CNSコース がん看護学分野 がん看護	がん看護学特論Ⅰ(病態生理) (概要) がんやがん治療が患者のQOLに及ぼす影響を包括的に理解し、セルフケア能力向上を目指した高度な看護実践能力を養うために、看護の判断に必要ながんの予防および早期発見のための政策や疫学的エビデンス、がんの分子生物学、遺伝学を含む病態生理全般、がんの進行に伴う代表的な身体的精神的症状の病態生理、抗悪性腫瘍薬の薬理的知識やがん細胞に対する放射線的作用等の専門的知識を修得する。がんの手術療法の特性、診断から手術後に必要な侵襲からの予防と回復を促進する知識と技術、がんの手術療法によって生じる器質的機能的障害から生活を再構築するためのリハビリテーション看護に必要な知識と技術、患者および家族のセルフケア能力、危機的状況が心理・社会・生活面に及ぼす影響等をエビデンスに基づき包括的にアセスメントする能力を養う。また侵襲からの予防や回復の促進、生活の再構築を目指した看護介入の方略について学ぶ。さらに器質的機能的障害を有するがん患者および家族への質の高い看護を提供するため、がん看護専門看護師に必要な役割を探究する。 (オムニバス方式/全15回) (93 梅村 俊彰/5回) がん看護学領域総論 (31 林 龍二/8回) がん看護学領域各論 (38 八塚 美樹/1回) 成人看護学領域・慢性期(早期発見・再発予防) (39 安田 智美/1回) 成人看護学領域・急性期(がん医療の動向と課題)	オムニバス
	がん看護学特論Ⅱ(援助論)	セルフケア理論を基盤とした症状マネジメントモデルに基づき、がんの病状の変化に伴う代表的な身体的精神的症状や死にゆく過程で生じる症状についての病態や発現メカニズムを理解し、がんとともに生きる患者や家族が体験する苦痛を緩和するための高度な看護実践に必要な援助について講義し探究する。また、がん患者の家族の心理と社会的状況を理解し、既に学修した家族理論に基づき高度な看護実践に必要な援助について探究する。薬物療法・放射線療法をうける患者の治療効果の促進または治療の継続を支援するため、治療によってもたらされる有害事象または日常生活への影響、患者および家族のセルフケア能力、体力やADL低下に伴う心理・社会・生活面への影響等をエビデンスに基づき包括的にアセスメントする能力を養う。また外来にてがん治療をうける患者および家族のADLの維持・向上、生活の再構築を目指した看護介入のために必要な社会資源の活用方法、地域医療連携の在り方等を学ぶ。最終回、実務経験のある教員2名とともに、講義のまとめと討論を行うことで、より高度ながん看護専門看護師の役割を探究する。	
	がん看護学特論Ⅲ(がんリハビリテーション看護論)	がんの進行もしくは治療の過程でもたらされた身体的苦痛や身体の器質的機能的変化から生じる複雑で対応困難な問題を抱える患者および家族に対し、各療養場面に応じて身体的心理的社会的に働きかけ、機能を維持・改善(リハビリテーション)することができるような看護支援を提供し、患者の意思決定に基づいたセルフケア能力向上を目的とした高度な看護実践のための方略を探究する。患者や家族、サバイバー、そして遺族が抱える課題は、がん療養時期とともに変化することを理解し、継続的かつ包括的な視点での看護支援方法について科学的根拠に基づいて検討する。また、地域医療連携における連携および調整や社会資源、セルフケアを支援するための集団アプローチについて市民教育や政策への課題を探究する。また医療施設や地域の関係職種と連携する際に必要ながん看護専門看護師の役割について、その具体的な内容を学修する。	
	がん看護実践演習Ⅰ(診断～手術後までの患者のリハビリテーション)	がんの手術療法の特性、診断から手術後に必要な侵襲からの予防と回復を促進する知識と技術、がんの手術療法によって生じる器質的機能的障害から生活を再構築するためのリハビリテーション看護に必要な知識と技術、患者および家族のセルフケア能力、危機的状況が心理・社会・生活面に及ぼす影響等をエビデンスに基づき包括的にアセスメントする能力を養う。また侵襲からの予防や回復の促進、生活の再構築を目指した看護介入の方略について学ぶ。さらに器質的機能的障害を有するがん患者および家族への質の高い看護を提供するために、がん看護専門看護師に必要な6つの役割(実践、教育、相談、調整、研究、倫理調整)を探究する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護科学プログラム	がん看護学分野		
	がん看護		
	がん看護実践演習Ⅱ(薬物療法・放射線療法をうける患者のリハビリテーション)	薬物療法・放射線療法をうける患者の治療効果の促進または治療の継続を支援するために、治療によってもたらされる有害事象と日常生活への影響、患者および家族のセルフケア能力、体力やADL低下に伴う心理・社会・生活面への影響等をエビデンスに基づき包括的にアセスメントする能力を養う。また、外来にてがん治療をうける患者および家族のADLの維持・向上、生活の再構築を目指した看護介入のために必要な社会資源の活用方法、地域医療連携の在り方等を学ぶ。さらに、これらの対象者に対するがん看護専門看護師の役割を探求する。以上について看護の実務教員のある教員及びがん看護専門看護師が担当する。入院前から退院後にかけての継続した療養過程において、複雑で対応困難な問題を抱えるがん患者および家族に対して、がん専門医、がん看護専門看護師の指導のもと、身体管理方法、有害事象のアセスメントおよび予定治療の遂行に関わる臨床判断を行い、高度なケア技術とケアの知識を用いた看護を実践する能力を養う。また、がん患者に対する長期的な支援の観点から、地域医療連携におけるがん看護専門看護師の役割を遂行する能力を養う。以上について看護の実務教員のある教員及びがん治療を行う医師、がん看護専門看護師が担当する。	
	がん看護実践演習Ⅲ(緩和ケア・在宅療養中の患者のリハビリテーション)	(概要) 身体的苦痛(がん性疼痛、浮腫、呼吸困難、倦怠感、廃用症候群等)、患者および家族の心理・社会・スピリチュアルな苦痛や苦悩、悲嘆等の課題を有する緩和ケアをうける患者にがんリハビリテーション看護を提供するために必要なアセスメントの知識や実践方法について探求する。 また、緩和ケアを受ける外来・在宅療養中のがん患者にがんリハビリテーション看護を提供するために、医療施設、または地域の関係職種と連携する際に必要ながん看護専門看護師の役割について、その具体的な内容を学修する。以上について看護の実務経験のある教員が担当する。 がん看護の領域でまだ明らかにされていないこと、がん患者や家族、医療従事者が直面する課題を選択して、その領域の科学的事実を適切な方法で探索し、各自のテーマを見出す。テーマにそって適切な研究方法を選択し、テーマ、目的、研究方法に一貫性を持たせて、研究全体を企画、実施する能力を身につける。 (オムニバス方式/全30回) (38 八塚 美樹/16回) 終末期在宅療養中のがん患者および家族へのリハビリテーション看護に必要な知識と看護、がん患者および家族の心理・社会・スピリチュアルな苦痛・苦悩に対する精神的リハビリテーション (39 安田 智美/10回) がんリハビリテーション看護領域に特有の倫理的課題とがん看護専門看護師に求められる倫理調整 (93 梅村 俊彰/4回) がんリハビリテーション看護技術に関する教育プログラム作成	オムニバス
がん看護学実習Ⅰ	複雑で対応困難な問題を抱えるがん患者および家族を支援するためにケアとケアの観点から統合的にアセスメントし、セルフケアが可能なように機能障害の予防や機能の維持・改善(リハビリテーション)に向けて支援する能力を養う。また、がん看護専門看護師の役割(倫理的判断、調整機能、相談機能、教育機能)を果たすための能力を学ぶ。さらに、組織の全体像を把握し、より質の高い看護実践を行うために組織との連携方法や評価方法について探究する。	共同	
がん看護学実習Ⅱ	入院前から退院後にかけての継続した療養過程において、複雑で対応困難な問題を抱えるがん患者および家族に対して、がん専門医、がん看護専門看護師の指導のもと、身体管理方法、有害事象のアセスメントおよび予定治療の遂行に関わる臨床判断を行い、高度なケア技術とケアの知識を用いた看護を実践する能力を養う。また、がん患者に対する長期的な支援の観点から、地域医療連携におけるがん看護専門看護師の役割を遂行する能力を養う。	共同	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護科学プログラム	CNSコース がん看護学分野	がん看護実践特別研究 (39 安田 智美) がんの療法によって生じる心理・社会・生活面への影響の把握と侵襲の予防や回復の促進, 生活の再構築を目指した看護介入に関する探究を中心とした研究指導を行う。 (38 八塚 美樹) 終末期がん看護、がん緩和ケア領域における対象者の把握と介入に関する探究を中心とした研究指導を行う。	
	がん看護		
	母性看護学分野	母性看護学特論Ⅲ (概要) 女性の健康看護学の基礎概念について学ぶ。また、女性医療ケアにおける最新の知識・技術、ガイドラインについて学び、関連する最新エビデンスを獲得する方法を習得し、女性の保健・医療への適用について思考する。そして、女性医療ケアシステムとその組織化に関する理論、生涯を通じた女性の健康を守る保健政策、男女共同参画社会政策などを理解し、女性のライフサイクル全般にわたる援助について思考する。以上の内容を看護師・助産師・産婦人科医師としての実務経験のある教員が教授する。 (オムニバス方式/全15回) (40 長谷川 ともみ/13回) 女性医療ケアにおけるガイドライン, 女性医療ケアに関する最新エビデンスの獲得方法, 最新エビデンスの女性医療ケアへの適用, 性感染症, 女性医療とホルモン治療及び受胎調節等の最新知識, 女性医療ケアシステムとその組織化に関する理論, 女性のライフサイクル全般に関わる保健施策を活用し女性の健康を支える社会的システム (96 笹野 京子/1回) 女性の健康看護学における基礎概念 (リプロダクティブヘルス/ライツ、性差医療、女性総合医療等) (95 二川 香里/1回) 生涯を通じた女性の健康を守る保健政策、男女共同参画社会、政策の概要	オムニバス
	母性看護		
	周産期看護実践演習Ⅰ	母性看護専門看護師に必要な高度実践、調整、相談、倫理調整、教育、研究活動について学ぶ。また、母性看護専門看護師が行う妊産褥婦のフィジカルアセスメントおよび産科医と行う超音波診断、胎児心拍数モニタリングの判断能力を修得するとともに、周産期を中心とした臨床薬理学、麻酔学の知識を獲得し、高度看護実践におけるその適用について思考する。そして、周産期における母子と家族のプライマリケアについて理解し、母性看護専門看護師に必要な包括的アセスメント能力を養う。以上の内容を看護師・助産師・産婦人科医師としての実務経験のある教員が教授する。	
	周産期看護実践演習Ⅱ	高度先進医療を受ける女性・正常経過から逸脱した妊産褥婦と家族のアセスメントの基礎的方法と支援方法を思考する。また、複雑な健康問題・生活状況にある母子のスクリーニング、看護介入、組織的な支援について思考する。そして、遺伝看護学の展開と遺伝カウンセリングの実践について学ぶ。さらに、正常経過から逸脱した妊産褥婦/複雑な健康問題・生活状況にある母子と家族における倫理的問題・倫理調整について思考する。以上の内容を看護師・助産師・産婦人科医師としての実務経験のある教員が教授する。	
	周産期看護実践演習Ⅲ	正常経過から逸脱した母子の産科学的診断・治療の実践を学び、症状アセスメントの技能を高めると共に、ケースの状況・診断・治療に応じた看護的な支援について思考し、関連する最新エビデンスを看護介入に適用することを習得する。また、産科緊急時に対応するための医療・援助方法を修得し、産科医師と協働について思考する。そして、周産期における臨床課題について研究的アプローチを用いて、エビデンスに基づいた問題解決への方略を思考する。以上の内容を看護師・助産師・産婦人科医師としての実務経験のある教員が教授する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
看護科学プログラム	CNSコース 母子看護学分野	周産期看護実践演習Ⅳ	複雑な健康問題・生活状況にある母子と家族への支援における職種間協働について理解し、母性看護専門看護師に必要な調整機能、教育機能、コンサルテーションの機能を発揮できる能力を養う。また、周産期における業務管理、社会参画の方法を思考する。そして、周産期の母子援助とそのシステムを充実・発展させるための母性看護専門看護師が発揮するリーダーシップについて思考する。以上の内容を看護師・助産師としての実務経験のある教員が教授する。	
	母性看護	周産期看護実習Ⅰ	周産期における複雑な健康問題・生活状況にある母子と家族の健康問題に応じた妊娠期からのケアの実践を通して、母性看護専門看護師に必要な高度看護実践（母子と家族に対する卓越した看護実践）におけるアセスメントとケア，多職種との調整，倫理的判断に必要な基礎的能力を養う。以上の内容を看護師・助産師としての実務経験のある教員が教授する。	共同
		周産期看護実習Ⅱ	周産期において正常な経過から逸脱した母子と家族に対し、医師および他職種との協働したアセスメント能力と実践能力を養い、ケアの質の評価と向上を自律的に目指せる能力を養う。また、臨床現場のダイナミズムの中で、ケア提供における相談活動、リーダーシップが発揮できる能力を養う。さらに周産期ケアの創造変革改善のための研究課題を見出し、研究的なアプローチを実践の場で修得する。以上の内容を看護師・助産師・産婦人科医師としての実務経験のある教員が教授する。	共同
		周産期看護実習Ⅲ	周産期における複雑な健康問題・生活状況にある母子と家族が抱える健康問題・倫理的問題を判断し、その解決に向けて調整を行い、退院に向けて他職種と協働する能力を養う。また、臨床の抱える教育ニーズを分析し教育活動を通して問題解決をする能力を養う。以上の内容を看護師・助産師・産婦人科医師としての実務経験のある教員が教授する。	共同
NPコース	NP基盤科目	臨床推論Ⅱ	（概要）「臨床推論Ⅰ」（プログラム共通科目・B群共通科目）の講義をもとに、コミュニケーション技法に生かす力を養い、ロールプレイによる演習を行う。また看護の実践において、様々な医療情報や統計データに対応するために、基本的な統計的手法やデータ分析法を学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （89 北 啓一郎/11回） ロールプレイによる演習 （98 高倉 恭子/4回） 統計的手法とデータ分析法	オムニバス
		フィジカルアセスメント特論	共通科目における講義「フィジカルアセスメント」をもとに、対象者とその状況に応じた具体的なアセスメントができるような能力を身につける。特に小児・高齢者などの年齢変化にともなうフィジカルアセスメントの知識と対応、および救急あるいは急変時における場面、在宅医療での場面に応じた身体診察技術について学修して、応用できる能力を身につける。	
		疾病・臨床病態概論	頻度の高い主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ。循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患等、プライマリ・ケアの場において遭遇することの多い主要な疾患・症状に対しての、病態生理、臨床像、治療について専門医師より基本的知識を学ぶ。また救急医療・在宅医療など状況に応じた臨床診断・治療を学ぶ。救急患者への対応や重症化予防の重要性を理解し、臨床診断・治療の特性に応じた治療を実践できる能力を培う。また、在宅医療において主要な病状の病態生理に基づいて、基本的な診察面接・身体診察・救急蘇生（Basic Life Support）の実際を学ぶ。 （オムニバス方式/全30回） （43 金森 昌彦/25回） クリティカル・ケアの病態（循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患・整形外科疾患・救急外傷） （150 石木 学/5回） プライマリ・ケアの病態（糖尿病、がん、認知症など）	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護科学プログラム	NPコース NP基礎科目	アドバンスプラクティス基礎特論 NPの役割や責任に係る基本的な事項を学ぶとともに、特定行為に係る看護師の研修制度創設の背景と経緯、制度の概要から、医師法、保健師助産師看護師法、特定行為に係る看護師の研修制度の関連法規等を学ぶ。また、特定行為実践に関連する患者への説と意思決定支援の理論を学修する。特定行為研修を修了した看護師が担うべき役割について学修し、特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践（Inter Professional Work:IPW）（他職種との事例検討等の演習を含む）を学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） (43 金森 昌彦/13回) NPの役割や責任、看護師の研修制度創設の背景と経緯・制度の概要、医師法、多職種協働実践 (42 田村 須賀子/1回) 看護政策論、わが国の社会保証制度 (95 二川 香里/1回) 看護教育論	オムニバス
	アドバンスプラクティス基礎実習Ⅰ	「NPの役割と責任に関する科目」として、NPの役割に付随した特定行為について、医師が看護師に特定行為を行わせるための「患者の病状の範囲」「診療の補助の内容」の指示として作成する文書である手順書の位置づけを学ぶ。手順書の作成、使用する手順書の妥当性の検討及び手順書の見直し等評価と改良の手法を実践する。特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程ならびに看護倫理に関する事例も含めて統合的に学修する。他にも特定行為に関連する人体の構造と機能について学び、簡単な縫合と結紮方法を修得する。 （全15回／共同2回） (43 金森 昌彦/11回) NPの役割と責任に関する科目について学ぶ。また特定行為に関連する人体の構造と機能について学び、簡単な縫合と結紮方法を学ぶ。 (1 一條 裕之・43 金森 昌彦/共同2回) 解剖棟での実習について学ぶ。 (37 西谷 美幸/2回) 看護倫理事例検討実習	共同（一部）
	アドバンスプラクティス基礎実習Ⅱ	NPの役割に付随した、特定行為について、医師や歯科医師が看護師に特定行為を行わせるための「患者の病状の範囲」「診療の補助の内容」の指示として作成する文書である手順書の位置づけを学び、手順書の作成演習、使用する手順書の妥当性の検討及び手順書の見直し等評価と改良の手法を実践する。特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を統合的に学修する。	
	医療安全学	特定行為実践に関連する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質の保証について基本的な考え方を学ぶ。 1. 医療倫理：特定行為と患者の権利・医療安全 2. 医療管理：特定行為における医療マネジメント、法規制 3. 医療安全：特定行為における組織・個人・患者・家族と医療安全 4. ケアの質の保証：医療安全との関連、医療訴訟との関連、医行為との関連	
	NP専門科目	アドバンスプラクティス特論Ⅰ （概要）特定行為における、呼吸器（気道確保に係るもの）関連1行為、創傷管理関連「褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去」1行為、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連2行為、感染に係る薬剤投与関連1行為、感染に係る薬剤投与関連1行為、循環動態に係る薬剤投与関連5行為の実践に必要な基本的知識を身につける。 （オムニバス方式／全45回） (43 金森 昌彦/21回) 呼吸器機能、循環器動態、創傷管理 (39 安田 智美/9回) 褥瘡又は慢性創傷の治療行為 (90 吉井 美穂/15回) 感染対策、感染治療、水分管理、栄養管理	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護科学プログラム	N P コース N P 専門科目 アドバンスプラクティス特論Ⅱ	(概要) 特定行為における、呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連4行為、栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連1行為、創部ドレーン管理関連1行為、動脈血液ガス分析関連「直接動脈穿刺法による採血」1行為、透析管理関連1行為、術後疼痛管理関連1行為の実践に必要な基本的知識を身につける。特に急性期領域の患者に対応する知識能力を身につける。 （オムニバス方式／全30回） (43 金森 昌彦/18回) 急性期医療、呼吸器、栄養、創部管理、疼痛管理 (166 小池 勤/6回) 腎透析管理 (167 川上 正晃/6回) 動脈血ガス分析	オムニバス
	アドバンスプラクティス特論Ⅲ	(概要) 特定行為における、呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連1行為、ろう孔管理関連「胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換」1行為の実践に必要な基本的知識を身につける。特に慢性期領域の患者に対応する知識能力を身につける。 （オムニバス方式／全8回） (92 山田 理絵/3回) 呼吸器関連行為 (98 高倉 恭子/4回) 在宅医療、胃ろう関連行為 (80 安田 剛敏/1回) 慢性期医療	オムニバス
	アドバンスプラクティス演習Ⅰ	(概要) 特定行為における、呼吸器（気道確保に係るもの）関連1行為、創傷管理関連「褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去」1行為、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連2行為、感染に係る薬剤投与関連1行為、感染に係る薬剤投与関連1行為、循環動態に係る薬剤投与関連5行為の実践において、医師の指示の下、手順書により、身体所見および検査結果などが医師から指示された範囲内であることを確認し、特定行為が実施できる能力を身につける。 （オムニバス方式／全23回） (19 芳村 直樹/ 10回) 呼吸器関連行為 循環動態に係る薬剤投与関連行為 (90 吉井 美穂/ 7回) 感染に係る薬剤投与関連行為、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連行為 (43 金森 昌彦/ 6回) 創傷管理関連	オムニバス
	アドバンスプラクティス演習Ⅱ	(概要) 特定行為における、呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連4行為、栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連1行為、創部ドレーン管理関連1行為、動脈血液ガス分析関連「直接動脈穿刺法による採血」1行為、透析管理関連1行為、術後疼痛管理関連1行為の実践において、医師の指示の下、手順書により、身体所見および検査結果などが医師から指示された範囲内であることを確認し、特定行為が実施できる能力を身につける。 （オムニバス方式／全8回） (43 金森 昌彦/4回) 呼吸器関連行為、中心静脈カテーテル管理関連行為、創部ドレーン管理関連行為、術後疼痛管理関連行為 (98 高倉 恭子/2回) 疼痛管理関連 (166 小池 勤/1回) 透析管理関連行為 (167 川上 正晃/1回) 動脈血液ガス分析関連行為	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護科学プログラム	N P コース N P 専門科目	アドバンスプラクティス演習Ⅲ	オムニバス
		アドバンスプラクティス実習Ⅰ	オムニバス
		アドバンスプラクティス実習Ⅱ	オムニバス
		アドバンスプラクティス実習Ⅲ	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護科学プログラム NPコース NP専門科目	アドバンスプラクティス総合実習	<p>(概要)・NP教育連携協定病院における実習において経験した患者のその後の経過観察、さらに実習記録作成と報告書作成などを行う。チーム医療の一員として知識、技術の研鑽を行う。</p> <p>・臨床実習を通して実践課題を設定し、医師との連携のもと課題解決をしていく方法を学ぶ。</p> <p>・NPとして活躍する意義と役割について、実践課題を通して習得する。</p> <p>・アドバンスプラクティス実習I～IIIにおいて十分に修得できなかった領域を補完する個別的な目的にも対応できるように、個人の希望に応じて、連携病院を選択できるようにして総合実習を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全90回で、下記を基本とするが、個別の目的への対応、連携病院での実習なども取り入れることを可能とする)</p> <p>(43 金森 昌彦/15回) NP総合実習 (86 若杉 雅浩/10回) 救急部における総合実習 (165 朴木 久恵/10回) 糖尿病関連の総合実習 (74 八木 邦公/10回) 糖尿病関連の総合実習 (22 川口 善治/10回) 整形外科領域の総合実習 (80 安田 剛敏 /10回) 慢性創傷関連の総合実習 (19 芳村 直樹/5回) 循環器領域の総合実習 (166 川上 正晃/5回) ICU領域の総合実習 (165 小池 勤/5回) 透析管理関連の実習 (23 中島 俊彰/5回) 術後疼痛管理関連の実習 (20 藤井 努/5回) 外科領域の実習</p>	オムニバス
	アドバンスプラクティス実践課題研究	<p>アドバンスプラクティス実習での経験をもとにテーマを策定し、文献ならびに科学的な方法を用いて、結果、考察を導き出し、修士論文に値する課題研究を行う。研究指導は指導的立場の看護教員ならびに医師が協働して行う。</p> <p>(38 八塚 美樹) 在宅・慢性領域におけるNPの役割と責任、意思決定支援、チーム医療、多職種連携等に関する課題に対する研究指導を行う。</p> <p>(39 安田 智美) 排泄機能障害を持つ人の社会復帰に関する研究及び褥瘡予防、創傷ケアに関する研究指導を行う。</p> <p>(43 金森 昌彦) 医療行為実践における課題研究指導</p>	
基礎薬学プログラム プログラム専門科目(序論)	薬学経済序論	<p>(概要) 医療の重要課題のひとつは、医療費であり、医療費のうちで薬剤費の占める割合についても熟慮すべき問題である。また、日本の医療経済のみならず、世界の医療経済の動向を把握することも重要である。本講義では、医療人として身に付けておくべき国内外の経済学的トピックスについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(54 酒井 秀紀/2回) 医薬品業界の経済 (148 井上 将彦/1回) 世界の医療経済 (24 林 篤志/1回) 病院経営の実際 (58 新田 淳美/2回) 病院の医療経済 (55 藤 秀人/2回) 薬局の医療経済</p>	オムニバス
	分子化学序論	<p>薬学の基礎として必須の分子化学について、基礎有機化学(学部程度)の知識を基に、発展的な有機化学を学ぶ。次の3つのテーマに絞って、講義する。</p> <p>1) ヘテロ原子の特性とその利用(リンと硫黄、ホウ素とケイ素、フッ素、超原子価ヘテロ原子) 2) 活性中間体の種類、性質とその利用(ラジカル、カルベンとニトレン) 3) 付加環化反応の種類、特徴とその利用(Diels-Alder反応、1,3-双極付加環化反応)</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎薬学プログラム専門科目(序論)	生物物理学序論	<p>(概要) タンパク質、生体膜を含む生物分子や医薬品の生物学的機能を分子レベルで理解するために必要な分析手法や、それによって得られる情報についての基礎知識を身につける。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(53 水口 峰之/2回) タンパク質の物性を解析するために必要な基礎的知識, タンパク質と医薬品の相互作用を解析するために必要な基礎的知識 (47 友廣 岳則/1回) 生体膜中のタンパク質、ペプチドの機能を解析するために必要な基礎的知識 (52 中野 実/1回) 生体膜や脂質分子集合体の物性を解析するために必要な基礎的知識 (110 帯田 孝之/1回) タンパク質の立体構造を解析するために必要な基礎的知識 (100 谷本 裕樹/1回) 生体分子機能化および生体分子相互作用解析に必要な基礎的知識 (109 池田 恵介/1回) 生体膜や脂質膜の動的特性と機能を解析するために必要な基礎的知識 (102 千葉 順哉/1回) 創薬を対象としたプロテオミクス研究に必要な基礎的知識</p>	オムニバス
	薬理薬剤学序論	<p>(概要) 薬はヒトを含めた生体へ様々な作用を示す。その基盤となる薬力学ならびに薬物動態学の観点から、生体機能の薬理薬剤的調節機構の基礎を理解し、様々な疾患に対する治療戦略を最近の研究結果から学修する。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(46 久米 利明/2回) 薬理学基礎, 脳疾患や痛み・痒みの関連する疾患の発症とその治療法開発研究 (56 笹岡 利安/1回) 内分泌関連疾患に関する病態・治療 (58 新田 淳美/1回) 精神・神経疾患の現状と治療戦略 (45 細谷 健一/2回) 薬剤学基礎, 生体関門機構と薬物体内動態 (55 藤 秀人/1回) 生体リズム・薬物間相互作用と薬物体内動態 (57 橋本 征也/1回) 薬物体内動態の個体差</p>	オムニバス
	分子細胞生物学序論	<p>細胞は生命の基本単位であり、正常な細胞機能や統合された細胞間コミュニケーションにより生物個体の恒常性が維持される。一方、疾患は様々な細胞や生体分子の機能異常や破綻により引き起こされる。本講義では、これまで学んできた生化学、細胞生物学、免疫学などの知識を基礎として、細胞の機能調節のしくみ、免疫、炎症、がんに関する分子機構など、健康と病気に関する制御機構を分子、細胞、個体レベルで学ぶ。細胞の恒常性維持と疾患の分子病態を理解し、それぞれの疾患に対する治療戦略を最近の研究結果から学ぶ。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(50 宗 孝紀/2回) TNF ファミリーによる疾患制御, T 細胞免疫制御 (64 早川 芳弘/2回) がんと免疫, がんモデルマウスの作製と応用 (106 守田 雅志/2回) ペルオキシソーム-多彩な機能をもつ細胞内小器官- (116 渡辺 志朗/2回) 脂肪酸, 胆汁酸による細胞制御</p>	オムニバス
	応用天然物化学序論	<p>薬学領域における天然物化学の重要性について理解を深めるため、天然物化学の歴史、発展の経緯、研究の進展ならびに現代科学における位置付けについて概説する。また天然物の医薬資源としての活用例や重要性、研究手法を含めた天然物研究の進展について講義する。さらに植物および微生物における天然物の生合成メカニズムおよび生理的意義、これを活用したバイオテクノロジーについて解説する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎薬学プログラム科目	プログラム専門科目(序論)	<p>応用和漢医薬学序論</p> <p>(概要) 漢方薬学の基礎、漢方医学の基礎と理論、生薬の品質保証と活用方法などについて学ぶ。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(113 當銘 一文/2回) 漢方薬学の基礎、和漢薬の有効成分と薬効の変動要因 (67 柴原 直利/2回) 漢方医学的病態と自律神経系との関連性、漢方薬の効果と生薬の品質との関連性 (60 加藤 敦/2回) 創薬の観点から見た天然物の利用、特定機能性食品開発の観点から見た天然物の利用 (66 小泉 桂一/1回) 漢方薬のワクチンアジュバントとしての応用 (115 東田 道久/1回) 和漢統合薬理学</p>	オムニバス
	プログラム専門科目(特論)	<p>分子化学特論</p> <p>現在の医療で使用されている医薬品のうち、多くが有機合成によって製造されている。有機合成化学の進歩は目覚ましく、日々新規な手法や試薬が報告されている。本特論においては、最新の有機合成の方法論として立体化学を制御した精密有機分子構築法や、種々の有機合成反応を駆使したターゲット化合物の全合成等について学修する。</p>	
	プログラム専門科目(特論)	<p>分子設計学特論</p> <p>本講義では、蛋白質立体構造情報を用いた医薬品の設計、人工合成経路を用いて生産した医薬品とその生産法、人工合成経路の構築とアルカロイド生産、ポリケチド生産及びメロテルペノイド生産への応用、酵素触媒機構の改変と応用、遷移金属と軌道、結晶場理論、配位子場理論、18電子則、遷移金属触媒の素反応、触媒サイクルについて学修する。</p>	
	プログラム専門科目(特論)	<p>生物物理学特論</p> <p>(概要) タンパク質、生体膜を含む生物分子や医薬品の生物学的機能を分子レベルで理解するための先端的な研究手法を理解する。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(53 水口 峰之/2回) タンパク質の物性を解析するための先端的な研究手法、タンパク質と医薬品の相互作用に関する先端的な研究 (47 友廣 岳則/1回) 生体膜中のタンパク質、ペプチドの機能を解析した先端的な研究 (52 中野 実/1回) 生体膜や脂質分子集合体の物性を解析するための先端的な研究手法 (110 帯田 孝之/1回) タンパク質の立体構造に関する先端的な研究 (100 谷本 裕樹/1回) 生体分子機能化および生体分子相互作用解析の先端的な研究手法 (109 池田 恵介/1回) 生体膜や脂質膜の動的特性と機能を解析するための先端的な研究手法 (102 千葉 順哉/1回) 創薬を対象としたプロテオミクス等の先端的な研究</p>	オムニバス
基礎薬学プログラム科目	薬理学特論	<p>(概要) 薬はヒトを含めた生体へ様々な作用を示す。薬理学の観点から、生体機能の調節機構を理解した上で、以下に示す疾患に対する治療戦略を最近の研究結果から学修する。①痛みと痒みの関与する疾患、②消化管疾患の疾患、③糖尿病やその合併症、④精神・神経疾患、⑤薬物乱用 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(46 久米 利明/2回) 脳疾患の発症・病態形成機序とその治療法開発研究、腸管水分・電解質制御機構の病態生理 (56 笹岡 利安/1回) 糖尿性合併症の病態と治療、 (58 新田 淳美/2回) 薬物乱用の現状と対策、精神疾患治療薬開発戦略 (112 恒枝 宏史/1回) インパースアゴニストの特性と薬理学的意義 (128 和田 努/1回) 腸管粘膜免疫系の破綻と疾患、 (99 歌 大介/1回) 痛みおよび痒みの中枢伝達機構</p>	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎薬学プログラム専門科目（特論）	薬物動態学特論	<p>（概要）薬物動態学の進歩は目覚しく、日々新たな薬物トランスポーター、代謝酵素やその遺伝子多形が報告されている。本特論においては、最新の薬物吸収機構、薬物の分布・排泄、相互作用に及ぼす薬物トランスポーター及び代謝酵素の役割とその遺伝子多形の臨床的意義など、薬学の修士課程の学生に必須な知識を学ぶ。</p> <p>最新の薬物体内動態の研究手法やADMEに関する薬物トランスポーター、代謝酵素の役割を理解できる能力を身につける。より高いレベルの薬学研究者を目指す者にとって必要な薬物動態学の知識を習得する。（オムニバス方式/全8回）</p> <p>(45 細谷健一/2回) 生体関門機構と薬物体内動態， トランスポーターと薬物体内動態 (55 藤 秀人/2回) 薬物体内動態の個体差， 生体リズム・薬物間相互作用と薬物体内動態 (57 橋本征也/2回) 循環器官用薬の体内動態， 母集団薬物動態学に基づくPK-PD理論 (59 田口雅登/2回) 薬物代謝酵素と薬物体内動態， 薬動態の最近の話題と総括</p>	オムニバス
	分子生理学特論	<p>人体の組織や細胞がどのような分子の集まりでできているのか、そしてどのようなメカニズムで働いているのか、また膜輸送タンパク質の立体構造と生理機能の関係について、主に上皮細胞を例にとり講義を行う。この講義を通して機能タンパク質の分子生理学を学ぶと共に、病態や新規治療薬の開発につなげるための基礎・実践知識も学修する。</p>	
	遺伝子応用分析学特論	<p>（概要）本講義では、遺伝子制御研究が果たす生理機能や疾患への関与、さらに遺伝子制御研究の応用事例を取り上げ、話題提供や考察を行う。発展の歴史とともに最新の解析技術や遺伝子操作などによって得られた研究成果を専門性の高いホットトピックとして各講師の先生に紹介いただき、ブレインストーミングの場とすることにより遺伝子応用分析学を学修する。（オムニバス方式/全8回）</p> <p>(104 田淵 明子/3回) 神経活動依存的遺伝子発現制御， 神経可塑性を担う遺伝子の発現制御機構 (105 廣瀬 豊/2回) 基本転写因子を含む転写調節機構の包括的研究， 転写後調節：RNAプロセッシングと修飾に関する新潮流 (68 田淵 圭章/1回) 細胞ストレス生物学：細胞ストレス応答の分子メカニズム (10 森 寿/1回) 遺伝子操作マウスを用いた脳機能と病態解析 (73 吉田 知之/1回) 脳神経回路構築を司るマイクロエクソンの取捨選択コード</p>	オムニバス
	分子細胞生物学特論	<p>（概要）細胞内シグナル伝達は、外界からの様々な刺激にตอบสนองして特異的なタンパク質発現を導く生理機能であり、その破綻はがんなど多くの疾患を惹起する。細胞内シグナル伝達の制御では、タンパク質のリン酸化、ユビキチン化など時空間特異的な翻訳後修飾が極めて重要な役割を司る。これまでのシグナル伝達研究は、主に分子細胞生物学的技法によって標的分子の刺激に伴う細胞内動態を解析してきたが、次世代のシグナル伝達研究では新規アプローチを用いた動的かつ網羅的な反応機構解析が必須である。本講義では、最先端のシグナル伝達研究、その応用として実現したがん分子標的治療について現在抱える問題点などを解説する。さらに、臨床の場から求められる次世代のシグナル伝達研究を展望する。（オムニバス方式/全8回）</p> <p>(48 櫻井 宏明/2回) 炎症シグナルによるがん悪性化機構， 増殖因子受容体シグナル研究の最前線 (101 横山 悟/2回) 発がん機構における転写因子の役割， がん分子標的治療の最前線 (66 小泉 桂一/2回) ケモカインによるがん細胞の生体内挙動の制御， 和漢薬による免疫活性化機序とその応用 (118 片桐 達雄/2回) 自然免疫受容体のシグナル伝達と分子疾患制御， 適応免疫受容体のシグナル伝達と分子疾患制御</p>	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎薬学プログラム科目 プログラム専門科目（演習・特別研究）	応用天然物化学特論	本科目では現代科学、特に薬学領域における天然物の医薬資源としての活用例および現代医療における重要性および近年の研究の進展について理解を深める。植物、微生物や海洋生物等の生物活性天然物を由来とする天然物化学やバイオテクノロジーに関連した近年の研究事例や研究手法、さらにその応用について例をあげて講義を行う。	
	薬剤学演習	本演習では、血液組織関門における特性と薬物輸送に関連する国内外の最新の研究成果をまとめ、発表資料を作成する。ゼミナール形式にて発表し、質疑応答、ディスカッションして血液組織関門における特性と薬物輸送の手法と知識を習得し、演習によって輸送手法を身につける。薬物輸送機構解明と組織への薬物送達に取り組みに貢献するための高い専門性を身につける。	
	応用薬理学演習	アルツハイマー病や脳梗塞といった脳神経疾患や痛み・痒みなどの不快な感覚を伴う疾患を中心に、それに関わる病態モデル動物等を利用した研究ならびに薬効評価に関する国内外の最新の研究成果を調査し、その調査結果を踏まえ得たプレゼンテーションと適切な質疑応答を学修する。また、自身の研究テーマに基づいて行った実験のデータを用いてプレゼンテーションを行い、他の学生とともに研究の進め方、データの解釈などについての討論を行う。	
	生体認識化学演習	生理活性物質が標的とするタンパク質の探索法や機能発現する生体物質間相互作用の解析法に関する最新のケミカルバイオロジー研究を調査する。その研究内容に関する報告とディスカッションを通して、その研究における方法論に関する基本原理と新規性を理解すると共に、明瞭で効果的なプレゼンテーションについて学修する。さらに、それら方法論について、推進する薬物候補化合物の創薬ターゲットタンパク質解析法への応用展開の可能性を議論する。	
	がん細胞生物学演習	がん細胞の増殖や転移に関わるシグナル伝達分子である、増殖因子受容体、プロテインキナーゼ、および転写因子の活性調節機構を学修する。特に、炎症シグナルによるがん悪性化機構に焦点を当てる。また、がん遺伝子やがん抑制遺伝子の変異による機能の亢進や欠損が、どのような機構で起こるのかを学修する。さらに、近年開発が加速しているがん分子標的薬の作用機序や、それらに対する自然耐性機構や獲得耐性機構を学修する。今後のがん分子標的治療の進展に貢献するために、これらの学術情報を科学的に分析し、統合的に理解する力、討議・発表できる力を身につける。	
	薬化学演習	ケミカルバイオロジー、有機化学、物理有機化学に関連する国内外の最新の研究成果や、自らの研究成果をまとめ、発表資料を作成する。そしてゼミナール形式にて発表し、質疑応答を行う。また、他の学生の発表に対して積極的に質問し、研究の進め方やデータの解釈などについて討論する。これらを通じて、効果的なプレゼンテーションと適切な質疑応答について学修する。さらに、英語でのプレゼンテーションや質疑応答についても同様に学修する。	
	薬品製造学演習	有機合成や有機反応に関する最新の情報を学術論文から得て、それらの詳細について理解を深める。その際、論点を整理してコンパクトに資料にまとめ、それに基づいてプレゼンテーションとディスカッションを行う能力を身につける。また、複雑な分子変換や反応機構、および合成経路立案の考え方について、演習形式にて討論と質疑応答を実施する。これらを通して、医薬品の本体となる有機化合物の合成、反応性、物性等について、専門的知識を涵養する。	
	分子神経生物学演習	本演習では、分子生物学、細胞生物学、生化学的手法等や知識等の習得により、神経活動依存的な遺伝子発現制御に代表される脳機能発現の機構解明に向けた多角的なアプローチ論を展開し、理解する。また、論理的思考力やプレゼンテーション能力向上のため、データの発表とその解釈、質疑応答を含む議論や最新の研究動向について情報収集を行う。上記を実行し、神経疾患の病態解明や治療法の開発に貢献するための高い専門性を身につける。	
	遺伝情報制御学演習	遺伝子発現制御機構について、エピジェネティック制御・転写・mRNAプロセシングの理解を通じ学修する。関連分野の研究について調査し、自らの研究課題の位置付けと課題の解析に必要な実験手法を理解する。解析結果について適切な分析を行い、効果的に周りに伝える資料を作成する。作成資料をもとにグループで議論を行い、解析の問題点と解決方法および新たな課題について考察する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎薬学プログラム専門科目（演習・特別研究）	分子細胞機能学演習	T細胞などの免疫細胞が外界からの刺激に対してどのように応答し、これにより免疫、感染、炎症、がんなどに対する生体応答が制御される仕組みを理解する。生体の恒常性維持の観点から、細胞に発現する分子が、シグナル伝達、代謝反応、オルガネラ機能をどのように調節するかについて、これらの機能の破綻による免疫や神経系などの生体の高次生命システムへの影響がどのように疾患に結びつくかについて理解する。	
	薬用生物資源学演習	薬用生物資源学に関連した国内外の新規性の高い文献を検索して読解し、研究の背景、目的、方法論および科学的新規性について得られた知見を取りまとめる。調査結果について発表およびディスカッションを行うことで、プレゼンテーションおよび質疑応答の能力を涵養する。以上の調査、発表を通じて得られた知見について、自らの研究課題との関連を考察し、研究の遂行に活用する。	
	分子合成化学演習	本演習では、有機化学を題材にして、論理的思考力、プレゼンテーション力、ディスカッション力、展開・応用力を養成する。有機反応および有機合成に関する最新の研究成果を入手し、整理して理解する。整理、理解した知見について他者に発表し、質疑応答する。一方、他者の発表に際しては、発表を傾聴して、理解し、質問する。さらにそれらを自身の研究課題へ展開、応用するための、独自の方法論を見出し、確立していく。	
	生体界面化学演習	教員の指導の下、物理化学、生物物理学、界面化学に関する国内外の最新の研究成果を調査する。 調査結果に関する発表および質疑応答を行い、効果的なプレゼンテーションと適切な質疑応答ができるように指導を受ける。 他の学生の発表に対して、質問、コメントを行い、研究の進め方、データの解釈などについての討論を行う。	
	構造生物学演習	本演習では、タンパク質の立体構造解析に関する最新の研究を調査し、プレゼンテーションと質疑応答を行う。特に、疾患の発症メカニズムの解明と創薬を目指した研究を中心に演習を行う。学術誌に掲載された最新の研究内容について、どのようにデータを得たのかを調査するとともに、結果の解釈や研究成果の学術的意義に関するディスカッションを行う。	
	薬物生理学演習	細胞膜に発現し、細胞内外のイオン・物質環境の恒常性維持やシグナル伝達機構等に関与する「膜輸送タンパク質」をターゲットとする薬物の作用機序について、分子生理学および生物物理化学的観点から学術論文や実験を通して学ぶ。特に、イオン輸送タンパク質（イオンチャネルやイオンポンプ）を標的とし、臨床的に用いられている薬物に焦点を当て、その作用を可視化して学修する。	
	医療薬学演習	時間薬理学や薬物動態学、臨床薬理学を中心とした医療薬学分野に関する研究に関する国内外の最新の研究成果を調査し、その調査結果を踏まえ得たプレゼンテーションと適切な質疑応答を学修する。さらに、これらの調査結果なども応用して、医薬品適正使用を指向した薬物治療法を確立したり、新規医薬品を創生したりしていく。	
	病態制御薬理学演習	生活習慣病の病態基盤に着目して発症メカニズムを理解する。2型糖尿病、高血圧症、脂質異常症の病態に重要なインスリン抵抗性につき、インスリン作用に鍵となる肝臓・骨格筋・脂肪を中心とした生体の各臓器が、脳による統合のもとでどのように関連して病態に関与するかを学び、そのメカニズムに基づいた治療の現況を学修する。本演習により、超高齢化・ストレス社会において生活の質を高めて健康長寿をめざした生活習慣病の新規治療薬の開発展望につき理解を深める。	
	医薬品安全性学演習	臨床薬物動態学に関する学術論文を調査する過程において、内容理解のみならず、批判的吟味を行いながら当該論文の妥当性を客観的に判断し、適切なプレゼンテーションができる能力を身につける。すなわち、研究デザインや統計解析の妥当性、比較する群間のベースラインの同等性、或いはデータ解析に影響を及ぼし得る交絡因子が無いかなど、学術論文の内的妥当性を踏まえながら論文を精読し、論旨について教員や他の学生らと議論する。こうした演習を通じて臨床薬物動態学への関心と理解力を高め、研究指向性を涵養する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎薬学プログラム専門科目（演習・特別研究）	薬物治療学演習	薬物依存や精神・神経疾患の病態・病因について、国際レベルでの新知見を学修する。また、遺伝子関連解析や、遺伝子修飾と疾患発症の関連についても理解を深める。これらの知識を修得し、プレゼンテーション能力を高め、最新の学術論文を紹介できるようにすることが目標である。また、英語でのプレゼンテーションや質疑応答の能力も涵養する。修了時には、世界のいずれの研究施設や医療機関においても、理論的に研究や医療を推進できるようにする。	
	臨床薬剤学演習	国内外の糖質生化学に関する国内外の最新の研究成果を調査する。特に糖タンパク質や糖脂質の生合成や代謝異常に起因する疾患に関連した創薬研究の調査結果に関する発表および質疑応答などを行い、今後の研究の進め方やデータの解釈などについて学修するとともにプレゼンテーション能力を高める。本演習を通して、糖質生化学関連領域の発展に寄与する研究者・教育者・技術者として必要な専門知識、コミュニケーション能力を身に付ける。	
	製剤設計学演習	近年の製剤設計技術はますます高度化・細分化してきており、最新の製剤研究を常に更新つづけることが重要である。そこで、国内外の最新研究(新しいDDS製剤、デバイス、製造技術、分析技術、データ解析技術などの製剤研究)の調査を実施し、調査結果に関する発表および質疑応答などを行う。そのような演習を通して、製剤学関連領域の発展に寄与する研究者・教育者・技術者として必要な専門知識やコミュニケーション能力を身に付ける。	
	資源科学演習	天然資源を、持続性を担保しながら医薬品として有効に利用するためには、薬用資源植物の開発と同定、含有成分の網羅的分析、薬効成分の単離・同定が必要である。また、多成分系薬物である生薬の真の活性成分を解明するためには、生体への投与後の代謝成分を解明する必要がある。これらを行うための遺伝学・天然物化学・分析化学による研究手法を身につける演習を行う。	
	天然物創薬学演習	天然資源からの化合物の単離方法や各種スペクトル分析を用いた化学構造の決定法、及び天然化合物の生合成に関わる酵素の機能同定などについて、薬学の修士課程の学生に必須な知識を学ぶ。また、自らの研究成果をセミナーにて発表し、かつ他人の研究成果についても聞いて互いに討論し合うことで、効果的なプレゼンテーション能力と客観的かつ多角的に研究結果を分析できる能力を習得する。	
	神経機能学演習	神経系の機能や脳機能に関する研究、および神経疾患の新しい治療戦略に関する最新の研究を調べ、特に革新的で独創的な方法や発見について読み解き考察することで、有意性や問題点の判断を行う。それらを自らの研究の「計画立案⇒結果の解釈⇒考察と次の実験への展開⇒論文執筆」を論理的に進めることのできる能力として、フィードバックさせる。演習の際の、資料の作成と発表・ディスカッションは、日本語と英語それぞれで行い、論理性とグローバルコミュニケーション能力を習得する。	
	生体防御学演習	がん・炎症・アレルギー・代謝性疾患など、多様な疾患に関わる生体防御機構について、特に免疫応答や代謝システムに着目して最新の研究手法について調査学習し、その成果を発表し議論する。さらに生体防御機構をターゲットにした疾患制御の方法、薬剤開発に向けた課題について学ぶ。これらの演習を通じて最終的に和漢薬の生体防御機構及ばす効果やその応用について総合的に学ぶ。	
	複雑系解析演習	生活習慣病の治療戦略を構築するにあたり、その複合的な病因の解明が必要である。また、和漢薬の効果も複雑な作用によるものであり、和漢薬による病態改善作用を理解するために必要な複雑系解析の手法を身につける演習を行う。生活習慣病病態モデルマウスを利用した最新の研究を調査し、その内容についてプレゼンテーションするとともにディスカッションを行う。生活習慣病病態モデルマウスや培養細胞を使う生活習慣病の病因となる分子メカニズムや和漢薬の作用機序を解明するための研究手法を習得する。遺伝子発現量、タンパク量、代謝産物量などの網羅的解析データを個別に解析するだけでなく、統合的に解析するデータ解析手法も習得する。最終的に和漢薬による生活習慣病改善効果について、習得した研究手法を駆使し得られた実験データを考察し、プレゼンテーション、ディスカッションを経て、論文作成を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎薬学プログラム科目 （演習・特別研究）	複雑系解析演習	未病状態の生物学的な理解を深め、さらに未病に対する治療方法を構築するために、免疫や代謝に関する研究戦略や数学的な解析手法を学ぶ。さらに、和漢薬の未病に対する治療効果を理解するために、実際に、各種生薬を煎じて和漢薬を作製、各種疾病モデル動物に投与、その効果を解析することで、和漢薬および含有成分の効果機序を学ぶ。	
	生物学演習	生物の特性である自己非自己認識の機構を標的とする薬物開発を視野に、細胞および分子のレベルで探索する実験を行う。具体的には実験動物(マウス)の扱い方、株化細胞の継代維持・凍結保存の技術および無菌操作技術、細胞内シグナル伝達分子の生化学的解析技術(電気泳動・ウェスタンブロッティング・酵素活性測定・細胞内カルシウム測定等)を習得する。学生は基礎技術の習得後、自らの研究成果と関連する国際的な最新の研究成果をまとめる演習を行う。さらに研究結果まとめた資料を作成し日本語および英語で発表およびディスカッションする演習を行う。最終的に学生は自らの実験結果より、考察、プレゼン、ディスカッション、更なる考察をへて論文をまとめる。	
	ゲノム機能解析演習	細胞は、様々なストレス環境に適応するためにストレス応答システムを有している。本演習では、骨折治療に応用されているメカニカルストレスやがん温熱療法(ハイパーサーミア)に応用されている熱ストレスに対する細胞応答に関して、遺伝子やタンパク質レベルで詳細に解析する。これらに関する最新の研究情報を学術論文や学会等からタイムリーに入手し、得られた研究成果の参考とする。これらのストレス応答について報告や討論を行い、本研究領域や関連する疾患に関して理解を深める。	
	薬科学特別研究	薬科学関連領域の課題解決を目指して、各研究室において、研究テーマの設定、分析・調査、実験計画の立案・遂行、実験結果の科学的考察について指導を行う。セミナー等を定期的で開催して、研究内容の発表および質疑応答を行い、効果的なプレゼンテーションと適切な質疑応答ができるように指導するとともに、最終年度の研究業績発表会での発表、修士論文作成のための指導を行う。 (45 細谷 健一) 血液網膜関門や血液脳関門などの血液組織関門を題材とし、薬物動態学および生物薬剤学に基づく多角的な観点から薬物輸送機構を解明に向けた研究指導を行う。 (46 久米 利明, 99 歌 大介) マウスやゼブラフィッシュといった実験動物を用いて、中枢神経疾患克服に関する課題の研究指導を行う。 (47 友廣 岳則, 100 谷本 裕樹) 相互作用する生体分子の化学標識、および生理活性物質の標的タンパク質探索における課題解決に向けた研究指導を行う。 (48 櫻井 宏明, 101 横山 悟, 118 片桐 達雄) がん細胞の増殖や転移に関わるシグナル伝達分子や転写因子の役割に関して、研究の実践、指導を行い、がん分子標的治療への応用に向けた課題について論文指導を行う。また、生物の特性である自己非自己認識の機構を標的とする薬物開発に向けた課題について論文指導を行う。 (102 千葉 順哉) ケミカルバイオロジー、物理有機化学、精密有機合成化学に基づく多角的な観点から標的分子を設計し、それを化学合成して物性評価することにより、生体関連分子を題材とした医薬品開発研究に貢献する基礎的研究の指導と、成果の論文作成指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎薬学プログラム専門科目（演習・特別研究）	薬科学特別研究	<p>(49 松谷 裕二, 103 杉本 健士) 有機合成と新反応開発により効率的ターゲット合成の新手法を開拓し、有用な医薬シーズ探索に貢献するための研究指導を行う。</p> <p>(104 田渕 明子) 研究課題「創薬基盤となる神経活動依存的遺伝子発現制御とその破綻による神経疾患の発症機構の解明」の研究指導を行う。</p> <p>(105 廣瀬 豊) 分子細胞生物学的実験手法を用いて、ヒト遺伝子発現における転写および転写後調節機構に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(50 宗 孝紀, 106 守田 雅志) T 細胞などの免疫細胞が外界からの刺激に対してどのように応答し、これにより免疫、感染、炎症、がんなどに対する生体応答が制御される仕組みを理解し、これらが治療や医薬品の開発にどのように結びつくかについて研究指導を行う。また、生化学的、細胞生物学的な実験手法を用いて、ペルオキシソーム病の分子病態の解明と治療薬開発に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(107 田浦 太志) 主に有機化学および生物化学の手法を活用し、植物二次代謝産物を中心とする天然物の単離構造解析、生合成および生物活性等に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(51 矢倉 隆之, 108 南部 寿則) 「環境」と「創薬」に有機化学でチャレンジし、環境調和型有機合成反応の開発研究、生物活性天然物の全合成研究、生理活性化合物の医薬化学的研究の3つの課題の研究指導を行う。</p> <p>(52 中野 実, 109 池田 恵介) 熱力学、速度論、分光学等の生物物理学的手法を用いて、生体界面における分子間相互作用や生体分子の集合挙動の解明と創薬への応用という課題解決に向けた研究指導を行う。</p> <p>(53 水口 峰之, 111 帯田 孝之) 疾患に関与するタンパク質の立体構造解析と機能解析について研究指導を行う。</p> <p>(54 酒井 秀紀, 112 清水 貴浩) 電気生理学的、細胞生理学的、生化学的な手法を用いて、膜輸送タンパク質（チャネル、トランスポーター、ポンプ）の機能解析、膜輸送タンパク質を標的とする薬物の探索等を行うことにより、細胞膜を介するイオン・物質輸送に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(55 藤 秀人) 生体リズムの観点から、病態発症メカニズムの解明や至適投与法の開発するための課題の研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎薬学プログラム科目 （演習・特別研究）	薬科学特別研究	<p>(56 笹岡 利安, 112 恒枝 宏史) 遺伝子改変マウスなどの2型糖尿病モデルマウスを用いて、各臓器での遺伝子発現やタンパク機能の変化を解析することで、生活習慣病の病態基盤に重要なインスリン抵抗性の発症メカニズムの解明に基づいた新規治療法開発課題の研究指導を行う。</p> <p>(57 橋本 征也, 59 田口 雅登) 薬物動態と薬効・毒性の基礎と臨床、特に疾患、薬物併用、遺伝的多型に伴う薬物代謝酵素とトランスポーター機能の変動機構の解析、およびそれに基づく薬物個別投与設計に関する研究指導を行う。</p> <p>(58 新田 淳美) 神経精神薬理、神経生理、臨床化学的な手法を用いて、依存や精神疾患治療薬開発のための課題の研究指導を行う。</p> <p>(60 加藤 敦) 医薬分子設計、糖質生化学、創薬化学の研究手法を用いて、各種リソソーム病に対する最適な薬剤の開発をテーマとした研究指導を行う。</p> <p>(61 大貫 義則) 医薬品開発および製造に役立つ優れた製剤技術および製剤設計手法を構築するための研究指導を行う。</p> <p>(68 田淵 圭章) 分子細胞生物学的な手法を用いて、細胞のストレス応答の課題の研究指導を行う。</p> <p>(62 森田 洋行, 113 當銘 一文, 114 SURESH AWALE) NMRなどの各種スペクトル分析法や生合成遺伝子の解析法を用いて、天然資源から有用化合物を得る課題の研究指導を行う。また、天然物からの抗がん剤開発、天然薬物の化学成分の多様性の解析等を課題とし研究指導を行う。</p> <p>(63 東田 千尋, 115 東田 道久) 難治性神経疾患に対する治療薬の開発や、病態を制御する因子の解明を課題とし、研究の実践、論文指導を行う。また、和漢薬理論に立脚した機能的な精神疾患や心疾患の治療を課題とした研究指導を行う。</p> <p>(64 早川 芳弘, 116 渡辺 志朗) 分子生物学的、免疫学的、生化学的手法を用いて生体防御機構をターゲットにした疾患制御に関する課題の研究指導を行う。また、脂質の定量分析技術を用いて、薬物の作用発現における必須脂肪酸ならびに胆汁酸の役割を知るための研究を指導する。</p> <p>(66 小泉 桂一, 117 奥 牧人) 生物製剤学、和漢医薬学および数理学の手法を用いて、未病状態解明の課題の研究指導を行う。</p> <p>(65 中川 嘉) 複雑系解析の手法を用いて、和漢薬による生活習慣病病態改善に係る課題の研究指導を行う。</p> <p>(67 柴原 直利) 漢方薬作製における生薬及び煎出方法の相違を取り上げ、これらの相違が含有成分抽出に与える影響の課題の研究指導を行う。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。